

052 A13

統計数理研究輯報

第 7 號

假釋放豫測
に関する統計的研究
II

昭和 27 年 2 月

統計数理研究所

東京都世田ヶ谷區三軒茶屋町 10

この輯報は實際問題について準備の段階から計画，実施，処理に到る間に必要な統計數理的考え方，技術を述べたものである。ねらいは實際に役に立つ報告ということである。

之は其の性質からいつて，統計數理の研究者だけでなく，調査，分析等広くこのような実証的な仕事にたずさわる人々の参考となるようにと願つて刊行するものである。

發行所 東京都世田谷區三軒茶屋町十

統計數理研究所

編集責任者 林 知己 夫

印刷所 東京都文京區高田豐川町十三

莊文社印刷所

古 田 義 雄

仮釋放豫測 に関する実證的研究

目 次

第一編	序 説	
第二編	調査の実施	5頁上
第三編	分析の大綱	13頁上
	第一、失敗者グループの諸特性	14頁上
	第二、主として犯致別にみた諸特性	24頁上
	第三、在社会期間の立場からみた 失敗者グループの特性	185頁下
	第四、成功者の実態	227頁下
	第五、失敗者と成功者との比較	258頁下
第四編	附 録	340頁下
	I. —— 調査票と行刑表における記入のちがい	
	II. —— 外国の例についての成功率	
	後 語	350頁下

下巻においては、上巻につき本研究の中核をなすべき部分、成功者との対比の問題をとりあつかふ。 存ほ、附録及び附表をつけておく。

第 三

在 社 会 期 間 の 立 場 か ら み た 失 敗 者 カ ル ー プ の 特 性

我々の研究の究極は失敗、成功者グループをわける要因をみつけることである。

このために両者の比較を行はねばならないが、種々の事情によりさう詳しい資料は成功者については得られない。人権問題にかかはらぬ程度で得られたものについての比較は後にのべる。

成功者は在 社 会 期 間 の 長 い も の で あ る と 言 っ て 考 へ に し た が つ て、失敗者を在 社 会 期 間 別 に 分 類 し、い か なる 要 因 が 在 社 会 期 間 を 長 く し て み る も の で あ る か と 言 っ て し ら べ て み る こ と に し た。

これはひいては成功者、失敗者を分つ要因ともなるであらうと考へられる。

この様な立場で有力要因をみつけておけば、これを成功者についてもしらべ、失敗者と成功者とを分つのにどれが有力であるかと言ふことを能率よく知ることかできる。

この本来の目的へ到達するための第一段階として、在 社 会 期 間 を な か く す る 有 意 な 要 因 を 以 下 分 析 し よ う と 思 っ た。

これは全国的のものでなく時期的にも、場所的にも（刑務所の特色を含めて）偏つたものと思はれるが、一つの準備調査としての意義があると考へられる。

ここでのべることは、第五成功者（制限付きの調査結果）と失敗者との比較にも通ずるところであり併せ読んでいたかきたいところである。

さて、在社期間をかりに a, b, c の三つに分類してのべてみよう。

a, b, c とは

a ----- 2ヶ月未満

b ----- 2ヶ月～ 6ヶ月未満

c ----- 6ヶ月以上

である。

1. 基礎的事項

(イ) 年令

在社 \ 年令	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~	計
a	27	19	8	3	5	2	64
b	23	17	8	5	6	1	60
c	17	10	3	2	4	5	41
計	67	46	19	10	15	8	165

老年の方にやや在社がななくなる様に見えるが数が少くこの数字からは何とも言へない。 $\chi^2 = 4.21$ (D.F. 4) で有意な差はみとめられない。

(ロ) 犯数

在社 \ 犯数	2	3	4以上	計
a	34	22	8	64
b	31	18	11	60
c	25	10	6	41
計	90	50	25	165

犯数と在社との間には著しい有意な関係はみあたらない

$$\chi^2 = 1.96 \text{ (D.F. 4)}$$

である。

(ハ) 兵役

兵役	なし	あり	計
a	38	26	64
b	36	24	60
c	22	19	41
計	96	69	165

有無と在社との関係はみあたらない。

(二) 学歴

	小中退	小卒	高小中退	高小卒	中中退	中卒	計
a	4	18	5	26	6	5	64
b	6	15	4	26	6	3	60
c	6	12	2	17	2	2	41
計	16	45	11	69	14	10	165

学歴も強い要因とはみられない。

(ホ) 職業 (本犯行時まつてゐた職業)

	なし	人又主工 徒 食	大工左官	勤 勞	商 人	農	不明	計
a	27	21	8	5	2	0	0	64
b	13	23	9	5	3	6	0	60
c	9	12	3	3	2	7	0	41
計	49	56	20	13	7	14	0	165

定職的のものとはさうでないものにてわけてみると

	なし徒食	人夫土工	其 他
a	35	21	8
b	22	23	15
c	12	12	17
計	69	56	40

となる。

$$\chi^2 = 13.14 \text{ (D.F. 4)}$$

となり a, b, c 別に有意差がみとめられる。次に「なし徒食 + 人夫土工」と「其他の立派な職業」にわけて χ^2

検定を行ふと。

$$\chi^2 = 11.53 \text{ (D.F. 2)}$$

となり a, b, c 別に有意な差がみられ在社期間のながいものは立派な職業についてゐるものが多い。

これからみても犯行時定職あつたものは、在社がながくなつてゐる事をするのである。「なし、徒食」の状態にあらしめてはならない。

(ハ) 知能指数と向性指数 (行刑表から)

知能指数

向性指数

	6A	5C+ 5B	4C	3C- 3D	2D	計		内 3	2	1	正 外	1	2	3	不明	計
a	4	8	20	12	2	48	a		5	11	17	11	3		1	48
b		7	22	11	1	41	b	1	2	8	13	13	3	1		41
c		5	13	9		27	c		4	7	7	8	1			27
計	4	20	57	32	3	116	計	1	11	26	37	32	7	1	1	116

知能、向性によつても在社に対する関係は薄いものと思はれる。

(ト) 家族の状況

(i) 父 母

	父母あり	父実母非	父実母なし	母実父なし	父母なし	父義母なし	計
a	7	1	9	11	20		48
b	11	1	4	9	15	1	41
c	7	3	3	8	6		27
計	25	5	16	28	41	1	116

父母ないものと、あるものとは差がみられる。

かりに下の様にまとめてみると

	父母あり + 母実 + 父実	父母なし -	計
a	28	20	48
b	25	15	40
c	21	6	27
計	74	41	115

となる。

χ^2 検定を行ふと

$$\chi^2 = 2.89 \text{ (D.F. 2)} \text{ となり}$$

a, b, c 間に有意な差はみとめられない。

(ii) 婚姻の有無

婚姻	あり	なし	昔あり今なし	計
a	5	47	12	64
b	8	35	17	60
c	14	18	9	41
計	27	100	38	165

婚姻してあるものは在社な
かくなることを知る。

$$\chi^2 = 16.07 \text{ (D.F. 4)}$$

で有意差がみとめられる。

これは有力な要因と思はれる。

(iii) 子の有無 (行刑表)

	子あり	それ以外	計
a	7	41	48
b	5	36	41
c	8	19	27

である。 $\chi^2 = 3.80 \text{ (D.F. 2)}$

で有意差はみとめられない。

(4) 趣 味

(i)

(ii)

喫煙の程度	多	中	少	ナシ	計	飲酒の程度	多	中	少	ナシ	計
a	9	39	10	6	64	a	12	17	16	19	64
b	11	35	8	6	60	b	11	15	13	21	60
c	7	27	4	3	41	c	11	10	8	12	41
計	27	101	22	15	165	計	34	42	37	52	165

(iii)

賭博の程度	多	中	少	ナシ	不明	
a	9	9	8	36	2	64
b	10	7	12	31		60
c	7	8	4	22		41
計	26	24	24	89	2	165

表明せられてゐる限りに
おいてはたいして問題に
ならない。

2. 犯 罪 関 係

(1) 最初の不良行爲の有無

在社	不良行爲 あり ¹⁾	なし	計
a	28	36	64
b	27	33	60
c	20	21	41
計	75	90	165

これは有力な要因とはなつて
ゐない。

(ロ) 罪 質

これは前犯について行ふ。

罪質 在社	窃盗	詐欺	恐喝	強盗	引当物	殺人未遂	傷害	計
a	58	4	1		1			64
b	50	5	1	1	1	1	1	60
c	31	8	1		1			41
計	139	17	3	1	3	1	1	165

窃盗とそれ以外としてみると $\chi^2 = 4.3.2$ (D.F. 2) と有り、有意な差はみとめられない。

罪質 在社	窃盗	詐欺	恐喝	強盗	横領	政令反	引当物	計
a	55	3	1	5				64
b	48	5	2	3			2	60
c	29	6	1	1		1	2	41
計	132	14	4	9	1	1	4	165

註. 参考のため本犯のをとるとみると上の様になる。前犯のと似た結果である。

(7) 犯 罪 地 (コード第二参照)

前犯	Code							計	Code							計	
	1	2	3	4	5	6	7		1	2	3	4	5	6	不明		
a	25	9	10	12	2		6	64	a	31	10	10	5	1		7	64
b	18	8	11	6	3	2	12	60	b	26	11	8	5		1	9	60
c	11	10	8	5	3		4	41	c	13	11	10	2	1		4	41
計	54	27	29	23	8	2	22	165	計	70	32	28	12	2	1	20	165

これは強い要因とはならない。

Code. 1.住宅地 2.商店繁華街 3.町はずれ農業地
4.工場会社学校 5.倉庫 6.その他 7.不明

(二) 共犯の有無

前犯

本犯

	共犯あり	なし	計		あり	なし	計
a	19	45	64	a	21	43	64
b	17	43	60	b	23	37	60
c	13	28	41	c	12	29	41
計	49	116	165	計	56	109	165

これもたいした関係はみとめられない。

註、本犯についてみると上表の様である。

(ホ) 動機

前犯

	0	1	2	3	5	6	7	8	9	10	11	13	14	15	16	17	計
a	14	1		2	1	4	8	1	10	12	1	5		4	1		64
b	10			1	5	1	2	3	10	17	1	3	1	4		2	60
c	9				2	1	1		10	12		3		3			41
計	33	1		3	8	6	11	4	30	41	2	11	1	11	1	2	165

この表からは、特異なものは見当らない。

註、本犯について

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	13	15	16	17	無答	計
a	10	1		1		1	2	13	1	4	14	5	2	6	1	2	1	64
b	10			3		2	2	8	3	7	17	2	2	4				60
c	10	1		1		1	2	1		8	15	1	1					41
計	30	2		5		4	6	22	4	19	46	8	5	10	1	1	1	165

(ハ) 当時の生活環境

前犯

Code	1	2	3	5	6	7	8	9	11	12	17	該当外	計
a		8	13	2	15	1	6	17			1	1	64
b		12	11	6	11	2	9	8	1				60
c	1	4	10	5	6		8	5		1	1		41
計	1	24	34	13	32	3	23	30	1	1	2	1	165

これによる差はみとめられない。

註. 本犯

Code	1	2	3	4	5	6	7	8	9	11	12	17	18	該当外	計
a		4	10		4	11	1	3	27			1	1	2	64
b		4	16		3	15		10	10	1	1				60
c	1	5	14		3	8	2	2	4		2				41
計	1	13	40		10	34	3	15	41	1	3	1	1	2	165

同様な傾向である。

- | | |
|-------------|------------|
| Code. 1. 良い | 8. ぶたもの酌生活 |
| 2. 普通 | 9. 放浪中 |
| 3. 生計困難 | 11. 健康わるし |
| 5. 徒食 | 12. 自棄的 |
| 6. 職あり | 17. 環境わるし |
| 7. 職なし | 18. 出所后すぐ |

3. 犯罪心理関係

(1) どのような気持で犯行するに到ったか

前犯

Code 在社	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
a		26	13	7	4	2	1	6	5			64
b	1	17	14	2	9	1	3	7	5	1		60
c	2	10	8	5	7	2		4		2	1	41
計	3	53	35	14	20	5	4	17	10	3	1	165

有意差はみられない。

Code. 0. 無答

1. 欲望の充足のみ（唯うまく思ふ事が達せられるとよい）
2. 道徳感の弛緩（やらぬは食べられぬ）
3. 現に金、もうけ（それによる将来の社会生活を考へてある）
4. 積極的に悪いという感情なし
5. 悪いとはしりつゝ
6. 復讐反感
7. フラフラ
8. やけ
9. わからない
10. 理由なし

(10) 犯行時どんな気持であつたか。

- (イ)無頓着 (ロ)無関心 (ハ)愉快 (ニ)不愉快 (ホ)恐怖 (ヘ)無中
(ト)その他

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	無答	計
a	5	6	1	5	20	27		64
b	10	8	2	5	11	23	1	60
c	6	6	2	3	10	14		41
計	21	20	5	13	41	64	1	165

特異なものはない。

註. 本犯の をみると

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	無答	計
a	8	5		8	12	31			64
b	8	9	3	5	12	21	1	1	60
c	3	5	3	8	8	11	1	2	41
計	19	19	6	21	32	63	2	3	165

(ヘ) とそれ以外でみると $\chi^2 = 4.61$ (D.F. 2) で有意差はみられない。

(ハ) 犯行後の心理状態はどうかであったか

a. 意識状態について

(イ) 唯夢中であつた (ロ) 自己意識がしうかりしてゐた。

(ハ) 何とも言えぬ (ニ) わからない

Code	イ	ロ	ハ	ニ	不明	その他	計
a	32	17	10	5			64
b	24	23	4	6	2	1	60
c	17	15	8	1			41
計	73	55	22	12	2	1	165

$\chi^2 = 2.91$ (D.F. 4) で有意差はない。

b. 愉快さについて

- (イ)非常に愉快 (ロ)少し愉快 (ハ)感じない (ニ)少し不愉快
(ホ)非常に不愉快

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	不明	計
a	1	10	8	29	16		64
b	3	9	12	27	7	2	60
c	2	5	10	11	11	2	41
計	6	24	30	67	34	4	165

(ハ)とそれ以外として $\chi^2 = 2.94$ (D.F. 2) で有意差はみとめられない。

c. 恐怖について

- (イ)大いに感ず (ロ)少し感ず (ハ)感じない (ニ)何とも言へぬ

	イ	ロ	ハ	ニ	不明	計
a	25	32	5	2		64
b	21	21	15	1	2	60
c	14	13	10	1	3	41
計	60	66	30	4	5	165

(ハ)とそれ以外として

$$\chi^2 = 8.37 \text{ (D.F. 2) で,}$$

これより大なる値の出る確率は 1% と 2% の間にあり、
(イ)と答へるものの方が在社が
ながい傾向がみられる。

d. 良心に対して

- (イ)非常に良心から答められた (ロ)少し (ハ)少しも答めない。

	イ	ロ	ハ	不明	計
a	31	28	5		64
b	26	27	6	1	60
c	19	19	2	1	41
計	76	74	13	2	165

(イ), (ロ), (ハ)と在社との関係は、
みあたらない。

e. 圧迫感について

(イ) ホットした (ロ) 感じない (ハ) 何か重苦しさを感じた。

	イ	ロ	ハ	少し 感じた	不明	計
a	22	4	38			64
b	16	15	27	1	1	60
c	11	6	22	1	1	41
計	49	25	87	2	2	165

$$\chi^2 = 8.91$$

(D. F. 4)

有意差はみ

とめられない。

(ニ) 裁判に対してどう感じたか

(イ) 公平 (ロ) 不公平 (ハ) わからない

前犯

	イ	ロ	ハ	仕方なし	計
a	39	10	15		64
b	34	8	12	1	60
c	26	6	9		41
計	104	24	36	1	165

差は全くみられな
い。

註. 本犯についてみると

	イ	ロ	ハ	不明	計
a	47	12	5		64
b	36	10	13	1	60
c	26	6	9		41
計	109	28	27	1	165

である。これについても差はみられない。早く犯罪を犯したものが裁判に不公平を感ずると言ふ有意的な傾向はみとめられない。

(ホ) 逮捕せられた事に不満を感じているか。

(イ) 強く感じている (ロ) 少し感じている (ハ) 感じていない

前犯

	イ	ロ	ハ	計
a	10	6	48	64
b	13	8	39	60
c	5	5	31	41
計	28	19	118	165

(イ)+(ロ) と (ハ) にわけてみると;

$$\chi^2 = 1.97 \text{ (D.F. 2)}$$

で有意差はみとめられない。

註、本犯

	イ	ロ	ハ	不明	わからぬ	計
a	12	7	44		1	64
b	10	3	47			60
c	6	2	32	1		41
計	28	12	123	1	1	165

$$\chi^2 = 1.79 \text{ (D.F. 2)}$$

で有意差はみられない。(本犯)

(ハ) 刑罰に対して

(イ) もうこりこりした (ロ) あきらめてゐる (ハ) 大したことはない。

	イ	ロ	ハ	感じない	無答	あきらめられぬ	計
a	27	35	1			1	64
b	32	25	2	1			60
c	19	19	2		1		41
計	78	79	5	1	1	1	165

$$S_{\frac{1}{2}}^2 = 0.0019 \text{ 判別値 } 1.23$$

で、有意差はみとめられぬ。

註、本犯についてみると

$$S_{\frac{1}{2}}^2 = 0.0017 \text{ 判別値 } 1.28$$

で有意差はみられない。

本 犯

	イ	ロ	ハ	あきらめ られぬ	不 服	不 明	計
a	42	21	1				64
b	34	23	1	1		1	60
c	28	11			2		41
計	104	55	2	1	2	1	165

註. 以上の様な心理的なものについては強い要因を見つけることは出さなかつた。これは質問の dimension がわかったか、又回答が本当でなかつた為か、或は又この様な心理的なものが強い要因とはならぬものであるか、この研究はさらにすすめる必要がある。

4. 前犯受刑中の状態

(イ) 逃 走

	軽 し	普 通	要 視 察	稍 注 意	不 明	計
a		7	34	6	1	48
b		11	23	7		41
c		6	13	5	3	27
計		24	70	18	4	116

$\chi^2 = 2.08$ (D.F. 2)
で、有意差はみとめられない。

(ロ) 拘 禁

	軽 し	強	中	計
a	48			48
b	39	1	1	41
c	26	1		27
計	113	2	1	116

問題にならない。

(ハ) 健康状態

	甲	乙	丙	不明	計
a	22	21	5		48
b	19	18	2	2	41
c	14	9	1	3	27
計	55	48	8	5	116

(ニ) 労働の程度

	重労働	普通	軽労働	不明	計
a	36	11		1	48
b	22	15	1	3	41
c	14	7		6	27
計	72	33	1	10	116

いづれも問題にならない。

(ホ) 改修の情

	無答	あり	稍あり	不明	計
a		47		1	48
b	2	38	1		41
c	1	26			27
計	3	111	1	1	116

(ハ) 社会感情

	無答	普通	稍悪	悪し	稍あり	乏し	乏し	計
a	4	4		37	1	3	1	50
b	3	3	1	30		1	3	41
c	4	7		17		1		29
計	11	14	1	84	1	5	4	120

(F) 受刑中の行動評価

平均 { a 3.97
b 3.81
c 2.50
全 3.60

(1) 擔任期間

月	0	0.5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	14	不明	不能	計
a	6	3	4	3	8	6	7	2	2	2	1	2	1		1			48
b	7	3	2	2	5	3	6	5	4	1		1		1			1	41
c	4	2	2	3	7	4		1		1						3		27
計	17	8	8	8	20	13	13	8	6	4	1	3	1	1	1	3	1	116

信/刑	0~	0.09	0.10~	0.20~	0.30~	0.40~	0.50~	0.60~	0.70~	0.80~	0.90~	1.00	不明	計	平均
a	11	0.09	0.10~	0.20~	0.30~	0.40~	0.50~	0.60~	0.70~	0.80~	0.90~	1.00		48	0.40
b	11	0.11	0.10~	0.20~	0.30~	0.40~	0.50~	0.60~	0.70~	0.80~	0.90~	1.00	1	41	0.45
c	6	0.06	0.10~	0.20~	0.30~	0.40~	0.50~	0.60~	0.70~	0.80~	0.90~	1.00	4	27	0.35
計	28	0.28	0.14	0.14	0.11	0.13	0.14	0.08	0.06	0.08	0.09	0.09	5	116	0.41

となり、a, b, c, 別にみて特異的な傾向はみあたらない。

(ii) 果進處遇の型

		倍 →	普 →	割 →			不明	計
a	43	1	1		3			48
b	32	2	1	4	2			41
c	18	2		2		1	4	27
計	93	5	2	6	5	1	4	116

同様の型を示すものが多く、さらに行動評価を厳密にしないか
 かり在社との関係はみかたい。しかし受刑中の行動は理論的相
 当影響があると考へられ、又釋放前得られる重大なものであるの
 で、細く行動評価を行ふべきであると思ふ。

計画的な長期にわたる研究が望ましい。

(4) 假釋放上の利点・不利点 (行刑表)

	反省の念 あり	反省の念 稍あり	反省普通	反省の念 乏し	保護あり 良	保護不良	なし	無答	計
a	8	15		16	1		4	4	48
b	7	13	1	9	3	1		7	41
c	4	8		6			1	8	27
計	19	36	1	31	4	1	5	19	116

まとめたのをみると

	利	稍利	稍不利	不利	無答	計
a	4	12	8	24		48
b	6	9	10	16		41
c	4	6	5	11	1	27
計	14	27	23	51	1	116

となる。

	利	不利	計
a	16	32	48
b	15	26	41
c	10	16	26
計	41	74	115

$$\chi^2 = 0.22 \text{ (D.F. 2)}$$

で、有意差はみとめられない。

これによつても、有力な要因とはなつてゐない。

これによつても、科学的な受刑中の行動評価の必要がのぞまれる。

5. 在社會期間に關して

これは釋放されて後どういふ状況にあつたものか、在社會期間が長くなつてゐるか、と云ふことをみるためのものである。

したがつて釋放前に知り得られるような性質の資料はなない。

(1) (ホ) 参照、これと同様の建前。

我々が釋放するか否か決定するとき得られる資料は釋放後のものではない。我々としては、できるだけ釋放前は知り得られる資料によつて判断し、その後とるべく処置として釋放後の資料を利用すべきであると考え、即ち、今この受刑者はこれこれの諸元をもつ、したがつて釋放後云々の要あらざれば假釋放は成功すると言ふ様な判断を行ふ立場をとるべきであらう。

このための参考として分析を進めよう。

(イ) 監督關係への報告

	した	したくない	計
a	26	38	64
b	48	12	60
c	29	12	41
計	103	62	165

$$\chi^2 = 22.07 \text{ (D.F. 2)}$$

で有意差がみとめられる。

この様はしを方が在社會期間が長くなるつてゐるのを見る時、在社會をおくらせるものとしてははやく報告させる様にする必要がある。

これに対する反応をみると

	良 い	わ る い	不 詳	い や だ	何 と も 思 は ぬ	そ の 間 は ま じ め	別 に な し	か ん と く な し	一 回 大 で 放 置
a	1	1	1	3	2	3	2	1	2
b	7		1	5	1	11	9		4
c	6		1	5		9	2	1	
計	14	1	3	13	3	23	13	2	6

	報 告 中 罪 を 犯	住 所 不 定	冷 い 態 度	度 が 過 ぎ る	つ ま ら ぬ 事 だ	悪 い 事 を す る 様 に な っ た の で し な い	ま ご と と ん え ん と く し て ほ し い	無 答	計
	2	2				3	1	2	26
	1		3	3	2			1	48
	1			2				2	29
	4	2	3	5	2	3	1	5	103

の様になる。これをまとめると、

	監 督 に 対 し て favourable	" unfa.	報 告 を し て お い た 間 は ま じ め	別 に 意 見 な し	其 他	計
a	1	8	3	2	12	26
b	7	17	11	9	4	48
c	6	8	9	2	4	29
計	14	33	23	13	20	103

となり、在社のながいものは よい として favourable であることが多い様である。

(ロ) 釋放者の保護者

	父	母	兄	姉	妻	叔父 叔母	友達	紹介	保護 会	不明 なし	いとこ	計
a	17	7	6	4	2	4	4	1		19		64
b	26	4	13	3	5	2	1		2	3	1	60
c	14	5	6		6	4		2	1	3		41
計	57	16	25	7	13	10	5	3	3	25	1	165

ないものは在社がみちかいことが知られる。(有意)

保護者のあることが大切なこととなる。あるものについてその保護者の態度をみると

	イ	ロ	ハ	ニ	不明	計
a	20	14	8	2	20	64
b	27	20	8		5	60
c	15	15	3	2	6	41
計	62	49	19	4	31	165

(イ) 温い

(ロ) 普通

(ハ) 冷い

であり不明のものは在社がみちかいようである。

(イ) (ロ) (ハ) と b, c で検定をすると。

$$S_{\frac{1}{2}}^2 = 0.0057 \quad \text{判別値 } 0.71 \quad \text{で}$$

有意差はみられない。つまり態度では有意差はみられない。

註. 保護者の資産状況を行刑表によつてみて下の様にかたよつて問題にはならない。

	無償	なし	下位	稍あり	あり	普通	保護者 未定	不明	計
a	4	38				3	1	4	50
b	8	28		1				4	41
c	5	18	1		1	1	1	2	29
計	17	84	1	1	1	4	2	10	120

(Ⅱ) 居住状態

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	浮浪	不明	計
a	23	5	3	8	1	8	5	10	1	64
b	31	12	1	2	2	5	2	4	1	60
c	19	8	3	4	2	2	2	1		41
計	73	25	7	14	5	15	9	15	2	165

浮浪は在社のきばめてみがかいことがわかる。

じかるべき家へ直ちに到着させることが在社をなかくするものを考へられる。

ほぼ $\{(イ)+(ロ)+(ハ)+(ニ)+(ホ)\}$ と $\{(ヘ)+(ト)\}$ とわけ検定を行ふと、

$$S_{\frac{2}{2}}^2 = 0.00486 \quad \text{判別値は } 0.209 \quad \text{で、}$$

有意差はみられない。

浮浪をのぞいては有意差はみられない。

(二) 家の広さ

区	区										17	24.5	不明	計	平均
	0~	1.1~	2.1~	3.1~	4.1~	5.1~	6.1~	7.1~	8.1~	9.0					
a	2	10	16	7	4	3	3	2	1			1	15	64	3.70
b	2	10	15	13	3	3	5						9	60	3.14
c	2	10	9	7	4	4		2			1		2	41	3.44
計	6	30	40	27	11	10	8	4	1	1	1	1	26	165	3.45

となり、有意差はみられない。

(木) 近隣の環境

	浮浪	普通	繁華 風紀のよからず	商店街	下層	別荘地	田舎	不明	計
a	10	15	7	7	5	2	11	7	64
b	1	19	3	3	5		17	12	60
c		13	2	4	3	1	12	6	41
計	11	47	12	14	13	3	40	25	165

数が少いが田舎、普通の場合よりも風紀のよくない所の方が在社がみかかいはないかと思はれるが左の様にして χ^2 検定を

	田舎 普通	風紀のよからず	
a	26	7	33
b+c	61	5	66
	87	12	99

行ふと

$$\chi^2 = 3.84 \text{ (D.F. 1)}$$

となり、これより少なる χ^2 を得る確率は5% となり、さばかひ所である。

危険率1% とするとき有意であると言へる。

(ハ) 近隣との交際

(i) 程度 (ii) 多し (iii) 少し (iv) なし

	イ	ロ	ハ	普通	浮浪	不明	計
a	17	13	16	2	10	6	64
b	21	15	14	2	1	7	60
c	24	9	5			3	41
計	62	37	35	4	11	16	165

(i), (ii) a, b, c を χ^2 検定を行ふと $\chi^2 = 6.90$ (D.F. 2) となり、有意水準を5% とするとき有意である。(1% とすると

き有意でない。)

(ii) 近隣の本人に対する態度

(イ) 良い (ロ) 普通 (ハ) 悪い

	イ	ロ	ハ	浮浪	わからぬ	不明	計
a	5	28	12	10	2	7	64
b	10	32	11	1	2	4	60
c	12	23	1		2	3	41
計	27	83	24	11	6	14	165

(イ), (ロ), (ハ) の間で差がある。「良い」と答へたものは在社がなかいことが知られる (a, b, c) はより次第に順が逆になつてゆく (イ) と (ハ) で (a+b), (c) とわけて検定を行ふと

$$\chi_c = 2.97$$

となり有意である。

次に a をのぞいて (イ) と (ハ) b と c とで検定を行ふと

$$\chi_c = 2.8$$

で有意である。

近隣との交際がよいものは在社がなかいことが知られる。(犯数別の論義の所参照)

(ト) 出所後ついた職業

これは I. 基礎的事項 (ホ) の犯行時もつてみた職業と比較されたい。

	なし	傭工	徒食	大工官	勤労	商人	農業	計
a	34	19		5		3	3	64
b	15	20		9	4	8	4	60
c	2	13		4	5	9	8	41
計	51	52		18	9	20	15	165

ない(つかなかつE)ものは、在社みちかく、勤労、商人、農業の定職についてものは比較的つかいことを知るのである。

まとめてみると、

	なし	人夫土工	大工左官	その他
a	34	19	5	6
b	15	20	9	16
c	2	13	4	22

となり、検定する途もなく明らかである。

ここで、就いた職業と本犯時の職業の関係をみると

a

b

本犯時	就いた職業							計	本犯時	就いた職業							計
	なし	人夫	徒食	大工	勤	商	農			なし	人夫	徒食	大工	勤	商	農	
なし	20	3				2	2	27	なし	6	3			1	3	13	
人夫	5	15		1				21	人夫	2	16		3			23	
徒食	7						1	8	徒食	6			2		1	9	
大工	1			4				5	大工		1		4			5	
勤	1	1						2	勤					3		3	
商						1		1	商					5	1	6	
農									農	1						1	
計	34	19		5		3	3	64	計	15	20		9	4	8	4	60

c

本犯時	なし	人夫	徒食	大工	勤	商	農	計
なし	2	4			1	2		9
人夫		9				1	2	12
徒食				1	2			3
大工				3				3
勤					2			2
商						6	1	7
農							5	5
計	2	13		4	5	9	8	41

である。

これを下の様にまとめてみると

	異つたもの	同じもの	「なし」「なし」
a	24	20	20
b	26	28	6
c	14	25	2
計	64	73	28

の様なことを知る
「なし、なし」が
多いのは在社のみ
なにかいものであり
職業のかわつたも
のより同じものの

方が在社がなにかい傾向がみられる。

(a), (b+c) とわけて検定を行ふと

$$\chi^2 = 16.60 \quad (D.F. 2) \quad \text{で有意である。}$$

次に、行刑表よりみた本人の生計見込みと、実際釋放後就いた職業の関係をみると相当うごきかみられる。

假釋放時の審査の時注意すべきである。(第二の該当項参照)

本人の生計見込と就いた職業

a.

見込職業	なし	人夫土工	大工左官	勤 勞	商 人	農 業	計
な し	5	5				2	12
あ り	3	2					5
稍あり							
人夫大工	7	2					9
大工左官		1					1
勤 勞	5	2	3		1		11
商 人	1	1			1	1	4
農 業	4	3					7
帰 國 (籍)	1						1
計	26	16	3		2	3	50

b

職業 見込	なし	人夫土工	大工左官	勤労	商人	農業	計
なし	1	3	1		2		7
あり					2		2
稍あり	1	2		1			4
人夫土工	4	2		1			7
大工左官	3	3	1				7
勤労		2	1	1	1		5
商人			1		1		2
農業		2				4	6
不明	1						1
計	10	14	4	3	6	4	41

c

職業 見込	なし	人夫土工	大工左官	勤労	商人	農業	計
なし		2	1	1	1	1	6
あり				1			1
稍あり		1	1		1		3
人夫土工		2			2		4
大工左官		1	1		1		3
勤労		3	1	1	1		6
商人							
農業	1	1			1	3	6
計	1	10	4	3	7	4	29

試みに、見込についてまとめてみると、

	なし	あ り 稍あり	人夫土工	大工左官	勤 労	商 人	農	其 他	計
a	12	5	9	1	11	4	7	1	50
b	7	6	7	7	5	2	6	1	41
c	6	4	4	3	6	0	6	0	29

であつて、見込丈では在社との関係をさうつけるわけにはゆかない。したがつて、本人の見込みだけでなく実際にいかなる職につくかは正しくしらべ、ないものには世話指導する等のことをなし、実際の定つた職業ある様にすることが在社を存かくすることを知るのである。この様と実際にどの職につくかはつきりさせないかぎり左社会期間との関係はつきがたいものである。

(4) 家 計

(ii) 本人の収入

	無 職	不 明	月平均 2000円 以下	" 4000円 以下	" 6000円 以下	" 8000円 以下	" 8000円 以上
a	34	12	1	5	1		1
b	15	12	2	5	7	7	4
c	1	11		3	5	2	10
計	50	35	3	13	13	9	15

月平均 2万円 以上	日平均 300円 以下	" 500円 以下	" 500円 以上	月 食 付 3000円	日 食 付 30円	計
	8	1			1	64
	3	3	2			60
4	1	1		3		41
4	12	5	2	3	1	165

大きくわけて（日平均のものはのぞく）

	6000 以下	以上
a	7	1
b	14	11
c	8	19
計	29	31
註		食付5000円を含む

とすると明らかに収入の多くあるものが在社がなぐなつてゐる傾向のあることを知るのである。（但し、b, c 間文をみる時には有意差は認められない。

$$\chi^2 = 3.70 \text{ (D, F, 1)}$$

無職よりしかるべき職につくこと、さらに収入の多いものが

在社がなぐなつてゐるのを知るのである。

正に常識的の結果である。不足分のお手直しはどのようにおこなうかと言ふのをみると

在社	不明	どうやらやつてゐる	親族関係より	友達知人より	たけのこ	内職類	借金	道ばし	犯罪による	計
a	38	3	4	4	2	0	1	4	8	64
b	17	14	17	1	2	1	2	1	5	60
c	10	16	7	0	4	1	2	0	1	41
計	65	33	28	5	8	2	5	5	14	165

犯罪によるとのべたものは在社期間がみちかくどうかやつてゐる、親族より世話になつてゐるといふものは在社期間がながめになつてゐるのは興味深い。なお前にのべたように a, b, c 別に家族1人あたりの家計費をみると、

a	3080 (25)
b	3600 (42)
c	505 (30)

()内はサンプル数

であり、c はもつとも家計費が高いのも上述の議論をうらづけてゐるつまり裕福なものは在社期間は長い！

(ii) 家計の全般的な状況

(イ) 大によい (ロ) 普通 (ハ) やや悪い (ニ) 大にわるい

とじてみると

	イ	ロ	ハ	ニ	不明	計
a	1	4	4	12	43	64
b	2	13	12	11	22	60
c	3	16	7	5	10	41
計	6	33	23	28	75	165

となる。(イ)+(ロ), (ハ)+(ニ)としてみると

	(イ)+(ロ)	(ハ)+(ニ)
a	5	16
b	15	23
c	9	12
計	39	51

となつて

$$\chi^2 = 7.56 \text{ (D.F. 2)}$$

で、有意水準を5% とするとき、
有意差が出てこの信頼度の限りにおいて (i) の結果をうらづけてゐる。
つまり家計のよいものは在社がおく

れておると言へる。

(ii) 職場の環境

	わるい	普通	不明	不就	計
a	6	18	6	34	64
b	5	33	7	15	60
c	6	22	11	2	41
計	17	73	24	51	165

強い傾向はみられない。

(又) 職場の交友

[職についてものみについての資料]

(イ) 人づきあふ (ロ) 良い (ハ) 普通 (ニ) 悪い

	イ	ロ	ハ	不明	計
a	11	10	3	6	30
b	13	24		8	45
c	17	15		7	39
計	41	49	3	21	114

(ii) 程度

(イ) 強い (ロ) 普通 (ハ) 弱い

数は少ないが傾向的に交友のよいものは在社がながいことかみうけられる。近隣関係とあわせみるとき同様の結果とみられる。

	イ	ロ	ハ	不明	計
a	2	14	5	9	30
b	6	24	7	8	45
c	5	26		8	39
計	13	64	12	25	114

(又') 本人の家族に対する責任感

(イ) 強い (ロ) 若干 (ハ) 全くない (ニ) 不明

	イ	ロ	ハ	ニ	計
a	10	16	13	25	64
b	13	14	18	15	60
c	12	14	8	7	41
計	35	44	39	47	165

で、全く差がみとめられない。

(ii) 不良旧知との関係

種類

	あり	なし	不明	計	いん けん	受刑者	共犯者	職業 仲間	反証し	賭博	学友	世話 人	計	
a	18	43	3	64	9	4	1			2	1	1	18	a
b	20	40		60	8	2	1	3	3	3			20	b
c	13	27	1	41	6	1	1	2		2		1	13	c
計	51	110	4	165	23	7	3	5	3	7	1	2	51	計

これについてはあまり差はみられない。

(フ) 前共犯者との関係

種類

	あり	なし	不明	計		職業	不良仲間	戦友	遊ぶ友達	友達	差入りにきた	話をもちかけた	賭博	不明	計
A	6	51	7	64	A	2	1			1	1	1			6
B	5	52	3	60	B		2	1					1	1	5
C	3	37	1	41	C	1	1		1						3
計	14	140	11	165	計	3	4	1	1	1	1	1	1	1	14

有無によつて関係はみとめ難い。

(ワ) 常に娯楽を求めてゐた場所

	映画	演芸劇	酒場類	花標街	ダンス	賭博	勝負事	その他	なし	不明	計
A	28	4	17	21		6	2	4	12	5	99
B	26	2	10	21	3	6	4	6	5	4	87
C	18	2	8	12	2	6	6	3	4	3	64
計	72	8	35	54	5	18	12	13	21	12	250

特異的傾向はみられない。これはいくつもあけたものがあるがそのとほり加へあわせたものである。したがつて一人一つの答へではない。

(カ) 家族と同一の所に住んでゐるか否か

同一のところに住んでゐたのを同、さうでなかつたのを、別とすると

	同居	別居	不明	計
a	34	27	3	64
b	44	12	4	60
c	33	8	0	41
計	111	47	7	165

となる。

$$\chi^2 = 10.06 \text{ (D.F.) である。}$$

正に有意である。

同じところにいることか在社をなかくすることを知らないのである。

今、別居から浮浪をのぞくと

	同	別
a	34	17
b	44	11
c	33	8
計	111	36

$$\chi^2 = 3.30 \text{ (D.F. 1) である。}$$

10%と5%との間にあり。

有意水準を10%としないとき有意差はみとめられない。

・ 匠は、追及の要がある。

(3) 家族の本人に対する態度

(i) 本人を

(イ) 通常の親しい肉親としてみる (ロ) みくぬい。

	イ	ロ	普通	交渉なし	わからぬ	不明	計
a	24	10	2	2	3	23	64
b	43	7				10	60
c	26	8				7	41
計	93	25	2	2	3	40	165

(ii) どのように選んだか

(イ) 温い (ロ) 普通 (ハ) つめたい

	イ	ロ	ハ	交渉なし	不明	計
a	9	16	13	1	25	64
b	25	20	7		8	60
c	9	19	6		7	41
計	43	55	26	1	40	165

(i), (ii) とともに決定的な結論を得ない。

(カ) 本人の家族に対する態度

(i) 家庭の生活に満足してゐるか

(イ) 大に満足 (ロ) 少し (ハ) 不満

	イ	ロ	ハ	普通	なし	不明	計
a	8	10	17		1	28	64
b	11	16	23			10	60
c	11	10	9	1		10	41
計	30	36	49	1	1	48	165

検定を行ふと $\chi^2 = 3.30$ (D.F. 2) で有意差はみとめられない。

(ii) 家族に対する愛着の程度 (前にものべたように不明中の殆んどは低いものである)

(イ) 多く感ず (ロ) 少し (ハ) 全く感ぜぬ

(a) 親

	イ	ロ	ハ	母父 イハ	母父 イロ	總父 ハイ	不明	計
a	20	4	7	1	1		31	64
b	25	7	4			3	21	60
c	18	5	2				16	41
計	63	16	13	1	1	3	68	165

(b) 兄弟姉妹

	イ	ロ	ハ	普通	女 イ	男 ハ	不明	計
a	19	7	12		1		25	64
b	25	13	9				13	60
c	17	8	3	1			12	41
計	61	28	24	1	1		50	165

(c) 妻

	イ	ロ	ハ	不明	計
a	7	2	2	53	64
b	5	5	2	48	60
c	10	2	2	27	41
計	22	9	6	128	165

(d) 子

	イ	ロ	ハ	不明	計
a	6		2	56	64
b	5	1		54	60
c	9			32	41
計	20	1	2	142	165

いづれも決定的なことは言へないが、a, b, c, d の傾向として家族への愛着の多いものは感じないものに比しやや在社がなかい様子がみられる。

以上まとめてみるならば、この調査で調査したかぎり)に於て、有力な要因としてあげられるものは

釋放前知られるもの	釋放後の状況によるもの
家族の状況 (父母) (妻子) (同居) (別居) 家族への愛着の程度	職業 (釋放後ついた職業) (犯行時の職業) 監督関係への報告 保護者とその受入れ方

<p>本人の年齢</p>	<p>居住状態 近隣環境 近隣との交渉 収入(家計の状況) 交友 家庭生活の満足感</p>
--------------	--

であり、常識的な結論を出ない。

釋放前知られないものであつても、釋放後かうなつたら在社がながくなると言ふことを知るならば、被釋放者がその様な状態になれるように力をつくす事は大切なことである。

実際に、その状態になるとき在社がながくなると考へられるからである。

これらの事について以上の結果を第一次近似としてさらに深く調査する必要がある。

ここで有力とみられたものについてでなく、さらに有力でなかつたものについても進んで深く内容を反省し、調査方法をかへ有力なものたりうるかをしらべる、又、ここに考へられなかつた別の *dimension* のものについてもしらべてゆく必要もある。

このことは、第五、失敗者と成功者の比較(Prediction Table のモデル的作成と判断成功率)にもあてはまることである。

6: 社会に対する態度

これは要因発見の立場ではなく、在社期間の長短が現在の社会に対する態度としてどう であるかをみるものである。

(1) 家族に対して

(i) 家のことで気にかかることがあるか。

別のところにおる 同居 全

	ある	ない	不明	計		ある	ない	不明	計		ある	ない	不明	計
a	16	10	1	27	a	28	6		34	a	45	18	1	64
b	7	5		12	b	39	5		44	b	47	12	1	60
c	5	3		8	c	24	8	1	33	c	29	11	1	41
計	28	18	1	47	計	91	19	1	111	計	121	41	3	165

在社とは関係がみられない。

(ii) いま何が一番気にかかるか (コードは前述第二の該当項参照)

別居

	0	1	2	3	4	5	6	2,3	不明	01	計
a	4	2	1	7			1	1	11		27
b	2	2		3			1		4		12
c	1								7		8
計	7	4	1	10			2	1	22		47

同居

	0	1	2	3	4	5	6	不明	01	計
a	8	9	2	5		1	1	8		34
b	12	8	1	7	1	1	2	11	1	44
c	11	1	2	2	1	2	3	11		33
計	31	18	5	14	2	4	6	30	1	111

全

	0	1	2	3	4	5	6	2,3	不明	01	計
a	12	11	3	13		1	2	1	21		64
b	14	10	2	10	1	1	3		18	1	60
c	12	1	2	2	1	2	3		18		41
計	38	22	7	25	2	4	8	1	57	1	165

(iii) 誰が一番気にかかるか

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	12	23	34	26	56	123	24	45	36	不明	計	
a		10	11	9	5	1	7			1	1		1			1	1				16	64
b	1	9	13	3	3	3	6	1		1	4	1	1						1		13	60
c		5	5	4	2	3	4		1	2				2	1					1	11	41
計	1	24	29	16	10	7	17	1	1	2	7	1	2	2	1	1	1	1	1	1	40	165

(iv) 子供の一生に責任を感じてゐるか

	子なし	いる	ない	計	在社如何に関せず感じてゐる。
a	55	9		64	
b	53	6	1	60	
c	31	10		41	
計	139	25	1	165	

(v) 社会に対して

(i) 今の社会に満足してゐるか

(1) いる (2) いない (3) わからない
(4) 無関心

在社との関係はみとめられな
い。

	1	2	3	4	無答	計
a	9	34	17	4		64
b	8	29	20	3		60
c	6	18	11	5	1	41
計	23	81	48	12	1	165

(ii) どういふ点で

(コードは前述の該当項参照)

	0	1	2	2'	3	4	5	1+2	0/1	6	7	無答	不明	計
a	8	18	2		1	2		1	2			30		64
b	5	16	3							1	1	34		60
c	1	10	2	1		1	1	1				23	1	41
計	14	44	7	1	1	3	1	2	2	1	1	87	1	165

コード1「仕事がない」と言ふのが他の項目に比し在社のみち
かい方に多い傾向がありさうなほうはづける。

(iii) 今後社会はよくなると思ふか

(イ)思ふ (ロ)思はぬ (ハ)わからぬ (ニ)無関心

	イ	ロ	ハ	ニ	不明	よくはらぬ とこまる	計
a	43	5	13	1	2		64
b	35	3	20	1		1	60
c	23	5	11	2			41
計	101	13	44	4	2	1	165

傾向はみあたらない。

これにはどうすればよいか。

	無答	ほし	わからぬ	考へぬ	受入れ方 をよく	周囲の人と の協力	真面目に 働く	社会政府 に求める	成行きた まかす	計
a	23		5	1	3	10	11	11		64
b	32		7	3	1	6	6	4	1	60
c	19	1	2	1		7	6	5		41
計	74	1	14	5	4	23	23	20	1	165

傾向はみあたらない様である。

(IV) 今の社会で改善したい所はあるか

	無関心	関犯 係罪	経済 に約	その他	計
a	44	3	17		64
b	44	7	9		60
c	27	2	9	3	41
計	115	12	35	3	165

やはり特別な傾向はみと
められない。

(V) 君はそれに対して出所後どうするか

	無関心	自信 方法 を 示し	普通 気持	積極 的	計
a	18	3	25	18	64
b	26	3	22	9	60
c	17	4	14	6	41
計	61	10	61	33	165

(VI) 一般社会が君に何をしてくれればよいと思ふか

	無関心	関犯 係罪	生活 上	その他	計
a	19	24	20	1	64
b	21	22	15	2	60
c	11	12	13	5	41
計	51	58	48	8	165

いづれも特別なことはみ
られない。

(ハ) 将来への希望

(i) どのような仕事がしたいか。

	なし	大 工 夫	左 大 官 工	勤 労	商 人	農 業	合 分 心	派 手	更 生 業 者	犯 罪 者 で あ る た ら 尚 も	生 活 未 来	そ の 他	計
a	3	9	3	19	16	8	4	1	1				64
b	2	8	14	16	13	3		1		2		1	60
c	1	3	5	7	13	8	1			2		1	41
計	6	20	22	42	42	19	5	2	1	4		2	165

(ii) それができると思ふか

(1) 思ふ (2) 思はぬ (3) わからぬ (4) 無関心

	イ	ロ	ハ	ニ	無 答	計
a	54		10			64
b	52		6		2	60
c	36		3		2	41
計	142		19		4	165

(iii) 出所後どんな生活がしてみたいか。

	無 答	な し	わ か ら ぬ	考 へ ぬ	真 面 目 に な る	働 く こ と	普 通 並 な 生 活	家 庭 生 活 を よ く す る	今 迄 通 り や る	そ の 他	計
a	2	1		2	23	14	22	9	1		64
b	1	2	1		9	5	27	13		2	60
c	1		1	1	9	3	14	8	1	3	41
計	4	3	2	3	41	12	63	30	2	5	165

(IV) それにはどうしようと思ふか

	無 答	な し	わ か ら ぬ	考 へ ぬ	普 通	眞 面 目 に 働 く	強 い 奮 起 力 を も つ	家 族 の 力 を 頼 る	物 価 を 下 げ る	計
a	5		1	1	1	44	8	3	1	64
b	7	1	2		2	37	5	6		60
c	4		1		1	24	7	4		41
計	16	1	4	1	4	105	20	13	1	165

以上、社会に対する態度ではこれと言ふ傾向は、在社の長短別にみあらない。

この事は当然であるかもしれない。

第四 成功者の実態

成功者の実態を前述の調査票、行刑表からまとめてみると次の様になる。比較は第五を参照せられたい。

これは成功者たちの実際を知り假釋放者を成功者たらしめるための實際的社会的措置を考へる上での一つの参考となるであらうと考へられる。

ここに用いたサンプルの内訳は次の通りである。

調査票の回答あるもの45の中、記入不明のあるもの3あつた。

このためサンプルは項目により多少ことなつてゐる。

行刑表による結果は刑務所移送のため43についてのものである。

1. 一般的事項

(イ) 年令

年令	20以下	21 1 25	26 1 30	31 1 35	36 1 40	41 1 45	46 1 50	51 1 55	56 1 60	61 1	計
生年	昭5	昭4 大1 大14	大13 1 9	8 1 4	大3 明1 大43	明42 明1 明38	37 1 33	32 1 28	27 1 23	22 1	
		15	12	3	1	6	3	1	2		43

5

(ロ) 兵役

あり	なし	計
16	27	43

(ハ) 学歴

ナ	小中退	小卒	高小中退	高小卒	高小中退	高小卒	中中退	甲卒	海兵卒	高専中退	高専卒	計
シ	2	7		23	5	4			1	1		43

(二) 婚姻

妻あり	なし	計
18	25	43

(ホ) 父母の有無

父母あり	父実母義	父実母なし	母実父義	母実父なし	父義母義	父母なし	計
17	1	5	1	9		10	43

2 犯罪関係

(イ) 犯数

犯数	1	2	3	4	5	計
	36	4	2	1		43

(ロ) 罪質

窃盗	詐欺	強盗	傷害	恐喝	隠贓物	所持法	違食反信	計
26	2	1	2	3	3	3	3	43

(ハ) 動機

争事よりの	利欲	射倖	出来心	不注意	貧困	不明	懶惰	賭博	計
1	31	1	2	2	2	2	1	1	43

(ニ) 共犯

なし	あり	計
23	20	43

ある場合の人数は

人	2	3	4	5	6	7	8	9	10	13	計
	6	3	1		1	1			1	1	20

3. 受刑中の事項（行刑表から）

(イ) 逃走の危険

普通	要観察	稍注意	不明	注意	計
10	15	6	10	2	43

(ロ) 健康状態

甲	乙	丙	不明	計
20	15	3	5	43

(ハ) 労働の程度

重労働	普通	軽労働	不明	計
24	7	2	10	43

(ニ) 社会感情

無答	良い	わるい	普通	なし	頼むし	乏し	計
14		14	10	3		2	43

(ホ) 受刑中の行動評価

刑期	信	普	↗	↘	不明	計
	→	→				
→ 1/3	7	2	18	1		28
→ 1/3以上					3	3
→ 1/3以上	3	1	8			12
計	10	3	26	1	3	43

で假釋されたもの
 釋放されたもの
 釋放されたもの
 釋放されたもの
 釋放されたもの

信任期間 / 刑期 (實際の)

0~	0.10~	0.20~	0.30~	0.40~	0.50~	0.60~	0.70~	0.80~	不明	計
0.09	0.19	0.29	0.39	0.49	0.59	0.69	0.79	0.89		
9	4	13	7	1	3	1	1	1	3	43

平均 0.278

(ハ) 假釋放上の利点, 不利点

	反省の念あり	〃 稍あり	〃 なし	〃 稍なし	保護稍良	なし	自活力あり	技能あり	不明	個性良	計
	6	10	4	1	3	3	3	3	11	2	43

まとめると

	無答	利	稍利	稍不利	不利	計
	9	10	8	7	9	43

となる。

4. 在社會期間に関する事項

これは主として調査票による結果をまとめたものである。比較と言ふより実態心理をつかむことを目的としてゐる。

(イ) 保護者 (行刑表による)

父	母	兄弟姉妹	妻	叔父叔母	反通知人	なし不明	計
21	6	1	13	1		1	43

その資産状況

あり	稍あり	なし	無答	下位	不明	普通	計
7	2	15	15		4		43

(ロ) 職業関係

(i) 出所後すべてのものは職についてゐる。このことは失敗者とよい対照である。ついた手づるをみると

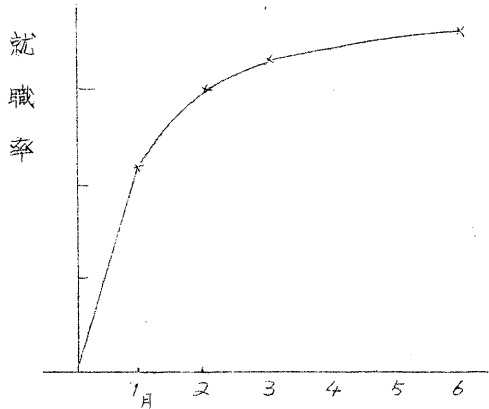
職安所	友人知人の紹介	復帰(自営)	近親者の関係	自分で見付けた	不明	新聞広告	被害者の好意	計
3	15	9	7	6	2	1	1	44

である。関係をたよりに職についてゐるものが多い。

(ii) 出所後その職についた月日は、

何月以内	7日	15日	1月	2月	3月	6月	1年	2年	3年	不明	計
	12	5	8	7	3	3	3		1	2	44

である。



相当おそいものもあるのに注意を要する。

(iii) ついた職業の種類は

職業	1	2	4	5	10	11	14	15	16	17	計
	5	5	14	5	4	1	3	3	1	1	42

コード. 1.人夫土工 2.大工左官下ビ 4.大工業工員
 5.小工業職人 10.農業 11.船員 14.商工業主
 15.俸給者 16.露店業 17.日傭

で、ほとんどが定期的なものである。定期的なもの38、それ以外は6で90%近くが定期的なものであるのは注意すべき所である。

(iv) 受刑中に調査せられた生計見込と本当についた職との関係を見ると、

見込 職業	人夫	勤勞	商人	農業	船員	大工	計
人夫	1	1					2
勤勞	2	5				3	10
商人		1	3				4
農業		2		2		1	5
船員		1					1
大工		1				3	4
なし	2	3			1	1	7
あり			1				1
稍あり		1		2			3
無答	1	2				2	5
計	6	17	4	4	1	10	42

(V) 入所前と、出所後との職業の関係をみてみると。

前 后	なし	人夫	勤勞	商人	百姓	船員	大工	不明	計
なし									
人夫	1	4	1						6
勤勞	3	2	6	2	2	1	1		17
商人				3				1	4
百姓		1			2		1		4
船員						1			1
大工	2	1	2	2			3		10
不明									
計	6	8	9	7	4	2	5	1	42

前 後	やくざ	かたぎ	不明	計
やくざ	6	1		7
かたぎ	10	24	1	35
計	16	25	1	42

やくざ的 { 無職
人夫土工
船員
かたぎ { 勤労
商人
農業
大工

で、かわらぬもの 45.2% である。

出所後ついたものと、現在のとの間の職業の異同は

出所時 現在	人夫	勤労	商人	農業	船員	大工	なし	計
人夫	6						1	7
勤労	1	9				3	1	14
商人			4					4
農業				4				4
船員					1			1
大工	1					10		11
休み		1						1
計	8	10	4	4	1	13	2	42

(VI) 次に今ついてある職業に対する満足度をみると、(イ)満足してあるもの 38、(ロ)しておかないもの 4、(ハ)何とも言へぬもの 2で、約 90% は満足と答へてゐる。

その理由をみると、

(イ)

無答	仕事 が 面白い	家 庭 の ため	仕事 が やり にくい	入 所 前 と 同 職 に か ら	生 活 難	生 活 安 定 の た め	現 在 で は 止 む を 得 ず	祖 国 再 建 に 役 立 て る	將 來 性 あ る
14	11	1	1	1	1	4	2	1	2

(ロ)	(ハ)					
職 で ほ な い	父 の 職 業	無 答	自 由 だ か ら	固 定 し て な い か ら	山 の 中 に 居 る が 向 違 い	計
1	1	1	1	1	1	44

であり，満足してゐないものも，さう Negative な答へではない。

(vii) 今の職業と，前の職業との関係を見ると，あると言ふもの

(イ) 28，ないと言ふもの (ロ) 15，(ハ) 不明1で，関係のあるもの，約65%である。

(viii) 収入を，昭和23年の月平均と，24年の月平均とをしらべてみると，

23年 \ 24年	900	1000	2000	3000	4000	5000	6000	7000	8000	9000	10000	不明	計
	以下	1900	2900	3900	4900	5900	6900	7900	8900	9900	10000		
900~								1					1
1000~1900				1									1
2000~2900			1										1
3000~3900					1	1							2
4000~4900						2					1		3
5000~5900							3		2				5
6000~6900							2	1			1		4
7000~7900								3					3
8000~8900									1		2		3
9000~9900									1	3	1		5
10000~											5		5
不明					1	1	2		2	1	3	1	11
計			1	1	2	4	7	5	6	4	13	1	44

平均 23年 は 7557.57

24年 は 9395.35円 であり.

23年から、24年で、上つたもの 51.5 %

同じもの 45.5 %

下つたもの 3.0 %

である。 なほ一人当りの生計費を出してみると、

3423.08円

その収入での生活状態をしらべてみると、十分と言ふもの28、不十分と言ふもの14、十分でも不十分でもないと言へたもの1、わからないと言へたもの1、であり、十分と言へたものは、約70%ある。

さて、不十分と言へたものの補ひ方をみると、

補ひ方法 一人当り費用	自己資本 を食べる	休日には日雇	子供の収入で	内職	親せきの補助	どうにかやる	田の働き	妻の働き	家族多い為はその働きでまかなへる	計
1000~						1				1
1000円台				2						2
2000"			2			2		1		5
3000"					1		1			2
4000"										
5000"					1					1
8000"	1									1
7000"		1								1
不明									1	1
計	1	1	2	2	2	3	1	1	1	14

で家族収入で補ひものが多い。

(IX) 入所中に身につけた職業をみると、

なし	人夫 土工	大工 業	小工 業	農 業	不 明	計
5	4	7	4	10	12	42

役に立っていると答へたもの 15 で、約 35% である。このよ
うすをくわしくきいてみると、イ 役に立っている ロ いない

	イ	ロ	無答	計
無答	6	13	2	21
健康だから	1			1
仕事が異		11		11
同じ仕事上	3			3
入所中の事を思ふ	1			1
健康 規則正しい生活	1			1
仕事がない		1		1
期間が短い		2		2
精神的に	1			1
足が強くなった	1			1
仕事は面白くても、好きでも ため、真にたのしめる事	1			1
計	15	27	2	44

技術面で役に立ったとするもの 3~4 にすぎないのは考へねば
ならない。(あとは主として無答或は精神的にとするものである。
無答はむしろ後者に属してゐるものであらう。)

(ハ) 職場での交友

「あなたの立場を理解してくれてゐるか」との問いに対して

{ 理解してくれる 31 (約 70%)

}	理解してれない	1
	何とも言へぬ	6
	無 答	5
	入所した事をしらぬ	1

と答へてゐる。失敗者における近隣の態度とくらべてみて成功者の場合は温くむかへられてゐる様に思へる。

これは強ち周囲の人たちにはのみにきせる問題でなく、さうさせる本人のあり方も関係してくるのであらうと思ふ。

(二) 生 活 状 態 (環境)

(i) 今の生活と、入所前との生活を比較してみると、

}	今の方がずっとよい	18
	少しよい	15
	わからない	4
	少しわるい	5
	ずつとわるい	2

となり、今の方が生活がよい(経済の点のみではない)とするもの、約75%を算してゐる。

成功の原因とも考へられるであらう。

(ii) 次に今の生活のありさまと、入所前の生活のありさまとをくらべてどういふ点をちがつてゐるかと言ふことを述べぬ。

(a) 経済上の点で

Code	0	1	2	3	4	5	6	計
	4	19	7	9	1	3	1	44

Code. 0.無答 1.良い 2.変らず 3.わるい 4.変つてゐる

5.むだ"をしなくつた 6.社会状態から推測せよ。

良いとするものが相当ある。

(b) 個人的信用の点で

Code	0	1	2	3	4	5	6	7	8	計
	3	23	2	1	2	9	2	1	1	44

Code. 0.無答 1.信用してくれる 2.少しは信用してくれる
 3.普通 4.信用してくれない 5.変らぬ 6.変つてゐる
 7.剪刀のしかいがある 8.考へてゐる。

信用はさう悪くなつて居らぬようである。

(c) 家庭の点で

Code	0	1	2	3	4	5	計
	2	17	20	1	3	1	44

Code. 0.無答 1.変らず 2.円満,暖かい,うまくゆく
 3.変つてゐる 4.円満でない 5.親が世話をやく様になつた。

であつて *negative* な答へが少い。この事は大切なことである。

(d) 交友の点で

0	1	2	3	4	5	6	7	8	計
5	16	14	4		2	1	1	1	44

Code. 0.無答 1.変らず 2.良く交る 3.交りが少い
 4.変つてゐる 5.多く交る 6.普通 7.良いものと悪いものがある 8.めからぬ

negative な答へが少い。

(e) 娯楽の点では

Code	0	1	2	3	4	5	6	7	計
	6	19	5		8	2	1	3	44

Code. 0.無答 1.変らず 2.前より多い 3.変つてゐる。

4. 少い 5. 全然せず 6. わからない 7. 普通
 で特異的なものはみあたらない。

(iii) あなたの生活見込はどうなるか、との問ひに対して

(イ) よくなると答へたもの 27 (約 60%)
 (ロ) わからない 12
 (ハ) わるくなる 4
 無答 1

であつた。 希望的なものが多い。 これらの理由をみると、

	イ	ロ	ハ	無答	計
無 答	9	5		1	15
貯金出来る	1				1
専業上の不振			1		1
理想と現実の違い		1			1
進駐軍関係だから		1			1
時世だから		1			1
努力次第、決心してゐる、真面目に働く	5	1			6
家族が真実に働くから	2				2
会社が永続する、盛大になる	5				5
今の労働者が皆さうだ		1	1		2
出所后命運の結果から	1				1
国家の経済が安定すれば	1				1
政治がわるい		1			1
就業出来た	1				1
人員整理			1		1
物価値下り	1	1	1		3
安定しつつある	1				1
計	27	12	4	1	44

である。

(木) 現在氣にかゝることは

なし	戸籍関係のこと	無答	結婚の問題	将来の見込について	米ソ戦	生活上	世間の人の疑惑	子供の将来	前科の事	資本攻勢	社会的不安	健康状態	人格の向上	家	入所中の友が家に出入する事	平和会議	入所当時のこと	会社経営の問題	人員整理	世相安定	真面目になる事	税金完納	計
9	1	6	1	1	1	5	1	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	44

で、まとめてみると、

なし	9
無答	6
前科関係	8
自己の更生	2
生活問題	10
社会問題	5
その他	4
計	44

前科，更生関係が約 $\frac{1}{4}$ ある。

(へ) 生活保護法，民生委員と言ふことに関する知識をきいてみると、

知つてゐるもの35，知らぬもの6，無答3，で、知つてゐるものは、約80%である。

なほ、この保護をうけたもの、入所中に金銭問題でうけたもの

又あるのみであつた。

(ト) 保護委員、警察との連絡をたづねてみると、あつたとするもの約50%であつた。

その程度をきいてみると、

(2) \ (1)	イ	ロ	無答	計
無答		19	5	
職業家庭のこと	2			
現在所職業等の調査	3			
警察から三度(月一度) 保委から一度(一度)	1			
帰つてからはない	1			
見に来た程度	1			
月に一度出頭する様にと	1			
警察から二度 保委から聞きに来た	1			
一度来た	1			
職の就、不就について	5			
何にも来ぬ	1			
ヒントはずれ	2			
毎月印をおしに行く 一回呼出しあり	1			
計	20	19	5	44

と上の様になる。連絡はうすいものであることが知られる。

(4) 入所中、面会差入れなどで、あなたに同情してくれた人を見ると、

父	母	兄弟	子供	親せき	知友 人人	差入 させぬ	妻	同業者	家人	不明	なし
11	15	17	1	3	5	1	8	1	1	7	3

であつた。絶対数がわからぬので、これからは決定的な結論はでない。

(III) 出所後の、家族との関係で変化したか否かをきいてみた。

(a) 妻 (b) 子供 (c) 両親

	居ない	無答	変らぬ	良くなった	なし	特に注意している	別れた	子供死す	けんかした	結婚出来た	出所後生れた	子供は持たない	計
a	12	13	13	2			3			1			44
b	12	14	15	1				1			1		44
c	8	6	22	6		1			1				44

dimension ことなりねらひかうまくとれなかつたきらひがある。

(又) 近隣関係

(i) つきあひをきいてみると

<div style="font-size: 3em; vertical-align: middle; padding-right: 5px;">}</div>	非常によいもの	20	で、つきあひは殆んどかう
	まあよい	19	まくいつてゐる。
	まづい	2	前にものべた様に「つきあ
	非常にまづい	0	ひ」のよいもの(本人がよ
	わからない	2	いため、又近隣がよいため
	無答	1)は成功してゐる様に現象
			的にはとらへられる。

かうなるのは、近隣のための責任でなく、本人の状態にもよるのであらうが、近隣がつとめてよくさうすることにより本人も変化してくるとも考へられる。

(ii) 配給、選挙権、子供の教育等が出所後前歴のため困ったことがあるかないかをたづねてみると、ないもの約80%である。この内訳をみると次の様になつてゐる。

	ある	ない	無答	計
無答	1	34	2	37
病氣	1			1
配給の点	1			1
選挙	4			4
子供が官庁につとめる時	1			1
計	8	34	2	44

(12) 総括的に現在を幸福と感じてゐるか、不幸と感じてゐるかをたづねてみると、

(イ) 非常に不幸	1
(ロ) 少し不幸	3
(ハ) 幸福	33
(ニ) なんとも言へぬ	6
無答	1

で、約75%のものが幸福と感じてゐる様である。その内容を見ると

	イ	ロ	ハ	ニ	無答
無答			17	5	1
明るい家庭生活			5		
宙守にしたから事業不振		1			
信仰			1		
生涯を封じられた	1				
云へない		1			
妻と別れて			1		
安定した仕事			2		
家庭のゴタゴタ		1			

労働者の島になる			1		
普通の生活が出来る			1		
働くたのしみ			2		
心配がない			1		
失敗はないと思ふ			1		
有意義に送れる			1		
苦しい生活				1	
計	1	3	33	6	1

(ウ) 方面をかへて、犯罪裁判に関する心理的なことをたづねてみた。まず、逮捕されたことについて不満を感じてゐるか否かについてしらべてみると、

感じてゐないもの約50%、不満の理由は次の様に殆んどが同傾向(なぜ自分次かと言ふようなこと)を示してゐる。

	強く感じてゐる	少し感じてゐる	感じてゐる	無答	普通	計
無答	1	3	12	1	1	18
判決がある迄無罪なのに現行犯ではないのに	1					1
修養の結果		1				1
当然			8			8
わるい事をしてゐない	2					2
わからない	1					1
責任のなすり合ひで存つた	1					1
友人と話し合へばわかる事	1					1
大物はつかまらない、刑事を丸める	1	1				2
ポイント外れ		1	1			2
自首したから			1			1

足を洗うつもりでゐた時	/					/
逮捕される運夢の様だったのに	/					/
逃げ廻つて疲れてゐた			/			/
他人の責任を貰ふ事になった		/				/
誰でもやつてゐるのに		/				/
逮捕されなかつたらどんな人間になつてゐたか	/					/
計	11	8	23	1	1	44

(7) 取調べの時の司法警察官に対して不愉快を感じたか否かについてみると、

ひどい態度をするもの

不愉快者(20)の中 9(50%)

ある。

感じたもの 約50%

又

	強く 感じた	少し 感じた	感じ ない	無 答	計
無 答	2	1	11	4	18
自 分 が 悪 い			4		4
急に事件が起きショックを受けた		/			/
私用の爲に一月留置された		/			/
罪人扱かいする	/				/
9人に不正があり過ぎる		/			/
不人情, 不親切	2				2
昔の刑事の根性が抜けぬ	/				/
最初セツウ逮捕後食管法で刑	/				/
私の立場に理解			/		/

高 圧 的	2				2
親 切			2		2
占領政策違反になるから去へない(軍裁)	1			1	2
わろかつたが、無職になつた		1			1
調べる時云はぬとぶつた	1				1
憲法が変つたので良かつた			1		1
苦勞を反省させるから		1			1
事實以上に書かせた	1				1
共犯者のぬすんだものを巡査に與へた	1				1
警官でも米國のタバコを吸ふ		1			1
計	13	7	19	5	44

(カ) 取調べの時の檢察官に対して不愉快を感じたか否かを見る
と、

	強 く 感 じ た	少 し 感 じ た	感 じ な い	無 答	計
無 答	2	1	17	5	25
黙秘権がよく守られなかつた	1				1
米國關係なのであきらめ半分		1			1
あきらめ			1		1
私一人が悪いと思はれた	1				1
誘導的に調べられた		1			1
自分かわるい			3		3
悪感情を持つて調べた	1				1
理解してくれた			1		1
高 圧 的	1				1
親切かみとつもない	1				1

警察の不人情は度つた正義と思つた			1		1
すぐ答につまつてゐた			1		1
P 関係				1	1
言葉が悪い	1				1
無理に事実と違ふ事を書かせた	1				1
物資を巡査に金をとつて配給	1				1
口先の民主々義		1			1
計	10	4	24	6	44

で、(7)との関係は大してちがはない。

(三) 裁判に対して、公平とするもの約50%、不公平とするもの約20% あつた。

	公平	不公平	わからぬ	無答	計
無 答	8	1	7	3	19
自分が悪い、罪の精算が出来	7				7
調書ばかりでやる		1			1
買ったものは執行猶予だ		1			1
調書でやればあれ位	1				1
自説を余り尊重せず		1			1
公平かもしれないが自分には不公平		1			1
軍隊の剣位なら帰へしてもよいと思つた		1			1
海軍々法会議	1				1
書 け ぬ	1				1
公平の事とは思ふが当時はわからぬ			1		1
軍裁だから			1		1
わずか1分半で終つた		1			1

ポイント外れ	1				1
警察と態度がちがう	1				1
もう少し刑が短いと思つた		1			1
現在はわからぬが当時は不公平が多い		1			1
故を云へばもう少し日本司法権を生かしてもらいたかつた	1				1
眞実からかけはなれてゐた		1			1
不満はないが何となくわり切れぬ	1				1
計	22	10	9	3	44

(タ) (i) 行刑のあたへた影響をしらべてみると、

(イ) 非常によい	13	} 21
(ロ) 少しよい	8	
(ハ) 影響なし	8	
(ニ) 少しわるい	4	
(ホ) 大変わるい	5	

で、よいと答へたもの約50%ある。理由をみると、

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	無 答	わ か ら な い	改 い 争 も あ る し わ ら い 争 も あ る	計
無 答	5	4	7	1		3	1	1	22
刑が長過ぎる					1				1
地位のある人は罪にな らず我々が罪人になる					1				1
自己反省の時機	6	1							7
前科者と云ふ点					2				2
入所中欠が苦しく出れ ばよい			1						1
また中で悪れん隊が顔をきかす				1					1

行刑法が上手	/								/
就職の点				/					/
入所中はある程度の自由があつた。	/								/
一度行つてくれはわかる	/								/
妻と別れられた		/							/
反省悔悟の施設がない					/				/
わるい事もあるが一般的に	/								/
上官、弁護士、友人の点ではあつた							/		/
ホスの行動あり				/					/
計	13	8	8	4	5	3	2	1	44

であつて、「行刑そのものかわるい」と言ふものは少くわすかに、反省悔悟の施設がない、中でも懲運隊がするさかす等のものがあるにすぎない。

(ii) 行刑であらためてほしい点をのべさせてみると、

(a) 處遇に關して

なし	無答
11	22

11. 寒さが太へん、改善してくれ
もう少し規律的にして欲しい
重労働もよいから食をふやしてほしい
栄養を與へる事
出所時の就職に力を入れてほしい
食物がむとい
休み時間は外に出たい
検身は人權を無視してゐる止めて欲しい
被告を人情味で接して欲しい
民主的に改めてほしい

（病氣の時は誠意をもって

居住関係	2
食物関係	3
人権関係	2
その他	4

である。

(b) 刑務官に対して

なし	無答
11	13

20. 素行悪い刑務官が一部位ある。
受刑者に対し理解足らぬ者がある。
厳格である事
生活力を充分にして上げて欲しい。
中に人間と思はぬ行をする
やさしみがほしい。
もう少し教養のある人が欲しい。
もう少しレベルの高い人をのぞむ
被告を人情味で接して欲しい。
反則せぬ様かん親をして呉れ
行刑成績をみて親心をもって欲しい。
刑務官に不公平があると思ふ。
お役目でなく学校の先生の様にして欲しい。
出所時預けた犬帰されなかつた。
入所者に対して真剣に接してもらいたい。

もう少し情をもつてもらいたい。
 人間としての扱をしてくれぬ。
 えこひいきが多い。
 中にある人に封建的親分子分がある。
 もつと親切に扱ってほしい

親切	質の向上	正しい行いをしてほしい	その他
9	4	4	3

で、あり；親切なとりあつかひをのたまんであるようである。

(C) 其の他

なし	無答
10	21

13.

前にもある囚人が後から入る者をいぢめる
 衛生の点で改善してほしい
 囚人のホスをなくしてほしい
 犯則を注意する事
 副食物を多くしてほしい。
 冬の衣類を與へてほしい。
 食事を平等にする
 週2回の入浴がほしい
 受刑中のホス囚徒等に改善の要あり
 横、刑囚犯罪者を養成する様なものだ
 ホス等が意張つてゐるからなほしてくれ
 ひとからげに良いも悪いもおどす
 外役に於て借答で面会させてゐる。

である。

(レ) 今、被害者に対して何か感じておるか、たづねてみると

感じてゐるもの	18
感じてゐないもの	10
無 答	12
不 明	2
被害者なし	2

である。感じてゐるものもかなりある。

どんな、感じであるかとみると、

ヒント 外れ	無 答	口では 解らぬ	悪い事 をした	おる者だ	時々 反省する	後悔 してゐる	わびたい	恩をあだで 返へしてわらい	計
	32	1	6	1	1	1	1	1	44

の様である。

又、被害者に対する感情の変化をきくと、

無 答	23	
変つた	10	
変らない	10	
普 通	1	であつた。

(ソ) 出所後、法律、犯罪、刑罰と言ふものを何とも思はなくなつたか否かをきいてみると、

何とも思はぬ様になつたとするものを数へるにすぎなかつた。
(○印のもの)

無 答	15
わすれられない	1
法律にも裏表がある	1
益、深く考へる	1
犯罪といふものはつらいもの	2
○ 刑罰などこわくない	1

新聞みて向かいやかな感じ	1
◦ 何とも思はない	2
法律は大切、罪は犯すものでない、刑は人を正とする	2
法律を研究することはよい事だが、運用するのは自分の気持次第	1
正しく生きてゆけば何とも思はない	1
思はなくならない	6
もうこりこり	1
かへつて恐しくなった	1
もつと強圧してよいと思ふ	1
法律参考書はよみ、死刑廃止論	1
人間の行む以上必要な事	1
法律をつくるはよい事	1
わからない	2
充分頭においてゆく	1
法律など特に考える様になった	1

(ツ) また罪を犯したいような気持にかられたことは存いか、との問いに対して

あるもの 10、 存いもの 28、 無答 5、 不明 1
 で あるもの約 20% をかかへてゐる。

この気持の生じた場合とこれを抑へて罪を犯さぬよう仕向けたものをきいてみると、

場合 柳文	小遣 銭に困 る	職が なかつ た	社会の 人がほ んやり してゐ たとき	夢の中 で罪を 犯した 時	前犯が わか りく びにな つた とき	比 ら れ た り 人 に 変 な 目 で み ら れ た と き	父と けんか をし た と き	家 庭 の 苦 し い と き	前 犯 者 と 言 ふ 言 葉 を き いた と き	計
刑務所 のつら さ	1									1
悪い事 はし たい と 言 ふ 心 掛 け				1						1
職が みつ つた		1								1
入所中 の信 任級 のバ ッグ を思 ひ出 す			1							1
短気 は 換 気					1					1
親兄弟 の争						1				} 5
田の愛 自己の 理性							1			
入所中 の先 生の 強 く と 言 ふ 言 葉 と 家 族 の 更 生 を 祈 る 心								1		
妹の誠 意									1	
家庭近 隣の 暖 み									1	

であつた。 数が少く信頼性もうすいが今後の足掛りともなればよいと考えられる。

(木) 生活の上で責任もなくなり、自暴自棄になるようなことはあるかないか、をみると、

あるもの、6 ないもの 36, 無答 2 であつた。

あるものをみると、

あつた場合 抑えたもの	生活 苦	罪人 扱ひ	将来を考 へた時	無 答
田、妻、子、妹	1	1		1
正しく生きようと する心	1	1		
友人の忠告と 理性			1	

であつた。

(ナ) 将来への希望

(i) 将来どういふ生活をしてみたいか

(ii) そのためにどうしようと思ひますか

(i) \ (ii)	無 答	良 い家 庭生 活を した い	現 在ま ま進 みたい	な わ か ら ぬ	労 働者 のた め の 幸 福に して やる	生 活を 生 か い の あ る	商 売を した い	出 来 る 天 の 生 活	人 に 感 謝 を か け ぬ	わ か つ た 人 間 に な り た い	計
無 答	12	2	1	4							19
仕事を一生懸 命にする		6	2					1			9
確固とした職 に就く事		1				1					2
一生懸命かん はる		4	1								5
一日たのしく 働けば				1							1

別になし			1								1
収入を多くする		1									1
戦いつづける					1						1
人間を磨きたい							1				1
人に迷惑をかけぬ様									1		1
努力忍耐								1		1	2
信仰生活を強くする	1										1
計	13	14	5	5	1	1	1	2	1	1	44

(iii) 家族の方その他についてはどんな希望をもつてゐるか。
この答へは *undimension* のものではないが、これについて答への種類を参考の巨め唯あけておこう。

(a) 妻には

無答	人並の争をさせたい	愛を喚べる	なし	理解してほし	安心させる事	申訳がない	わすれてほしい	向上させたい	忠実に盡したい	らくな生活	信頼し合ひ度い	幸福にくらす	より夫に寄りた	まじめに働く事	計
27	1	2	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	44

(b) 両親には

無答	やりた	安心させて	なし	理解と援助を	申訳がない	忘れてほしい	悲しい態を見たくない	向上させたい	忠実に盡したい	信頼し合ひたい	愛情をよむ	まじめに働く事	平和な生活	貧しくとも	計
20	7	5	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	44

(c) 子供には

無 答	幸福に 親としての責 任を果す	唯成長をまっ	教育を興へ 資産を殖す	な し	安心させる事	甲斐ない	向上させたい	忠実に 盡したい	信頼し 合ふ度い	元気で 活字様に	まじめに 働く手	愛 情	計
23	1	2	3	5	1	2	1	1	1	2	1	1	44

(d) 親族には

無 答	不義理せぬ	な し	甲斐ない	向上させたい	生かしのあ る生活を	忠実に 盡したい	二度と悪争で なく、明るい合	信頼し 合ふ度い	信用さ小 る様に	馬鹿者と去付 お交際して頂い	まじめに 働く手	計
24	1	8	1	1	1	1	1	2	2	1	1	44

(e) 友人には

無 答	後指さされ ぬ様	な し	仲良く交際	甲斐ない	向上させたい	裸に気持ち 交際したい	生かしのあ る生活を	忠実に 盡したい	自分の様に存 らぬ様注意する	信頼し 合ふ度い	普通 出来る様 に交際	親 切	まじめに 働く手	計
22	2	7	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	44	

後註. 質問に対する答へてして、こちらの要求とはポイント外れのもの、dimension のことなるものの含まれることも見受けられた。

しかし、簡単な記入方式によるためその制限上止むを得なかつた。面接法によつてはこの様なことはおこらないのである。

第五 失敗者と成功者との比較

(*Prediction Table*のモデル的作成と判断成功率)

§ 1. 序

ここで述べようとするのがこの研究の目的である。

いろいろなファクターについて、失敗者、成功者(同一期間に假釋放されたもの)双方に調査を行ひ、反応が如何よくなることなつてゐるかをしらべ、かくしてこの資料を用ひ假釋放成否の豫測(釋放者の社会的豫後豫測)を行おうとするものである。

双方において反応のことなつてゐるファクターがいかなる豫後を示すかの豫測に有力な要因となるのである。

まづこの様な要因の発見から我々の方法が始まる。

重要な第一のわらひは要因は本質的に釋放前に知られると言ふことである。しかもこの要因が有力なものであると言ふことである。即ちある要因をもつときどの様な社会環境の中に入つても、成功する或は失敗すると言ふ様なものであれば申し分はないのである。以上の様な意味での *1st* カテゴリー、*1st Class* の要因をみつける必要がある。

次にこれがそれほど有力でなくとも相当に失敗、成功を分別する要因をみつけることが大切になつてく。

これが *2nd* カテゴリー、*2nd Class* の要因となる。

しかしいろいろなテンションをもつ社会の中に釋放者は入つてゆくのでこの事前のもの丈で十分満足する様な豫測をできることにはならない。したがつて次に重要なこととして釋放後実際に遭遇した或はしてゐた状況といふものを双方についてしらべて、

成功、失敗で非常にことなつてゐるものがあるが、2nd カテゴリーの要因としてとりあげるのである。

この豫測的価値としては、これこれの諸元をもつものか、云々の境遇になるときかうかうなると言ふことを知りうる点にある。

従つてあらかじめわからぬか、成功にみちびく様な環境に入るであらうと言ふ確実な見込みある場合、或はその様な状態に入れるような措置を講じ得られる場合にはこの要因は豫測の立場からは1st カテゴリーと同等のとりあつかひが可能となるのである。

蓋しこれは一種の條件つき成功、失敗の豫測を行はしめるものであると言へる。

しかし、この要因は云々の諸元をもつ釋放者の社会における取扱ひ方、これを成功せしめる取扱ひ方を告げる点において別な大きないみをもつのである。

いづれにしても上述の立場から要因を見出し、これを「再犯調査の基礎」においてのべた *Parole Prediction* における統計的方法の一応用について、或は又「統計数理的数量化の問題（統計数理研究所、講究録第6巻1,2,3号）」の第七章、現教豫測の立場よりする数量化、社会現象の統計数理（朝倉書店）にのべられてある理論を応用し、それらの要因を数量化し、結合方法を求め、これによつて *Prediction Table* を作成し、これにもとづく判断成功率を求めてみようと思ふ。

この理論についてはあらためて説明しないので上記の論述を参照せられたい。ここでは確数値のみをかけたおくことにする。（計算法に関しては本輯報第7号参照）

理論は一般的なものであるが、ここに用ひた資料は一時期、一刑務所の比較的少数のものについての資料であつて、全国から見ると偏つたものであるかといはれない。

したがってここで求められた Prediction Table, 成功率は、一般的全国的なものであるとは言ひがたい。(横浜刑務所の場合にはまづよいと考えられる。) しかし、ここでのべた方法にしたがふとき、資料の範囲、時期を結論の妥当する領域にふさわしく適当にとるならば同じ leading idea によつて一般的 Prediction Table 成功率を求めることができる。

・ここでのべる結果はこれを行ふための一つの準備調査、身かための調査、モデル調査としての意味をあたへてゐると考へることが出来る。

この点に注意されて読んでいただきたい。

註. なほここにとりあげられたファクター(要因)は所謂“実態”そのものではなく、調査によつて得られたのであるから、その調査の方法に依存したものであつて、“かくかくの調査法によつて得られた資料”である事に注意しなければならぬ。内容そのものでなく云々調査法によつて得られた資料と云ふ機能的立場において解釋されねばならぬ。利用もこの立場にたたなくてはならぬ。

§ 2. 前述の要因を (1) 1st カテゴリー(事前に知り得られるもの) (2) 2nd カテゴリー(釋放後の状況)にわけて有力な要因、つまり成功者、失敗者で差異を來す様な要因をまづみつけてゆかう。

両者比較出来るものについて以下の様に χ^2 -検定、或は一般的乖離層の測度 S^2 (講究録第6巻第4号)、適合度の検定と、 χ^2 -検定参照)を用ひて比較を行つてみた。なほ、現実によつて全く差のないものについては、これを行はなかつたものもある。

まず、第一種のカテゴリーから始める。この特色については第五別表参照。

一々のものについては以下の通りである。

検定の結果有力な要因と考えられるもの（有意差のあるもの、或は無いものであつても有力と思はれるもの）については前述の論文による数量化の方法によつて各カテゴリーに数量をあたへた。つまり成功、失敗両グループの分布がなるべく隔る（分散一定の下に）様にカテゴリーに数量をあたへた結果である。

この結果は以下の図表の中に示してある数字である。

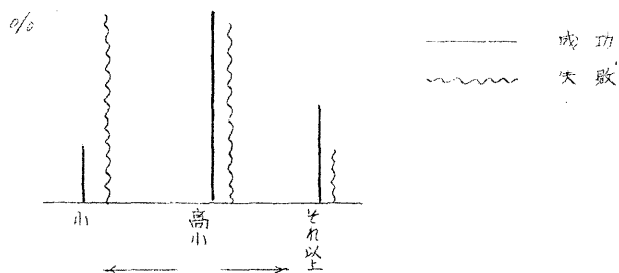
例へば、学歴についてみよう。成功、失敗の比率・% は夫々

	小学校	高小	それ以上	サンプル数
成功	20.9	53.5	25.6	43
失敗	40.5	45.7	13.8	116

である。ここで χ^2 検定を行ふと

$$\chi^2 = 6.36 \quad (\text{自由度 } 2)$$

で成功、失敗間に有意差があることがみとめられる。ここで学歴のカテゴリーを成功失敗の二つのグループでなるべく差の出る様に（各グループの分散一定）数量化するのである。



かうすると、数量は

小 学	高 小	それ以上
-1.289	0.139	1.651

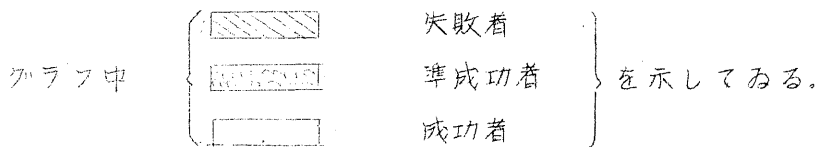
となり、成功の平均は 0.2286

失敗の平均は -0.2286

となり、その差は 0.4572 となり、これが両グループの一番隔りある状態となる。

この様な方法をたどつて以下検査と数量化が行はれた。

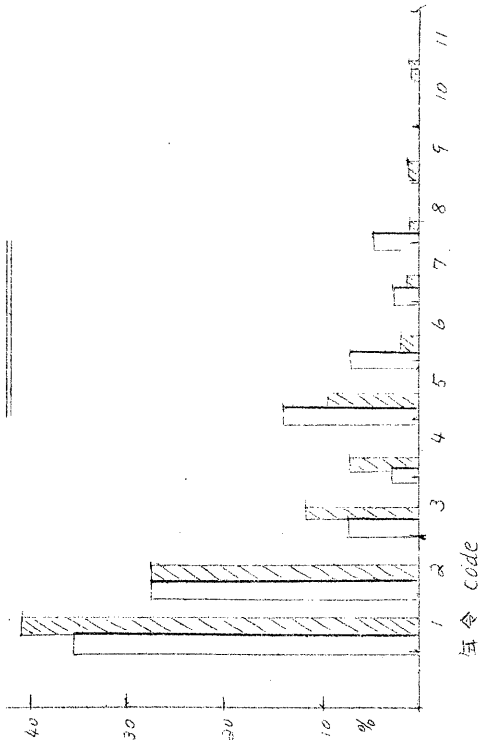
審査(得点)票については成功者と準成功者(成功者ではあるが調査票の返送なく又住所不明のもの、前述第二編、第二章参照、ここで③④⑤に相当するもの)の分があるので、失敗者、準成功者、成功者の三つを比較した。中間のものが両端の間に出てきておるのは興味深いものがある。



註. 以下の記述で有意差ありとするものは、特にことわらぬかぎり危険率 5% とする。1% にても有意差あるものについては*印をつけておく。

例 有意差あり*

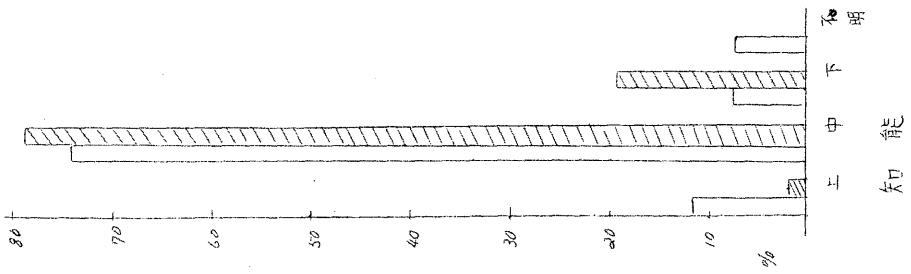
年令



年令	21	26	31	36	41	46	51	56	61	66	71	計
命令	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	
Code	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
成功	15	12	3	1	6	3	1	2				43
失敗	67	46	19	10	15	2	2	1	2	0	1	165
成功%	34.9	27.9	7.0	2.3	14.0	7.0	2.3	4.6				100.0
失敗%	40.6	27.9	11.5	6.1	9.1	1.2	1.2	0.6	1.2		0.6	100.0

Code
 1, 2, 3+4, 5以上
 S^2 0.00342
 0.339
 有意差なし

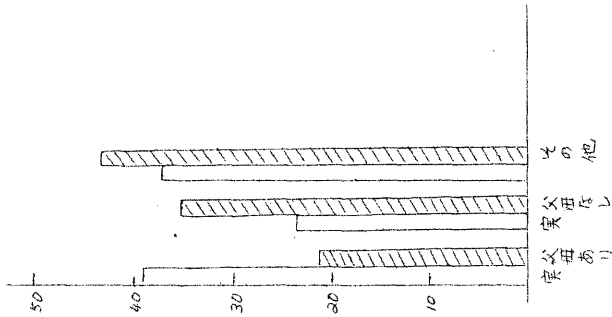
知能



知能	上	中	下	不明	計
成功	5	32	3	3	43
失敗	2	92	22		116
成功%	11.5	74.5	7.0	7.0	100.0
失敗%	1.7	79.3	19.0		100.0

S^2 0.010519
 判別 1.481
 有意差なし

親族関係(父母)



	実母あり	実母なし	計
成功	17	10	43
失敗	25	41	116
成功%	39.6	23.3	100.0
失敗%	21.5	35.3	100.0

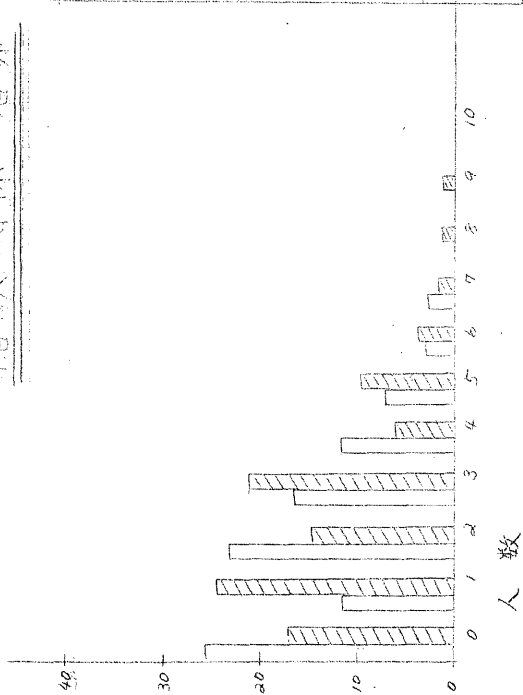
χ^2 5.53 DF 2
 有意差なし

実父母あり	実父母なし	その他
1.168	-1.430	0.155

m

成功	0.1868
失敗	-0.1868

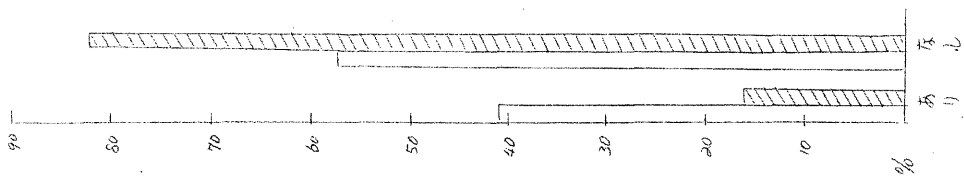
親族関係兄弟



人数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
人数	20	28	17	24	7	11	4	2	1	1	1	116
平均	1.1	5.1	10.7	7.5	3.3	5.3	1.6	1.1	0.9	0.9	0.9	4.3
平均 %	17.2	23.3	11.6	16.3	6.0	9.5	3.5	1.7	0.9	0.9	0.9	100.0

有意差なし

妻のあり、なし、

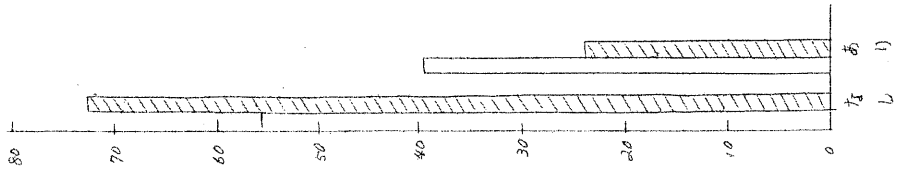


	あり	なし	計
成功	18	25	43
失敗	27	138	165
成功%	41.9	58.1	100.0
失敗%	16.4	83.6	100.0

$\chi^2 13.08 (D.F.1)$

有意差あり*

親族関係妻

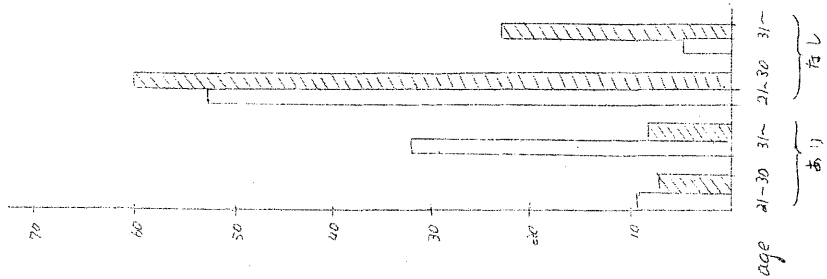


	なし	妻あり	計
成功	25	18	43
失敗	88	28	116
成功%	58.1	41.9	100.0
失敗%	75.8	24.2	100.0

χ^2 4.79 (D.F.1)

有意差あり

妻のありなし × age (現在)



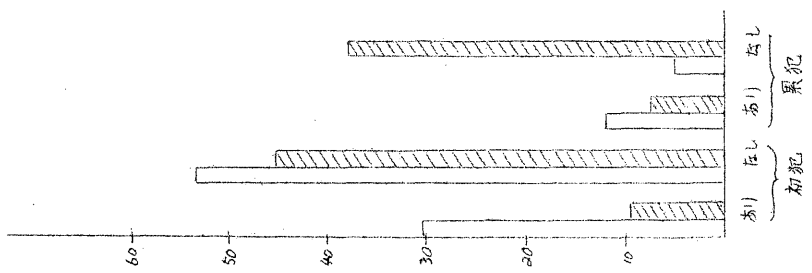
妻 年令	あり		なし		計
	21-30	31~	21-30	31~	
成功	4	14	23	2	43
失敗	13	14	100	38	165
成功%	9.3	22.5	53.5	4.7	100.0
失敗%	7.9	8.5	60.6	23.0	100.0

$S^2 = 0.01266$
判別 3.704
有意差あり

m
成功 0.3924
失敗 -0.3912

妻 年令	あり		なし	
	21-31	31~	21-30	31~
	0.235	1.716	-0.179	-1.944

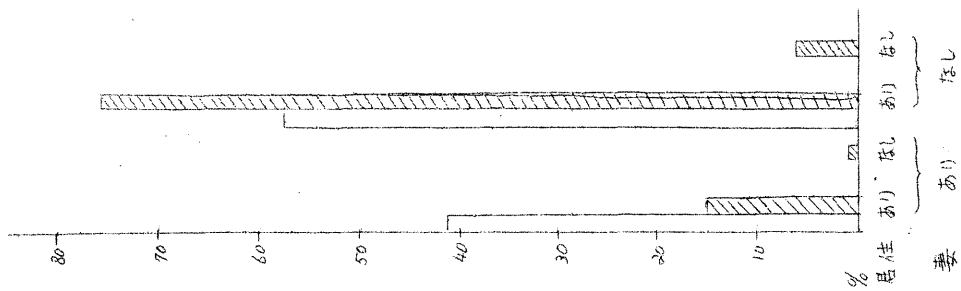
妻 × 犯数



妻	初犯		累犯		計
	あり	なし	あり	なし	
成功	13	23	5	2	43
失敗	15	75	12	63	165
成功%	30.2	53.5	11.6	4.7	100.0
失敗%	9.1	45.5	7.3	38.1	100.0

S^2 0.01492
 判別 4.703
 有意差あり

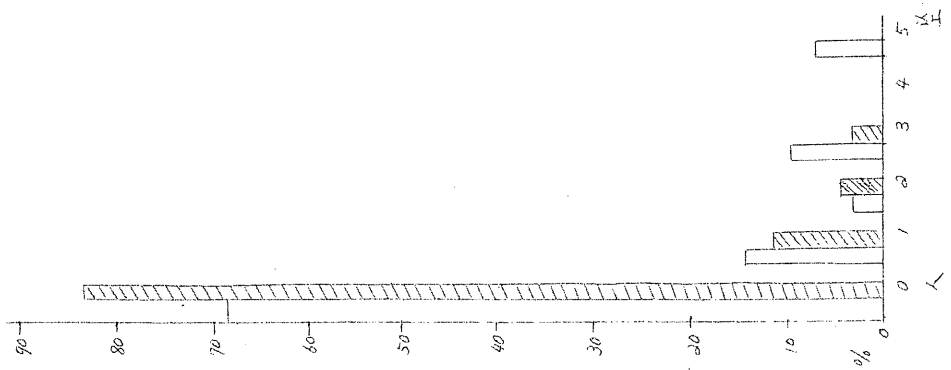
妻 × 居住



妻	あり		なし		計
	あり	なし	あり	なし	
居住	18		25		43
成功	26	1	128	10	165
失敗	41.9		58.1		100.0
成功%	15.7	0.6	77.6	6.1	100.0

$\chi^2 = 0.009384$
 判別 1.905
 有意差なし

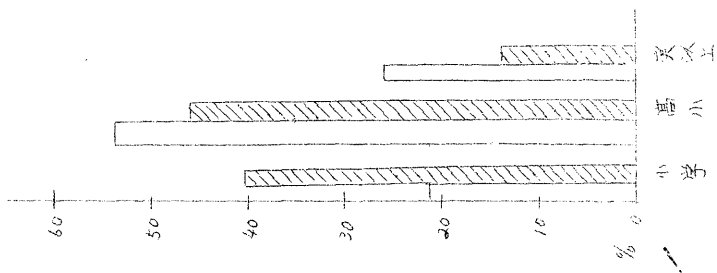
供子関係親族



人数	0	1	2	3	4	5	計
成功	29	6	1	4		3	43
失敗	96	13	4	3			116
成功 %	67.5	14.0	2.3	9.3		7.0	100.0
失敗 %	82.7	11.2	3.5	2.6			100.0

有意差なし

学 歴



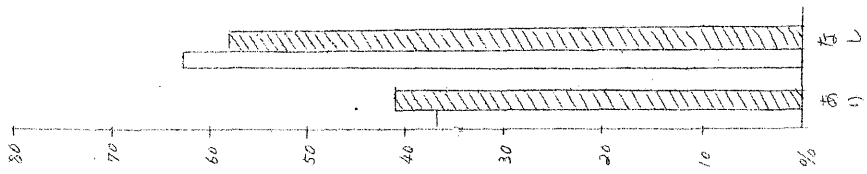
	小学		高小		実習以上		計
	卒業	中退	卒業	中退	卒業	中退	
成功	9	23	11	43			43
失敗	47	53	16	116			116
成功%	20.9	53.5	25.6	100.0			100.0
失敗%	40.5	45.7	13.8	100.0			100.0

χ^2 6.38 (D.F.2)
 有意差あり

n
 成功 0.2286
 失敗 -0.2286

小学	高小		実習以上	
	卒業	中退	卒業	中退
1.284	6.129	1.551		

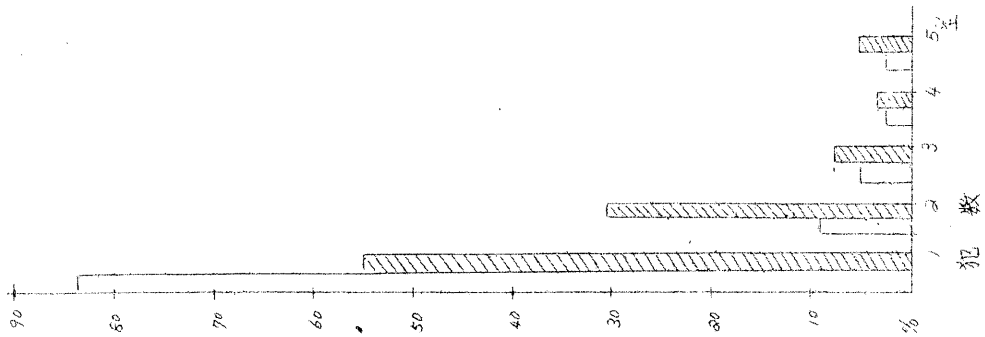
兵 役



	あり	なし	計
成功	16	27	43
失敗	69	96	165
成功%	37.2	62.8	100.0
失敗%	41.8	58.2	100.0

有意差なし

犯数

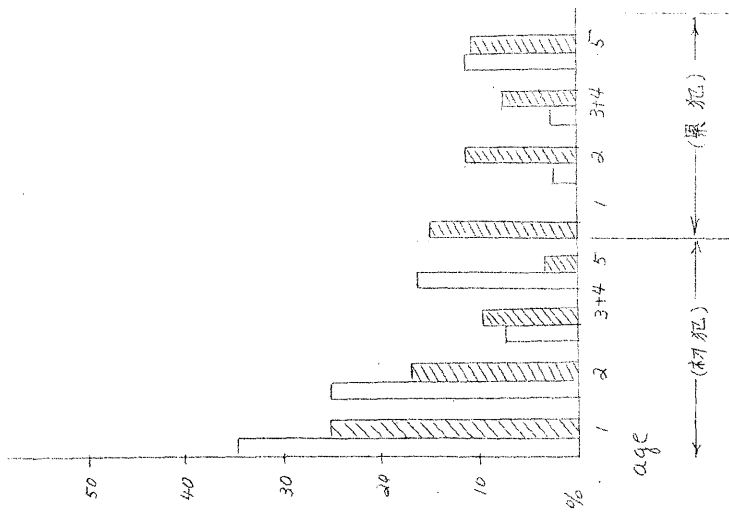


犯数	1	2	3	4	5以上	計
成功	36	4	2	1		43
失敗	90	50	12	5	8	165
成功 %	83.7	9.3	4.7	2.3		100.0
失敗 %	54.6	30.3	7.3	2.0	4.8	100.0

1犯とそれ以外
 χ^2 12.11 (D.F.1)
 有意差あり*

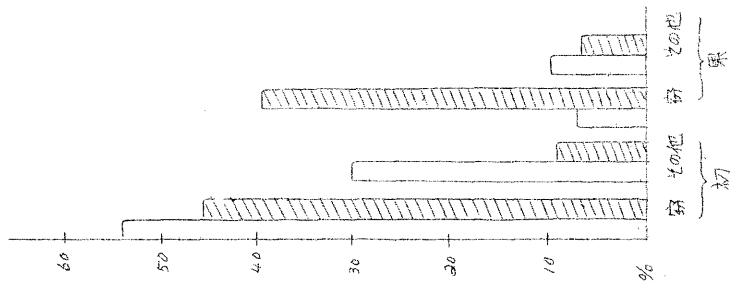
年令 × 犯数

	初犯		累犯		計
	1	2	1	2	
0.92	1	2	1	2	
失	42	27	25	13	165
成	15	11	1	1	43
失%	25.5	16.4	15.1	7.9	100.0
成%	34.9	25.6	2.3	2.3	100.0



そのまゝ
 $S^2 = 0.00736$
 判別式 1.706
 有意差なし

罪 質 × 犯 数



	初 犯		累 犯		計
	窃盗	その他	窃盗	その他	
成功	23	13	3	4	43
失敗	75	15	65	10	165
成功 %	53.5	30.2	7.0	9.3	100.0
失敗 %	45.4	9.1	39.4	6.1	100.0

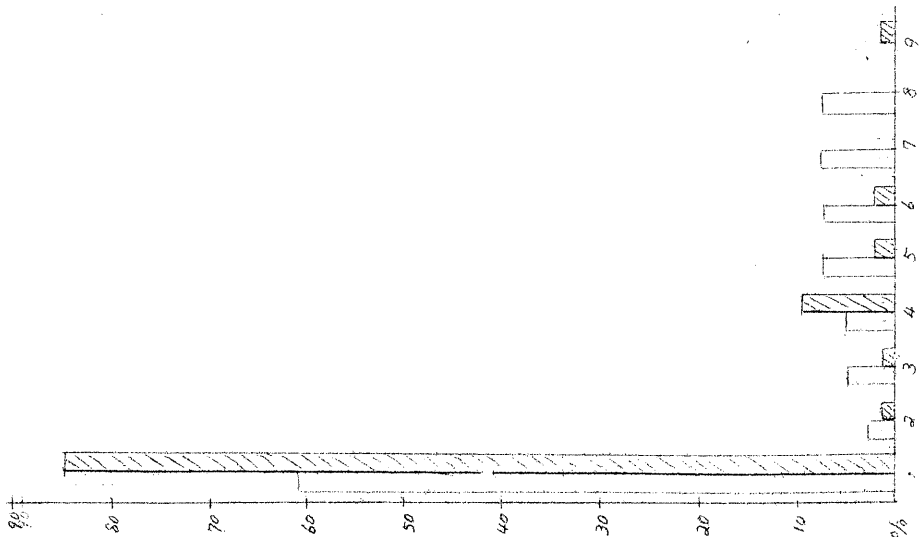
S^2 0.013988
 刑 罰 4.284
 有 意 差 あり

m
 成 功 0.4375
 失 敗 -0.4371

	初 犯		累 犯		計
	窃盗	その他	窃盗	その他	
成功	1.825	-1.497	0.319		
失敗	-0.072				

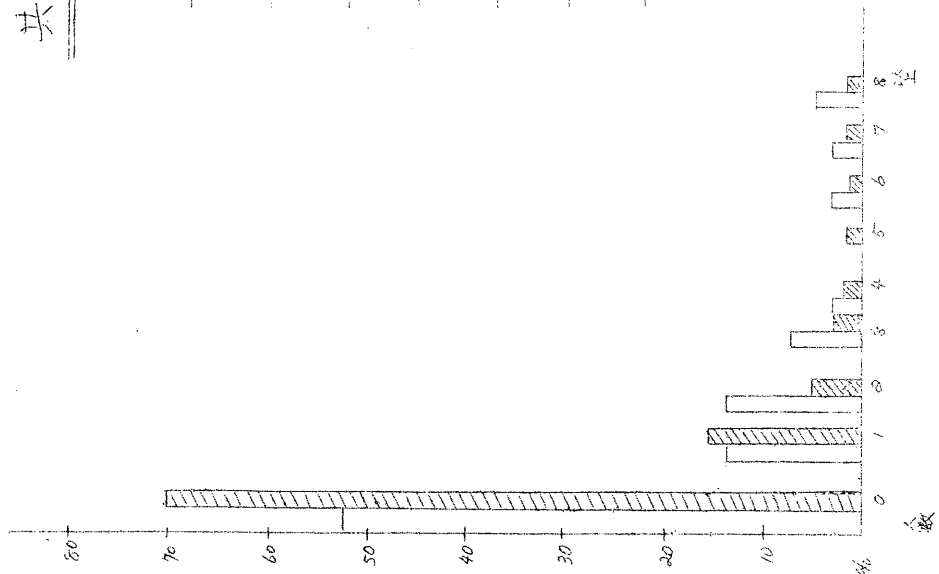
罪 質

罪 質	窃 盗	强 盗	伤 害	诈 欺	恐 喝	图 贼 係物	所 不 持法	违 食 反管	未 殺 逃 人	計
Code	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
成 功	26	1	2	2	3	3	3	3		43
失 敗	140	1	1	16	3	3			1	165
成 功 %	60.5	2.3	4.6	4.6	7.0	7.0	7.0	7.0		100.0
失 敗 %	84.9	0.6	0.6	9.7	1.8	1.8			0.6	100.0



窃 盗 と 之 凡 以 下
 $\chi^2 = 12.58$ (D.F. 1)
 有 意 差 あり *

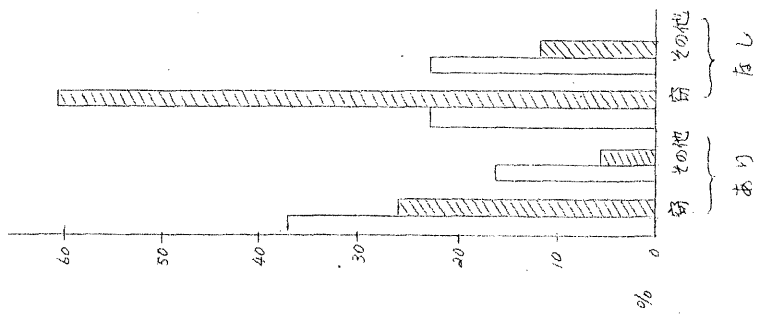
共犯者関係



	なし	あひ	2	3	4	5	6	7	8	計
成功	23	6	6	3	1		1	1	2	43
失敗	116	26	8	4	3	2	2	2	2	165
成功%	53.5	14.0	7.0	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	4.6	100.0
失敗%	70.3	15.8	4.9	2.4	1.8	1.2	1.2	1.2	1.2	100.0

画 1), 存し 飞
 $\chi^2 = 4.35$ (D.F. 1)
 有意差あり Δ

罪質×共犯の有無

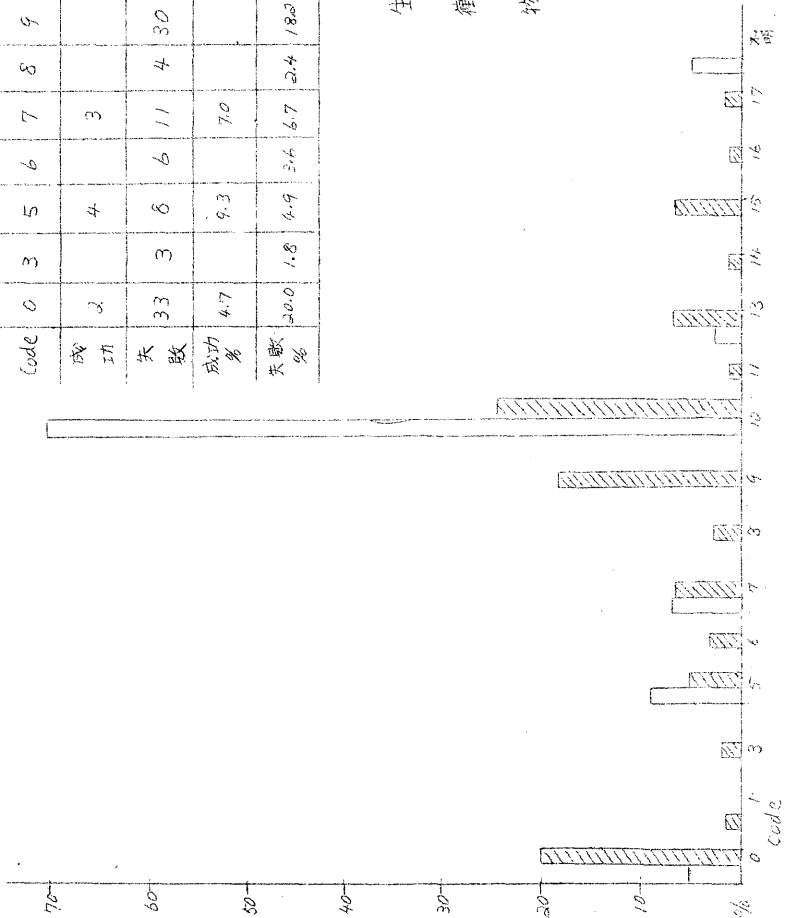


共犯 罪質	あり		なし		計
	窃	その他	窃	その他	
成功	16	7	10	10	43
失敗	43	6	97	19	165
成功%	37.3	16.3	23.2	23.2	100.0
失敗%	26.1	3.6	58.8	11.5	100.0

有意差あり

重 力 機

原因	生活苦	必要費	衝動	交友不良	怠惰	小遣銭	遊樂費	物欲	職業的	賭博	しつと	放浪中	なし	復讐	不明	家庭不和	計
Code	0	3	5	6	7	8	9	10	11	13	14	15	16	17		1	
成功	2		4		3			31		1					2		43
失敗	33	3	8	6	11	4	30	41	2	11	1	11	1	2		1	165
成功%	4.7		9.3		7.0			72.0		2.3					4.7		100.0
失敗%	20.0	1.8	4.9	3.6	6.7	2.4	18.0	24.8	1.2	6.7	0.6	6.7	0.6	1.2		0.6	100.0



生活苦 + 必要費 + 放浪中
 衝動, 交友不良 + 怠惰 + 小遣銭 + 遊樂費
 物欲, 職業的 + 賭博, その他(全ア)

S^2 0.0163

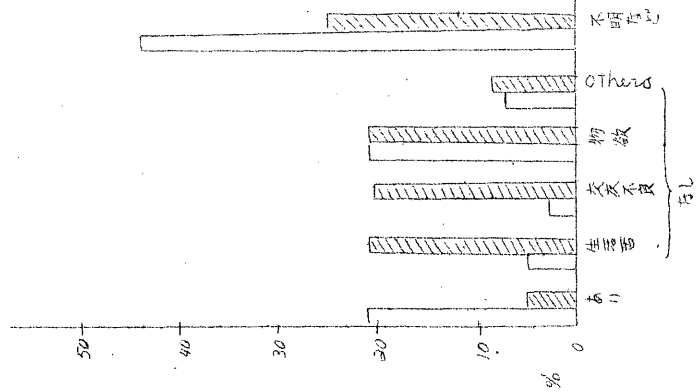
6.161

有意差あり

保護者の資産状況×動機

保護者の 資産状況	なし				無答 不明	計
	あり	生活苦	交友不良	物欲 others		
動機						
成功	9	2	1	3	19	43
失敗	6	25	24	10	30	120
成功 %	20.9	4.7	2.3	7.0	44.2	100.0
失敗 %	5.0	20.8	20.0	8.3	25.0	100.0

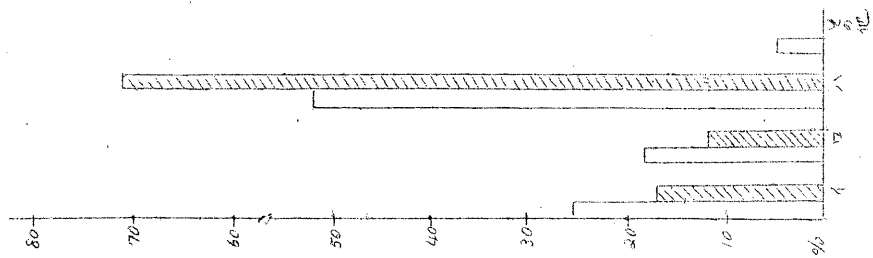
有意差あり



あり	なし			無答 不明
	生活苦	交友不良	物欲 others	
2.082	-1.398	-1.592	-0.284	0.526

m
 成功 + 0.4726
 失敗 - 0.4726

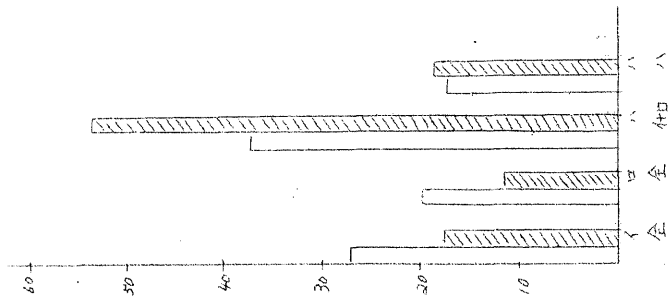
逮捕せられた事に対して



	強く感懐する イ	少し感懐する ロ	感懐しない ハ	その他	計
成功	11	8	23	2	44
失敗	28	19	118		165
成功 %	25.0	18.2	52.3	4.5	100.0
失敗 %	17.0	11.5	71.5		100.0

その他ぬかしそのまま
 $\chi^2 = 4.35$ (D.F. 2)
 有意差あり

逮捕せられた事に対して × 裁判に対して



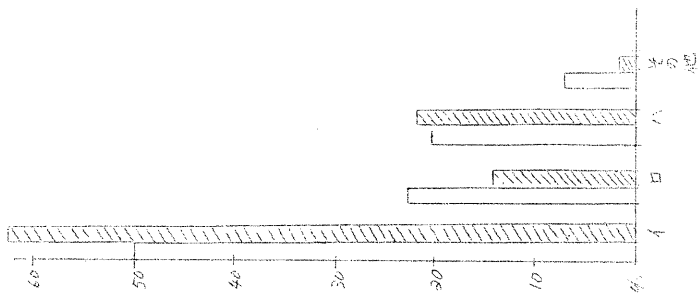
逮捕	イ	口	全	ハ	計
裁判	全	全	15	7	41
成功	11	8	15	7	41
失敗	28	19	88	30	165
成功%	26.8	19.5	36.6	17.1	100.0
失敗%	17.0	11.5	53.3	18.2	100.0

有意差なし
 χ^2 5.153 (D.F.3)

m
 成功 0.1908
 失敗 -0.1916

逮捕	イ	口	全	ハ
裁判	全	全	15	7
	1.150	1.268	-1.007	0.021

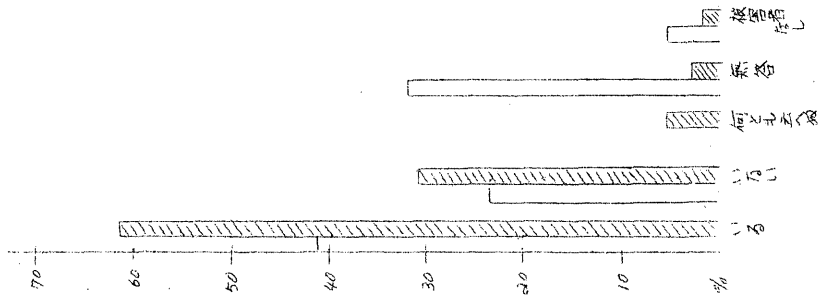
裁判に対して



	計			
	公平	不公平	その他	
	イ	ロ	ハ	
成功	22	10	9	44
失敗	104	24	1	165
成功%	50.0	22.7	20.5	100.0
失敗%	63.0	14.5	21.5	100.0

その他ありし、そのまま
 χ^2 2.39 (D.F. 2)
 有意差なし

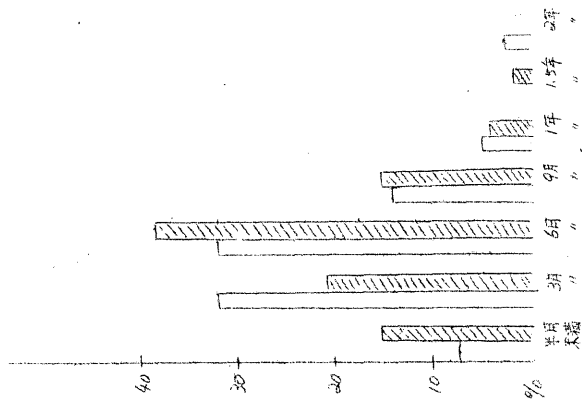
被害者に対して何か感じてゐるか



	い る	い な い	何 も 云 ふ	無 答	被害者なし	計
成功	18	10		14	2	44
失敗	101	50	9	4	1	165
成功%	40.9	22.7		31.8	4.6	100.0
失敗%	61.2	30.3	5.5	2.4	0.6	100.0

信 任 期 間

	半 月 未 満	3 月 "	6 月 "	9 月 "	12 月 "	1 年 半 "	2 年 "	不 明	計
成 功	3	14	14	6	2		1	3	43
失 敗	17	24	46	18	5	2		4	116
成 功 %	17.0	32.5	32.5	14.0	4.7		2.3	7.0	100.0
失 敗 %	14.7	20.7	39.6	15.5	4.3	1.7		3.5	100.0

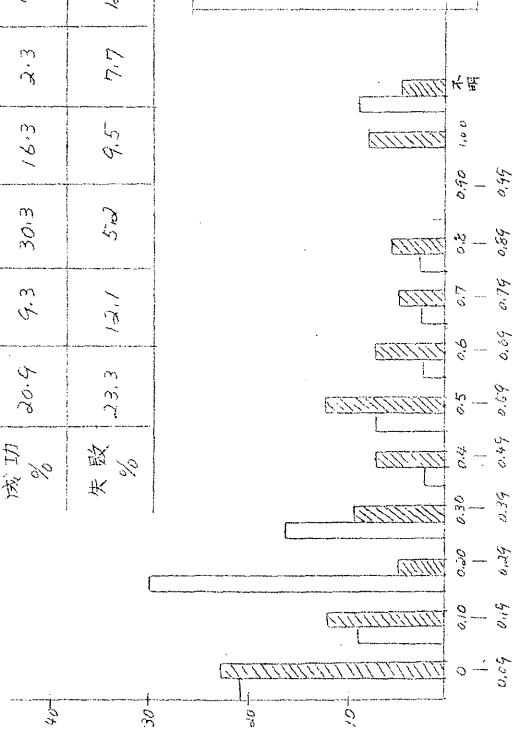


12月以上とあつた
 S^2 0.002542 判別 1.182
 有意差なし

信任 刑罰

信任/刑罰	0~ 0.09	0.10~ 0.19	0.20~ 0.29	0.30~ 0.39	0.40~ 0.49	0.50~ 0.59	0.60~ 0.69	0.70~ 0.79	0.80~ 0.89	0.90~ 0.99	1.00	不明	計
成功	9	4	13	7	1	3	1	1	1			3	43
失敗	27	14	6	11	9	14	8	6	7		9	5	116
成功 %	20.9	9.3	30.3	16.3	2.3	7.0	2.3	2.3	2.3			7.0	100.0
失敗 %	23.3	12.1	5.2	9.5	7.7	12.1	6.9	5.2	6.0		7.7	4.3	100.0

288

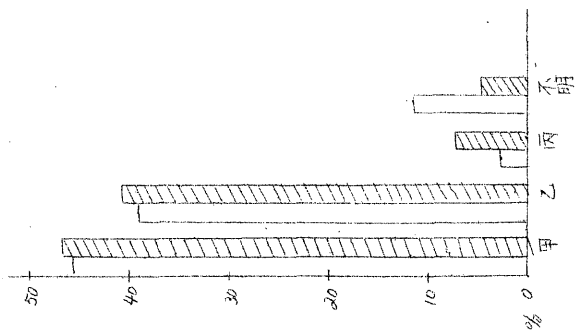


0~0.09, 0.10~0.19, 0.20~0.29, 0.30~0.39,
それ以上

χ^2 27.55 (D.F.4)
有意差あり*

健康狀態

	甲	乙	丙	不明	計
成功	20	17	1	5	43
失敗	55	48	8	5	116
成功%	46.5	39.6	2.3	11.6	100.0
失敗%	47.4	41.4	6.9	4.3	100.0

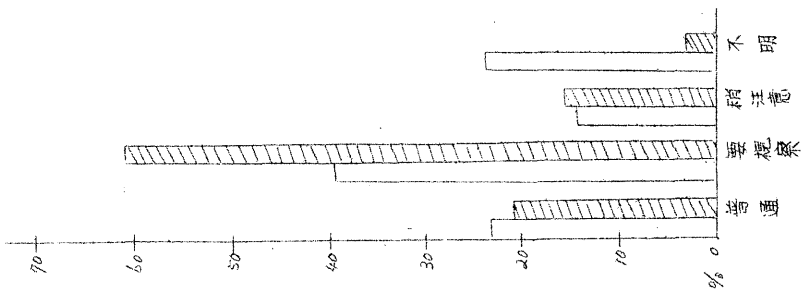


有意差在し

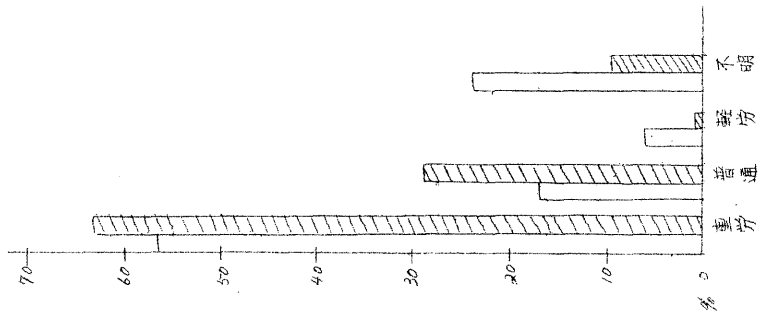
逃走

	普通	要観察	稍注意	不明	計
成功	10	17	6	10	43
失敗	24	70	18	4	116
成功%	23.2	39.6	14.0	23.2	100.0
失敗%	20.7	60.3	15.5	3.5	100.0

相違差なし



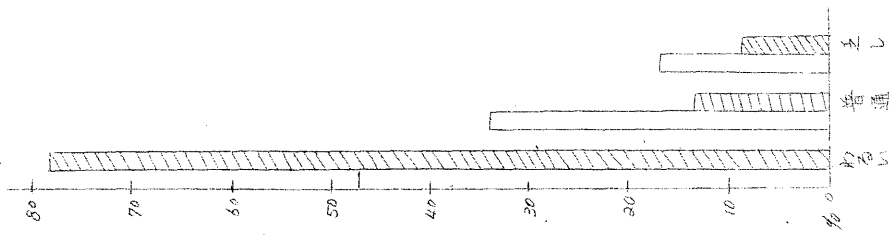
労働の程度



	重労働	普通	軽労働	不明	計
成功	24	7	2	10	43
失敗	72	33	1	10	116
成功%	55.8	16.3	4.7	23.2	100.0
失敗%	62.1	28.4	0.9	8.6	100.0

有意差なし

社 會 感 情



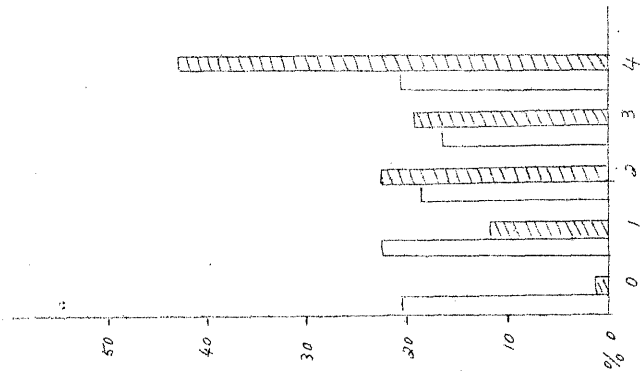
	わるし+稍ゆるし	普通+稍おし	なし+至し	計
成 功	14	10	5	29
失 敗	85	15	9	109
成 功 %	48.3	34.5	17.2	100.0
失 敗 %	78.0	13.8	8.2	100.0

χ^2 8.43 (D.F.2)
 有意差あり

釋放上の注意

(利点不利点綜合)

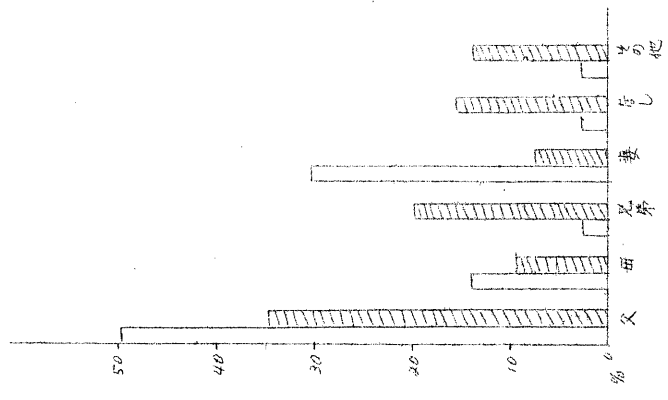
	無答	利	稍利	稍不利	不利	計
Code	0	1	2	3	4	
成功	9	10	8	7	9	43
失敗	1	14	27	23	51	116
成功%	20.4	23.3	18.6	16.3	20.9	100.0
失敗%	0.9	12.1	23.2	19.6	44.0	100.0



先 3.28 (D.F.1)

有意差なし

釋放後の保護者



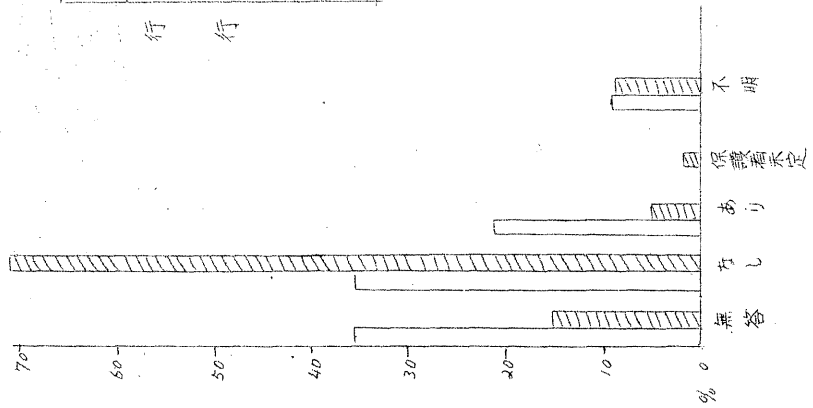
	父	母	兄弟	妻	存し	その他	計
失敗	57	16	32	12	25	23	165
成功	21	6	1	13	1	1	43
失敗 %	34.5	9.7	19.4	7.3	15.2	13.9	100.0
成功 %	48.9	14.0	2.3	30.2	2.3	2.3	100.0

$S^2 = 0.0129$
 判別式 4.46
 有意差あり

m
 失敗 - 0.5270
 成功 0.5269

父	母	兄弟	妻	存し	その他
0.048	0.073	-1.464	1.959	-1.418	-1.398

保護者の資産状況

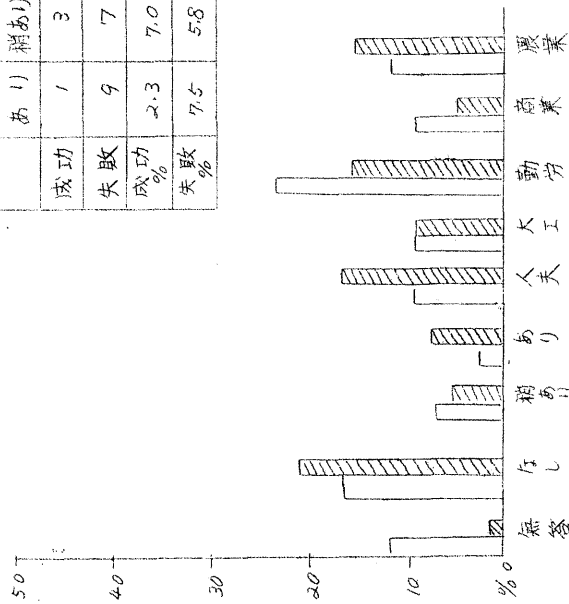


	無答	なし	あり	保護者未定	不明	計
行	17	85	6	2	10	120
行	15	15	9		4	43
失敗 %	14.2	70.9	4.9	1.7	8.3	100.0
成功 %	34.9	34.9	20.9		9.3	100.0

なし, ありのみで
 $\chi^2 15.99 (D.F. 1)$
 有意差あり*

生計見込

	あり	稍あり	なし	人夫	大工店	勤労	商業	農業	無答	計
成功	1	3	7	4	4	10	4	5	5	43
失敗	9	7	25	20	11	22	6	19	1	120
成功%	2.3	7.0	16.3	9.3	9.3	23.3	9.3	11.6	11.6	100.0
失敗%	7.5	5.8	20.8	16.7	9.2	18.4	5.0	15.8	0.8	100.0

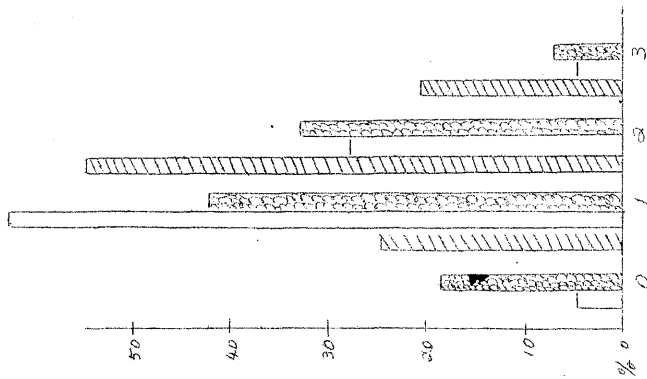


有意差なし

再犯素地 1~5

	0	1	2	3	計
失敗		26	59	22	107
成功	2	27	12	2	43
失敗	14	32	25	5	76
成功%		24.3	55.1	20.6	100.0
成功	4.6	62.9	27.9	4.6	100.0
失敗%	18.4	42.1	32.9	6.6	100

	0	1	2	3
成功	1.961	1.106	-0.727	-1.791

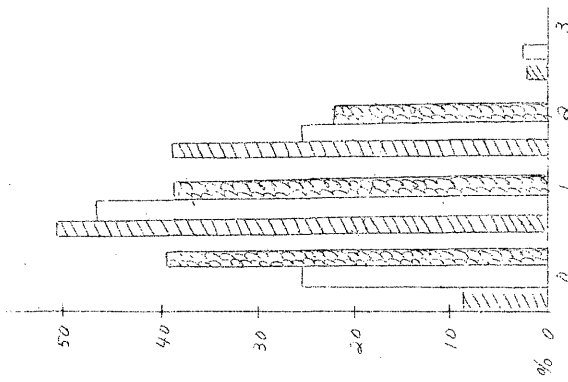


$S^2 = 0.02294$
 判別式 5.086
 有意差あり

m
 成功 0.5008
 失敗 -0.5009

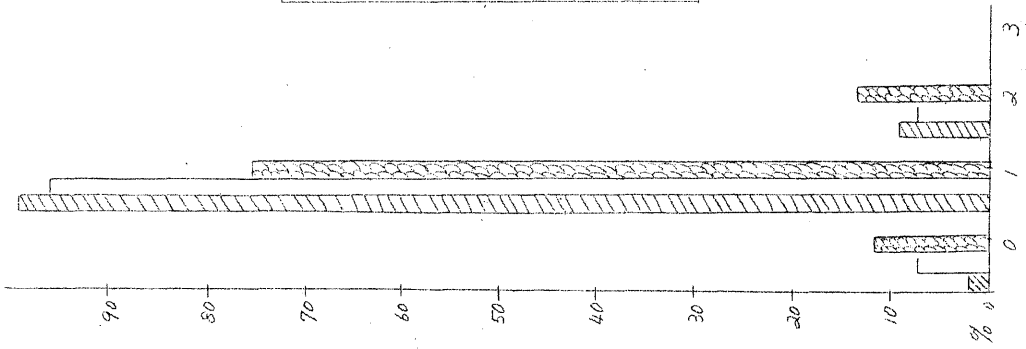
再犯素地 6~10

	0	1	2	3	計
失敗	4	54	42	2	107
成功	11	20	11	1	43
	30	29	17		76
失敗%	84	50.5	39.2	1.9	100.0
成功%	25.6	46.5	25.6	2.3	100.0
	39.5	38.1	22.4		100.0



有意差なし

再犯素地 11~19

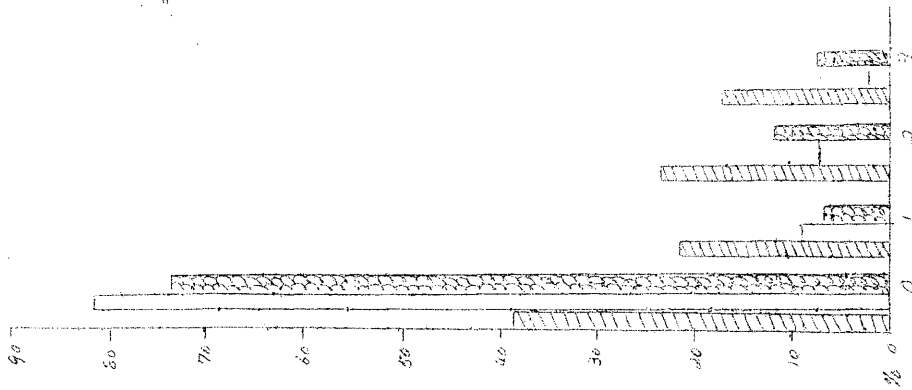


	0	1	2	3	計
失敗	2	95	10		107
成功	a	37	3		43
	b	57	10		
失敗%	1.9	88.8	9.3		100.0
成長%	a	7.0	86.0	7.0	100.0
	b	11.8	75.0	13.2	
					100.0

有意差なし

再犯素地 20

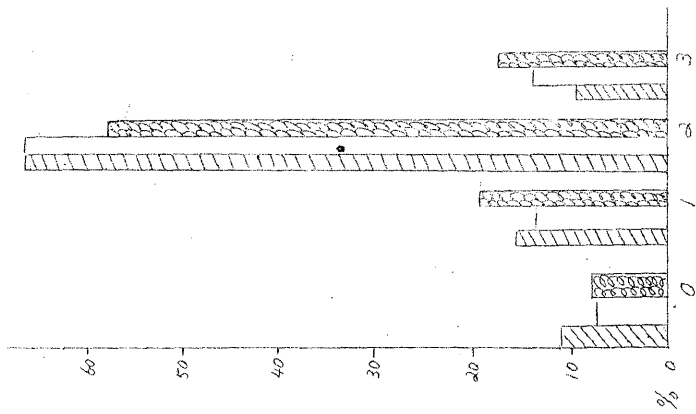
	0	1	2	3	計
失敗	41	23	25	18	107
成功	a	4	3	1	43
	b	56	9	6	76
失敗%	38.3	21.5	23.4	16.8	100.0
成功率	a	8.14	9.3	7.0	100.0
	b	73.7	46.6	11.8	100.0



$N = 0.01940$
 判罰式 4.343
 行慮差あり

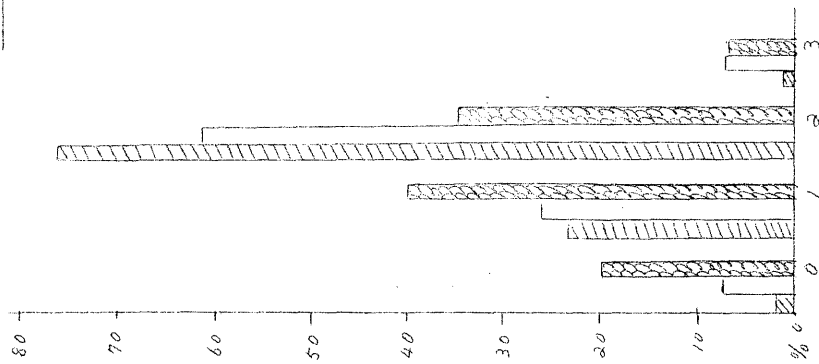
再犯素地 21~25

	0	1	2	3	計
失敗	11	16	70	10	107
成功	a	6	28	6	43
	b	6	14	13	76
失敗	10.3	15.0	65.4	9.3	100.0
成功%	a	13.9	65.2	13.9	100.0
	b	7.9	18.4	56.6	17.1



有意差なし

復帰社会犯因性 1~5



	0	1	2	3	計
失敗	2	24	80	1	107
成功	3	11	26	3	43
	15	30	26	5	76
失敗%	1.9	22.4	74.8	0.9	100.0
成功%	7.0	25.6	60.4	7.0	100.0
	19.7	39.5	34.2	6.6	100.0

$S^2 = 0.00637$
 判別式 0.1612
 有意差なし

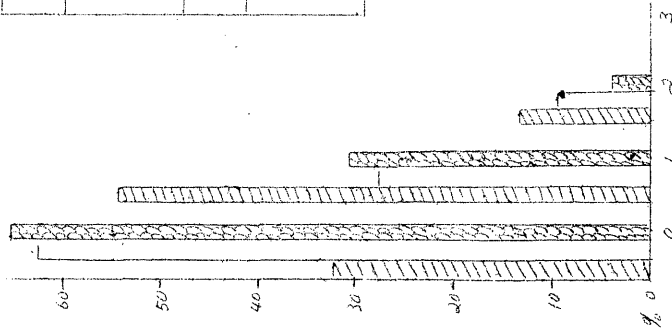
犯因性 6~10

	0	1	2	3	計
失敗	35	58	14		107
成功	27	12	4		43
	50	23	3		76
失敗%	32.7	54.2	13.1		100.0
成功%	62.8	27.9	9.3		100.0
	65.8	30.3	3.9		100.0

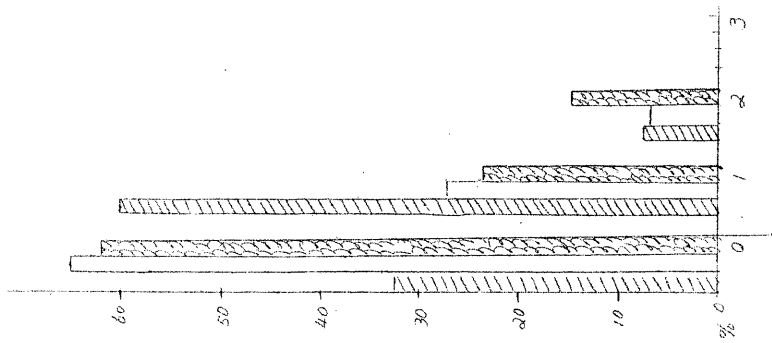
$\chi^2 11.626$ D.F. 2
 有意差あり*

m
 成功 0.3191
 失敗 - 0.3192

0	1	2
1.074	-1.139	-0.406



犯因性 11~15



	0	1	2	3	計
失敗	35	64	8		107
成功	28	12	3		43
	47	18	11		76
失敗%	32.7	59.8	7.5		100.0
成功%	65.1	27.9	7.0		100.0
	61.8	23.7	14.5		100.0

χ^2 0.0154
 ・判別式 2.761
 有意差否 乙

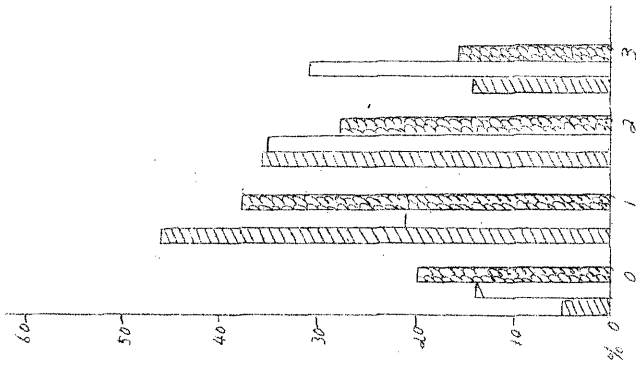
犯因性 16~20

	0	1	2	3	計
失敗	5	49	38	15	107
成功	a	9	15	13	43
	b	15	28	12	76
失敗%	4.7	45.8	35.5	14.0	100.0
成功%	a	20.9	34.9	30.2	100.0
	b	19.7	38.9	27.6	100.0

$\chi^2 12.830$

D.F. 3

有意差あり*



失敗	-0.3303
成功	0.3302

0	1	2	3
1.527	-1.306	0.082	1.195

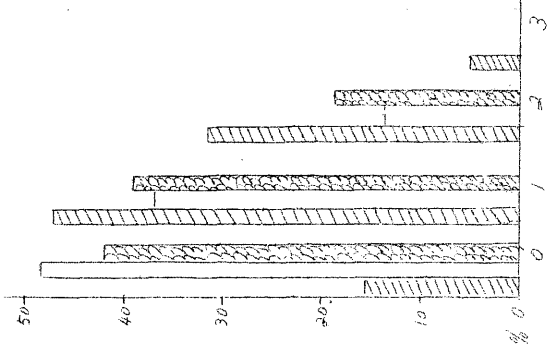
犯因性 21~25

	0	1	2	3	計
失敗	17	51	34	5	107
成功	21	16	6		43
	38	30	14		76
失敗%	15.9	47.6	31.8	4.7	100.0
成功%	45.9	37.2	13.9		100.0
	42.1	39.5	18.4		100.0

χ^2 19.56 D.F.3
有意差あり*

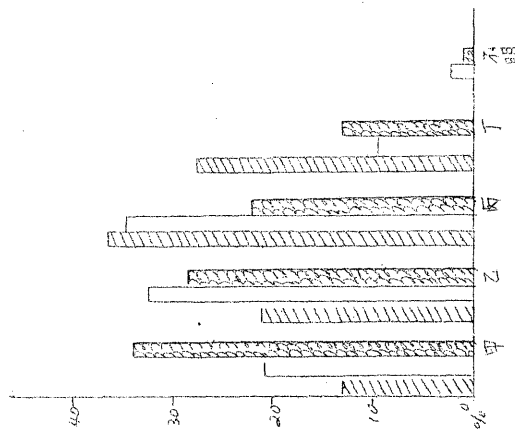
m
失敗 -0.4181
成功 0.4181

0	1	2	3
1.415	-0.325	-1.101	-2.943



難点比率

	1~30 甲	31~40 乙	41~50 丙	51~ 丁	無記入	計
成功	a	34	27	16	1	119
	b	9	14	15	4	43
失敗	14	23	40	30		107
成功%	34.4	26.6	22.7	13.5	0.8	100.0
%	a	32.6	34.9	9.3	2.3	100.0
失敗%	13.1	21.5	37.4	28.0		100.0

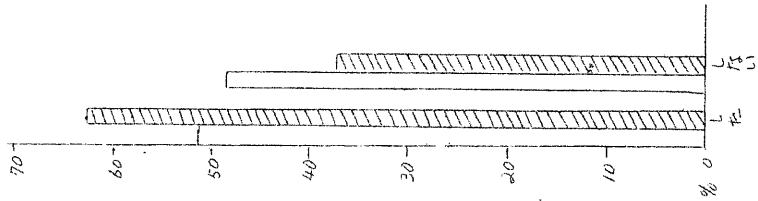


$$\chi^2 \quad 7.616 \quad (D.F. 3)$$

有意差在し

次に、第2カテゴリーの要因について状況をしらべてみる。
 方法は全く第1カテゴリーの場合と同様である。以下これをくわしく
 しらべてみよう。

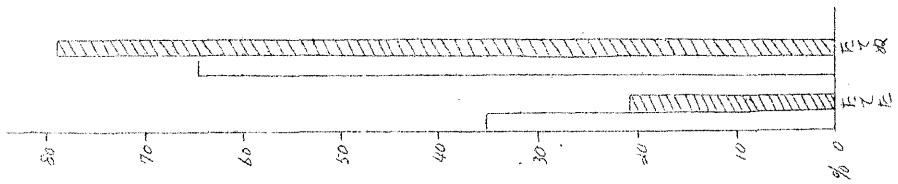
監督関係に報告したか



	あり	なし	不明	計	不明除き
成功	20	19	5	44	39
失敗	103	62		165	165
成功%	51.3	48.7			100.0
失敗%	62.5	37.5			100.0

有意差なし

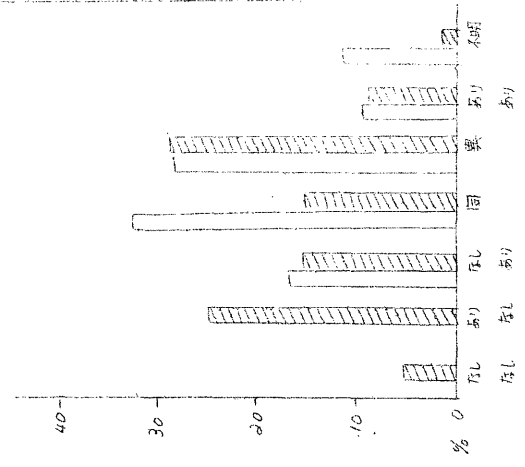
入所中の職を役に立てたか



	いる	いない	無答	計	無答除き
成功	15	27	2	44	42
失敗	22	84	8	114	106
成功%	35.7	64.3			100.0
失敗%	20.8	79.2			100.0

χ^2 3.59 (D.F. 1)
有意差なし

職業の就く見込と実際就いた職業（8つの分類）



見込	なし	あり	なし	あり	同	異	あり	不明	計
実際									
失敗	6	30	19	18	35	11	1	120	
成功			7	14	12	4	5	42	
失敗%	5.0	25.0	15.3	15.0	29.2	9.2	0.8	100.0	
成功%			15.7	33.3	28.6	9.5	11.9	100.0	

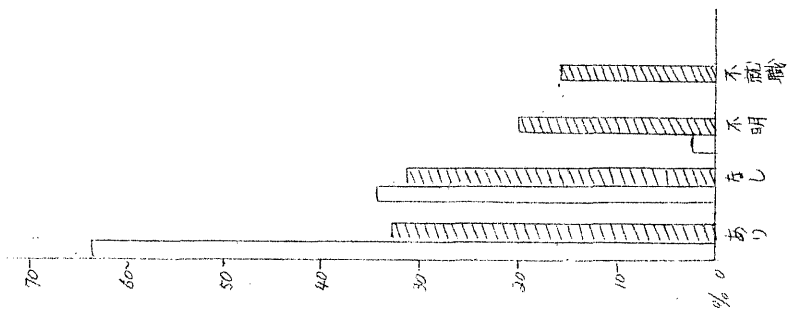
有意差あり

M
成功 0.5234
失敗 -0.5235

見込	なし	あり	なし	あり	同	異	あり	不明	計
見込なし	1.594	-1.694	-0.140	0.841	-0.231	-0.168	2.930		

入所前の職業と出所後の職業とのつながり割合

	あり	なし	不明	不就職	計
成功	28	15	1		44
失敗	54	52	33	26	165
成功%	63.6	34.1	2.3		100.0
失敗%	32.7	31.5	20.0	15.8	100.0



あり, なし のみについて
 χ^2 2.48 (D.F, 1)
 有意差なし

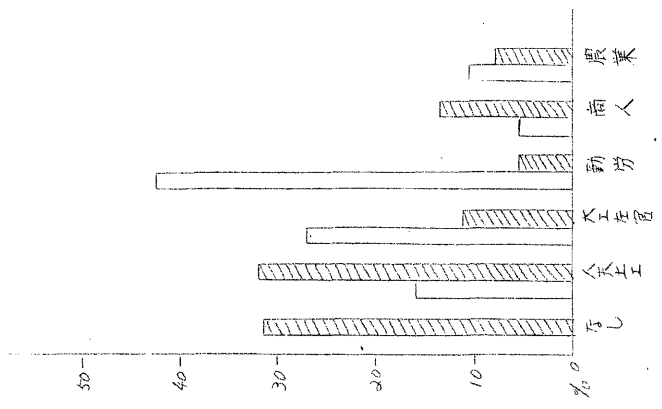
出所后就いた職業

	在し	大工	大工左官	勤務	商人	農業	計
成功	0	6	10	16	2	4	38
失敗	51	53	18	9	21	13	165
成功 %	0	15.6	26.3	42.1	5.3	10.5	100.0
失敗 %	30.9	32.1	10.9	5.5	12.7	7.9	100.0

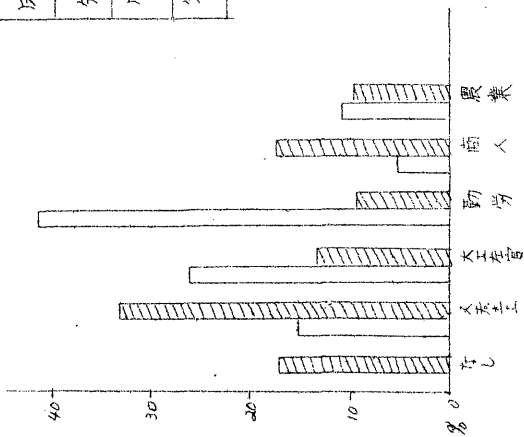
$S^2 = 0.0171$
 判別式 6.93
 有意差あり

m
 成功 0.7600
 失敗 -0.7599

	大工	大工左官	勤務	商人	農業
在し	1.8292	-0.8196	0.7564	1.7273	-0.9996
					0.1220



出所后就いた職業 (失敗は在社又ヶ月以上のものについて)



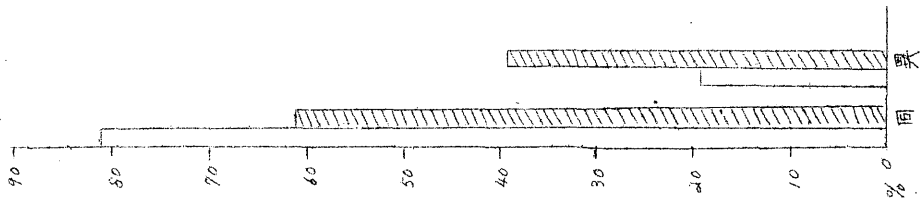
	なし	人夫土工	大工左官	勤務	商人	農業	計
成功	0	6	10	16	2	4	38
失敗	17	34	13	9	18	10	101
成功 %	0	15.8	26.3	42.1	5.3	10.5	100.0
失敗 %	16.8	33.7	12.9	8.9	17.8	9.9	100.0

$S^2 = 0.0183$
 判別式 4.45
 有意差あり

m
 成功 0.6171
 失敗 -0.6170

	なし	人夫土工	大工左官	勤務	商人	農業
成功	-1.833	-0.906	0.631	1.598	-1.200	-0.141

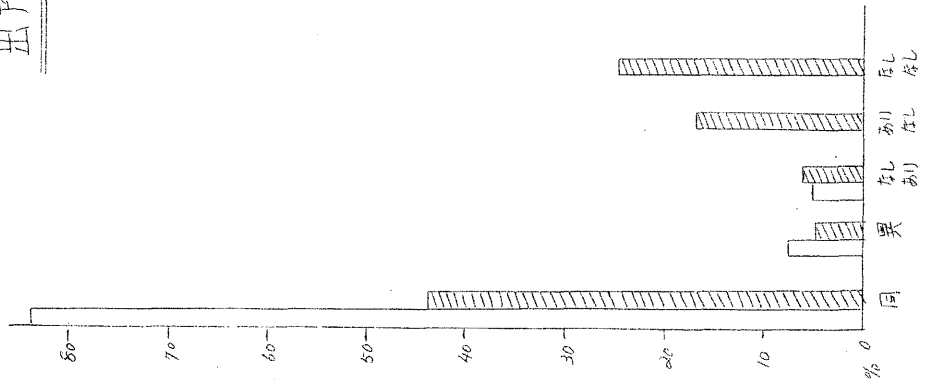
出所時とその後の職業の移動



出所時 とその後	同	異	不明	計
成功	35	8		43
失敗	101	64		165
成功%	51.4	18.6		100.0
失敗%	61.2	38.8		100.0

χ^2 6.14 (D.F.1)
有意差あり

出所直后 就いた職業とその後 (ありなしを入れて)



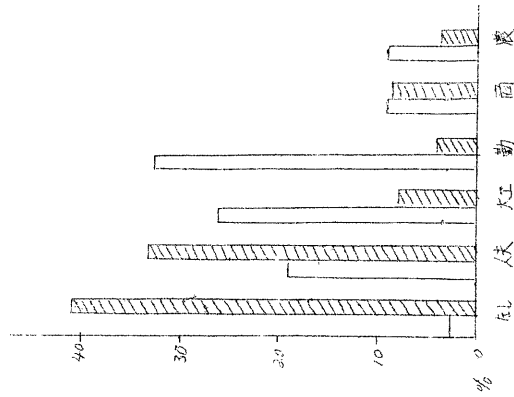
	同	異	なしあり	ありなし	なしなし	計
成功	36	5	2			43
失敗	73	13	10	28	41	165
成功%	83.7	11.6	4.7			100.0
失敗%	44.3	7.9	6.0	16.9	24.9	100.0

$S^2 = 0.01384$
 判別 4.577
 有意差あり

失敗者は本犯時 } の職業
成功者は現在

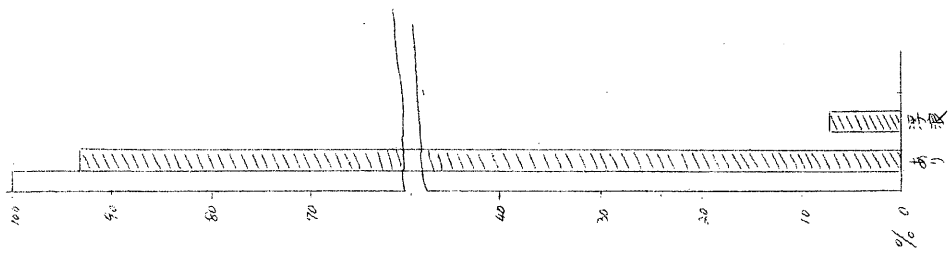
	なし	人夫	大工	勤	商	農	計
成功	1	8	11	14	4	4	42
失敗	69	56	13	7	14	5	165
成功 %	1.4	19.1	26.2	33.3	9.5	9.5	100.0
失敗 %	41.5	34.0	7.9	4.2	8.5	3.6	100.0

S^2 0.02328
判別 9.790
相違差あり



なし	人夫	大工	庄官	勤務	商人	農
-1.445	-0.740	1.059		1.790	-0.104	0.823

居住状態（出所后直ぐの）

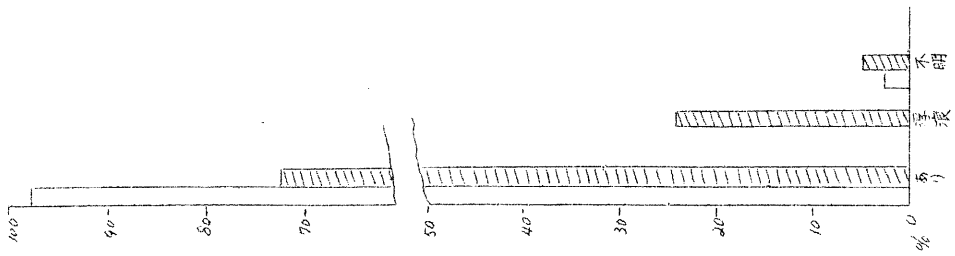


	あり	浮浪	計
成功	43		43
失敗	154	11	165
成功%	100.0		100.0
失敗%	93.3	6.7	100.0

χ^2 1.36

有意差なし

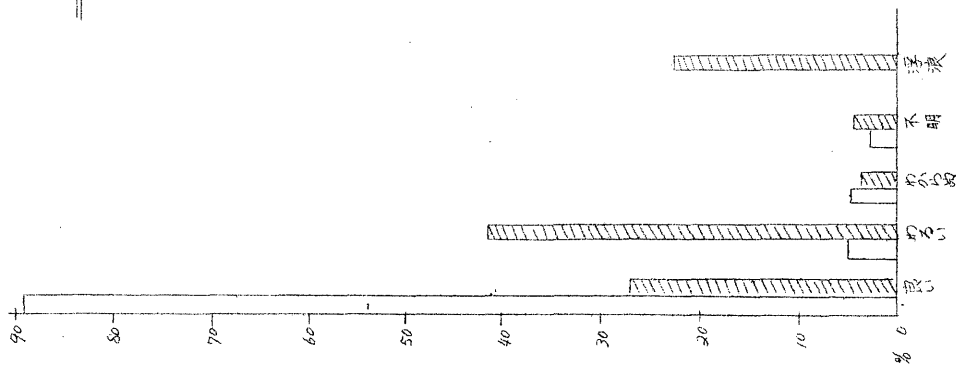
居住状態 (生活環境を入れた)



	あり	浮浪	不明	計
成功	43		1	44
失敗	120	38	7	165
成功%	97.7		2.3	100.0
失敗%	72.7	23.1	4.2	100.0

有意差あり

近隣関係（当時の生活環境を入れたの）



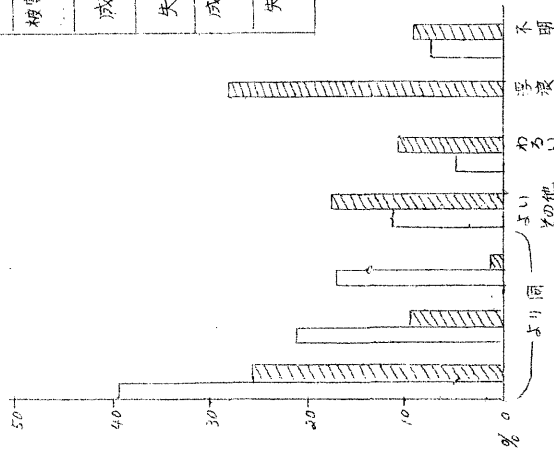
	浮浪	あり		わからない	不明	計
		良い	悪い			
成功		39	2	2	1	44
失敗	38	45	69	6	7	165
成功%		58.7	4.5	4.5	2.3	100.0
失敗%	23.1	27.3	41.8	3.6	4.2	100.0

有意差あり

近隣と本人の関係 × 出所後の職業の移動 × 被害者に対する感じ

近隣	よい		計
	よい	ふつう	
職の移動			
被害者に	感じる	その他	不明 わからぬ
	感じない		
成功	9	7	3
失敗	16	29	14
成功%	20.9	11.6	7.0
失敗%	9.7	17.6	8.5

有意差あり

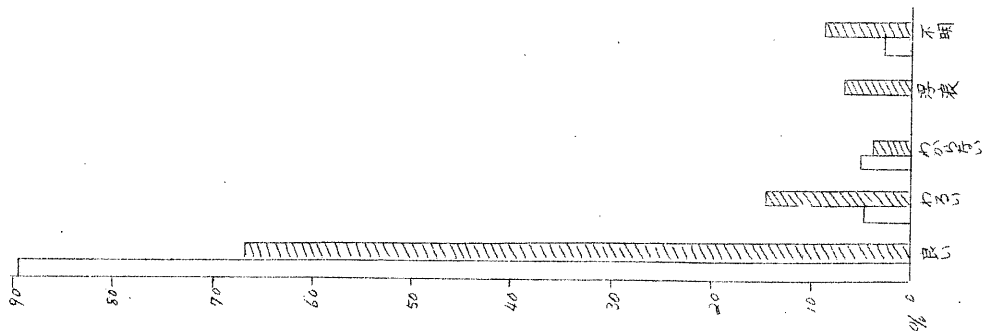


近隣	よい		計
	よい	ふつう	
職業			
被害者	感じる	その他	不明 わからぬ
	感じない		
	0.343	0.755	2.560
			0.600
			1.891
			0.402

m
成: 0.5662
失: 0.5662

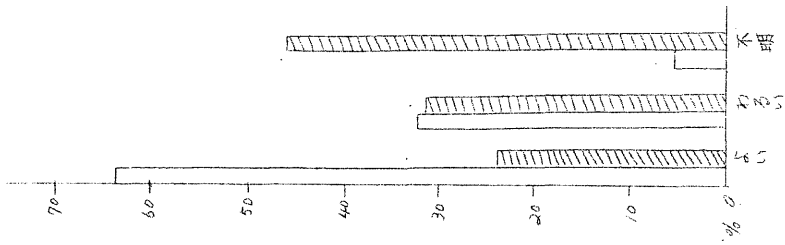
近隣と本人の間

	良い 普通	悪い	わからない	浮浪	不明	計
成功	39	2	2		1	44
失敗	110	24	6	15	10	165
成功 %	88.7	4.5	4.5		2.3	100.0
失敗 %	66.6	14.6	3.6	6.7	8.5	100.0



良い + 普通, 悪い, その他は除外
 χ^2 1.80 有意差なし

家計状態



	よい	わるい	不明	計
成功	28	14	2	44
失敗	39	51	7.5	165
成功%	63.7	31.8	4.5	100.0
失敗%	23.6	30.9	45.5	100.0

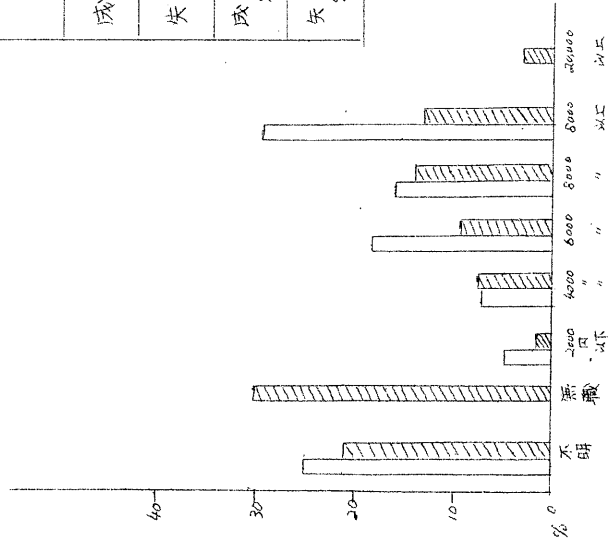
不明入れ
 \sum^2 0.026414
 判別 8.875
 有意差あり

m
 成 0.5037
 失 -0.5037

よい	わるい	不明
1.255	-0.754	-1.246

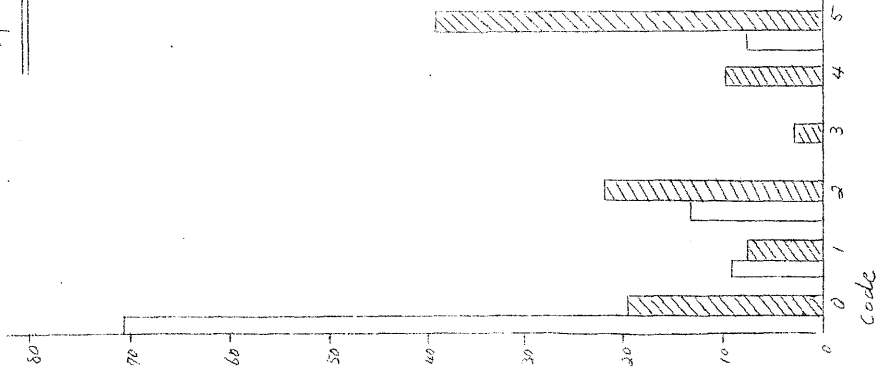
本人の収入（一ヶ月の平均）

	無職	不明	2000円以下	4000円	6000円	8000円	8000円以上	20000円以上	計
成功		11	2	3	8	7	13		44
失敗	50	35	3	13	15	23	22	4	165
成功%		25.0	4.5	6.8	18.2	15.9	29.6		100.0
失敗%	30.3	21.2	1.8	7.9	9.1	14.0	13.3	2.4	100.0



有意差あり

不足分はどうかやっつて補ってゐるか



code 0 1 2 3 4 5

	心算 をしない とらに やっつて いる	内職など の助	近親者 の方法なし	犯行 による	不明 なし	計
成功	31	4	0	0	3	44
失敗	32	12	4	16	65	165
成功 %	76.5	9.1	0	0	6.8	100.0
失敗 %	19.4	7.3	2.4	9.7	39.4	100.0

不明なし
S² 0.0178
判別式 3.69
有意差あり

m
失 -0.6654
成 0.6658

とらにやっ つて	内職借金	近親者の助	方法なし	犯行による	不明
1.294	-0.381	0.902	-1.467	-1.467	-1.305

以上の結果をまとめてみると第五別表の様になる。

これには、各要因に関する情報の出所、要因の特性、要因の有力か否か（検定のための χ^2 , S^2 の値、判定値、及び有意差の有無、有○、無×で示す）、要因の有力性（前述の数量化による成功、失敗両グループの平均の間の差、この値の大きくなるほど有力な要因と考へられる）が書いてある。

これをながめてみると大体次の様なことが言へる。

第二カテゴリーの要因は、第一カテゴリーの要因にくらべて強力であることがわかる。

心理的なものはこのまゝでは強力な要因となつておない。

受刑中の行動もこのまゝでは強力な要因となつておない。強力と思はれるものは平均の差の項が大きいもので配偶関係、罪質×犯数、動機×保護者の資産状況、釋放後の保護者、再犯素地（1-5）、（素地のその他のものは有力でない）、復帰社会犯罪性全体、及び職業居住家計関係である。

§ 3. 数量化と判断点及びその成功率

各要因（カテゴリー）を数量化し、次にこの各要因にウエイトを定め——有力な要因ほどウエイトは大となる、 i 要因での成功、失敗の平均の差を l_i とするとき、 i 要因のウエイトは、

$\alpha_i = \frac{l_i}{\sum l_i}$ となる——、これを用ひて各人の総合得点を（各要因の反応したカテゴリーの点にウエイトをかけ加へ合せたもの）算出する。

一般に理論的にはこの得点をつくることは *best* ではない——各要因間に相関がみとめられるから！——かいろいろの操作の実際面からみるときこの第一近似（第一近似になることは理論的に示し得る）が *Optimum* になるものと考へられる。なほウエイトは前のグラフ図表に示してある。

かうして両グループの間の得点分布をつくつてみよう。

		20		21 ~ 25		0.0194		4.34		○											
		21 ~ 25								X											
		復帰社会		1 ~ 5		0.0064		0.161		X											
		犯因性		6 ~ 10		11.63		2 1~01		○		0.080		0.038		6 ~ 10		0		1 2	
				11 ~ 15				0.0154		2.76		X									
				16 ~ 20		12.83		3 1~01		○		0.082		0.039		16 ~ 20		0		1 2 3	
				21 ~ 25		19.56		3 0.17		○		0.105		0.050		21 ~ 25		0		1 2 3	
		難点比率		7.62		3 10~5				X											
資料の出所		X=種の								成功失敗の間に分布の差があるか否かを見るための検定											
成功 失敗		カテゴリー								X ² DF Prob % S ² 判別式 平均の差		Weight 全部		カテゴリーとそれに入る変数							
調査		調査		専一様		社会に於ける		監督関係に報告したか		X											
行×調査		行×調査		状況		職業		入所中の仕事や役に立っているか		3.59 1 10~5		X									
								就く見込と実際(ありなし同異)		1.04		○		0.062		見込と実際		なし		ありなし	
								入所前と出所後のつながり具合(ありなし)		2.48 1 20~10		X									
								出所后就いた職業		0.0171 6.93 1.52		○		0.090		(合流した職業)		なし		入所中	
								" (失敗は在社2ヶ月以上)		0.0183 4.45 1.24		○		0.074		(離れた職業)		なし		入所中	
								出所時とその後の異動(同異)		6.14 1 2~1		○									
								" (ありなし同異)		0.0138 4.58		○									
								失敗の本犯時と成功の現在		0.0233 9.79 1.52		○		0.090		本犯と現在		なし		入所中	
						居住		居住したか浮浪か		Xc 1.36		X									
								" (生活環境を入れて)				X									
						近隣関係		近隣とはうまくいっているか		Xc 1.80		X									
								" (生活環境の浮浪を入れて)				○									
								近隣(生活環境の浮浪を入れて) × 出所後の職業の移動 × 被害者に對して				1.14		○		0.068		近隣		浮浪	
								家計状態		0.0264 8.88 1.00		○		0.059		家計		不足		不明	
								本人の収入(一ヶ月平均)				X									
								不足分はどのようにして補っているか		0.0178 3.69 1.34		○		0.080		不足分		近親者		不明	

次の二つに分けて考えてみる。

(i) 第1カテゴリのみの場合(事前に判明するファクターのみの場合)

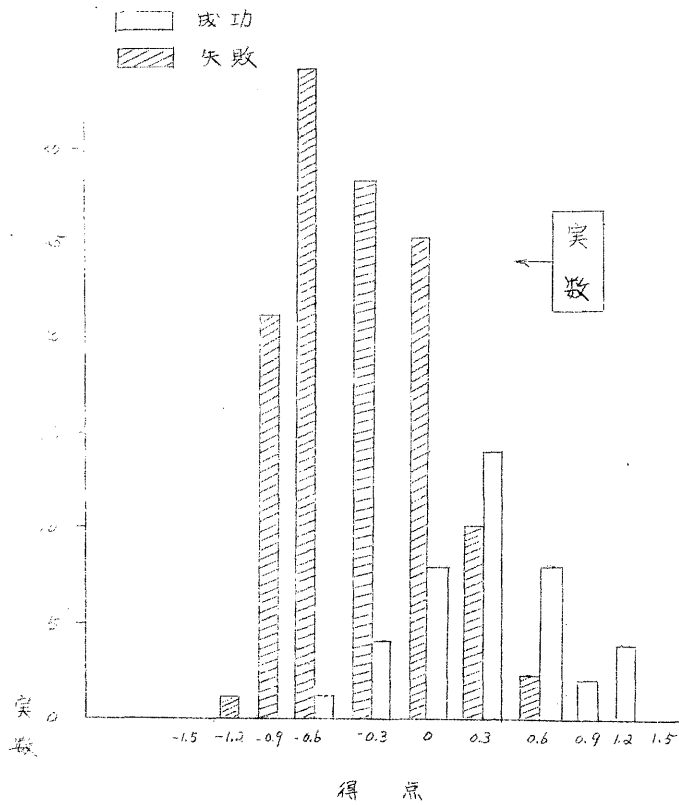
(ii) 第1, 第2カテゴリを一緒にした場合(事前及び事後の状況を入れた場合)

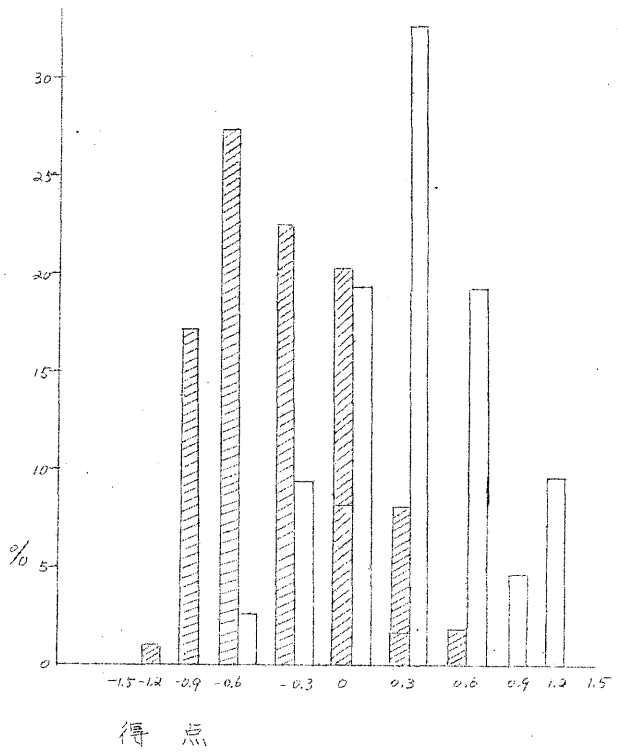
各場合でウエイトは夫々ことなつてゐるのは明らかである。

さてかうして出きた結果を図示してみると次の様になる。

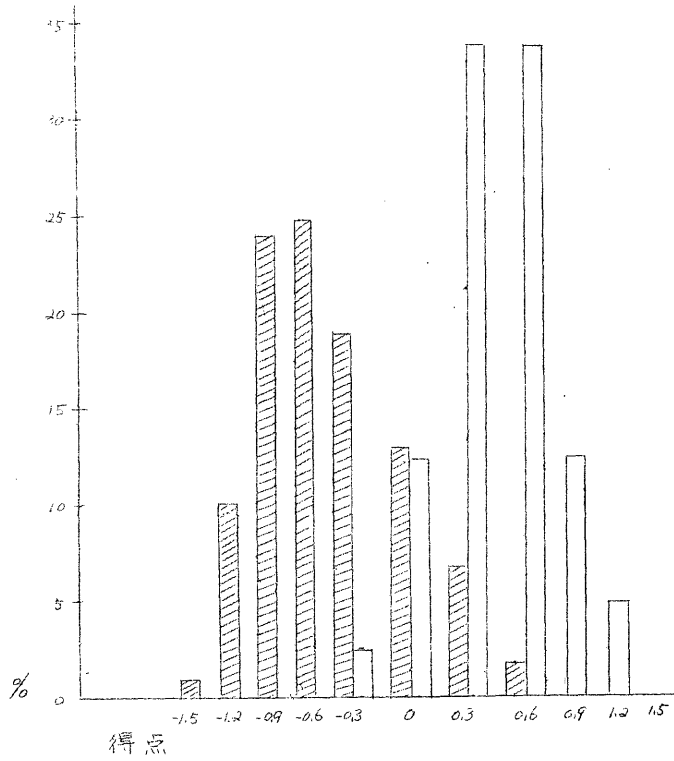
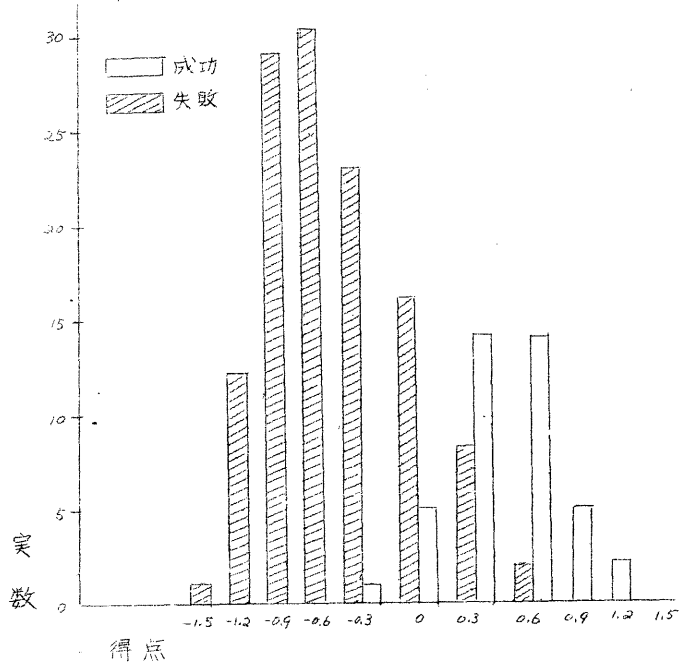
(i)

事前



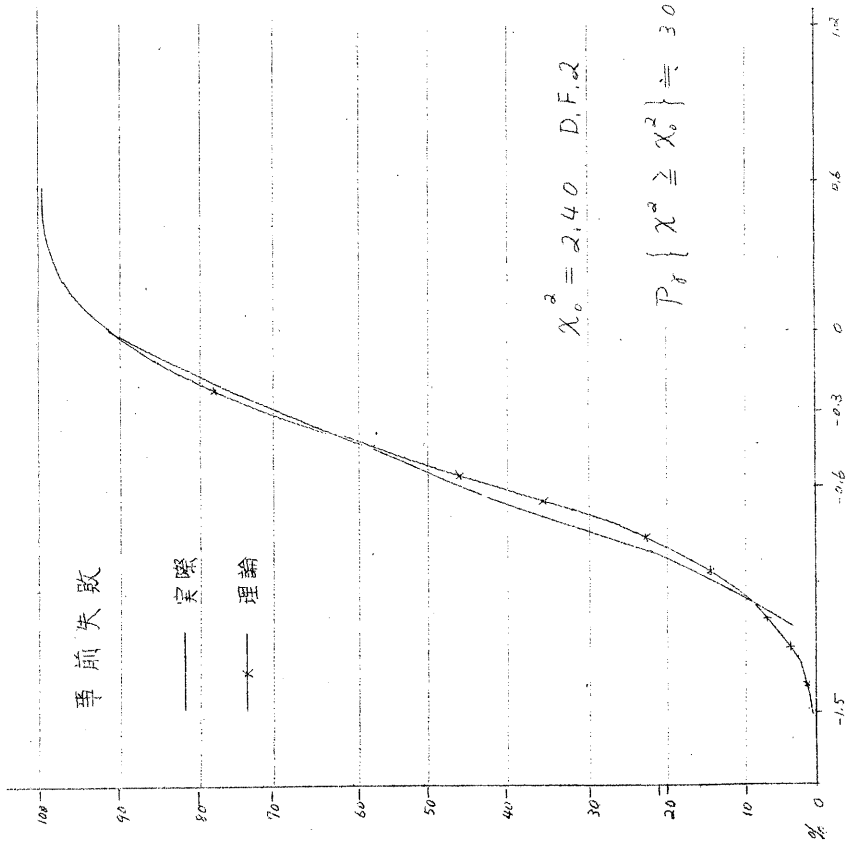


争 前 + 争 后

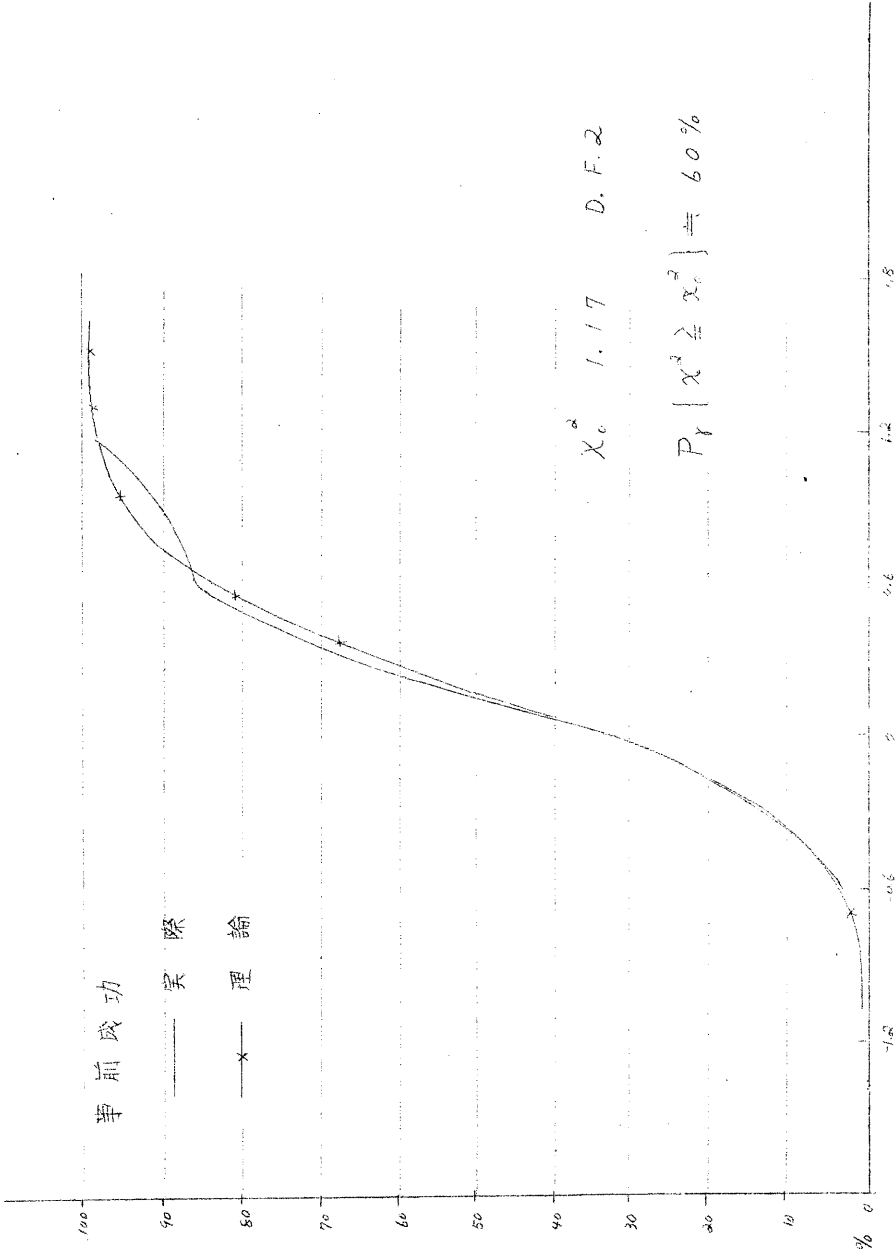


この分布の型をしらべらば、みるのに
平均、分散はサンプルの値を用ひ
正規分布として検定をしてみよう。

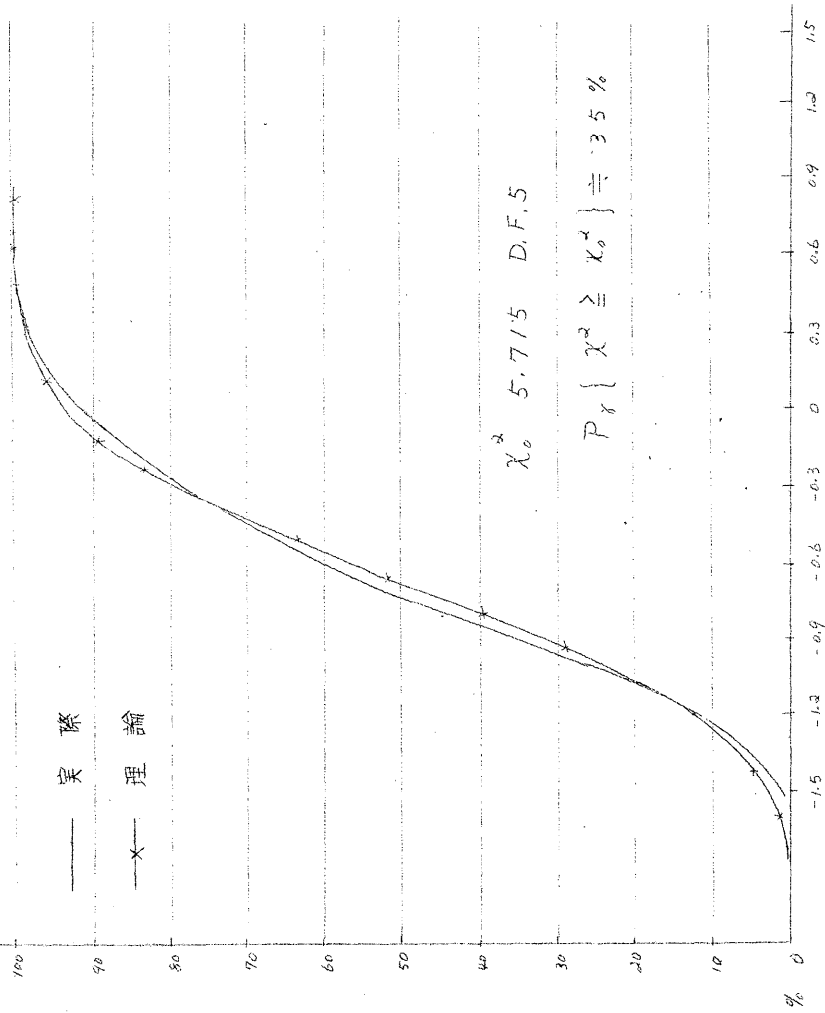
(i) について、



電扇成功

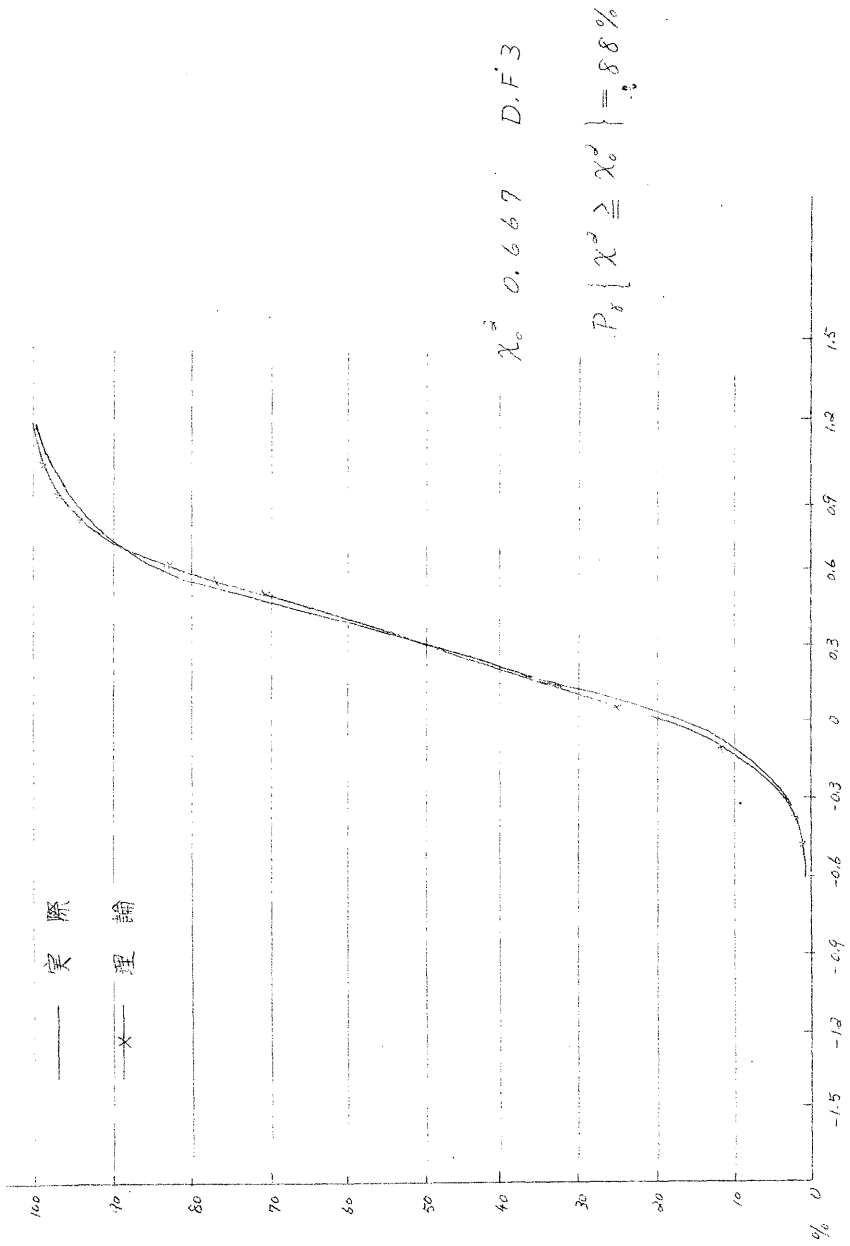


(ii) 事前事後の失敗



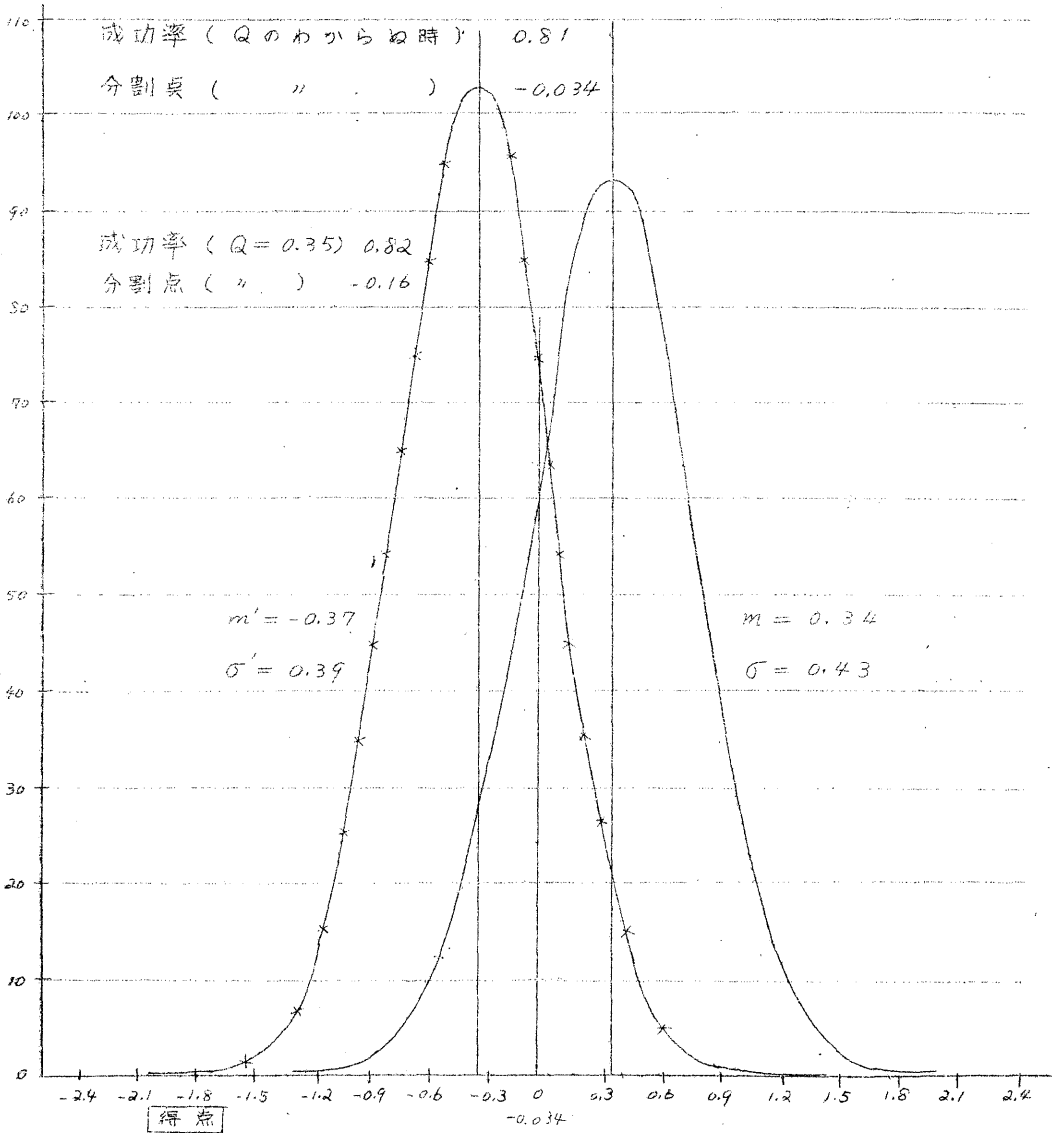
χ^2 の値からわかる
 やうに、相当立派
 な適合度を示して
 みる。

争前争后の成功



この場合の適合性も立派である。以上検定及び理論（前記論文参照）の立場から、分布はいつでも正規分布と見做して、議論を進めてもよい事が了解せられる。この立場をとり正規分布をあてはめてみると、

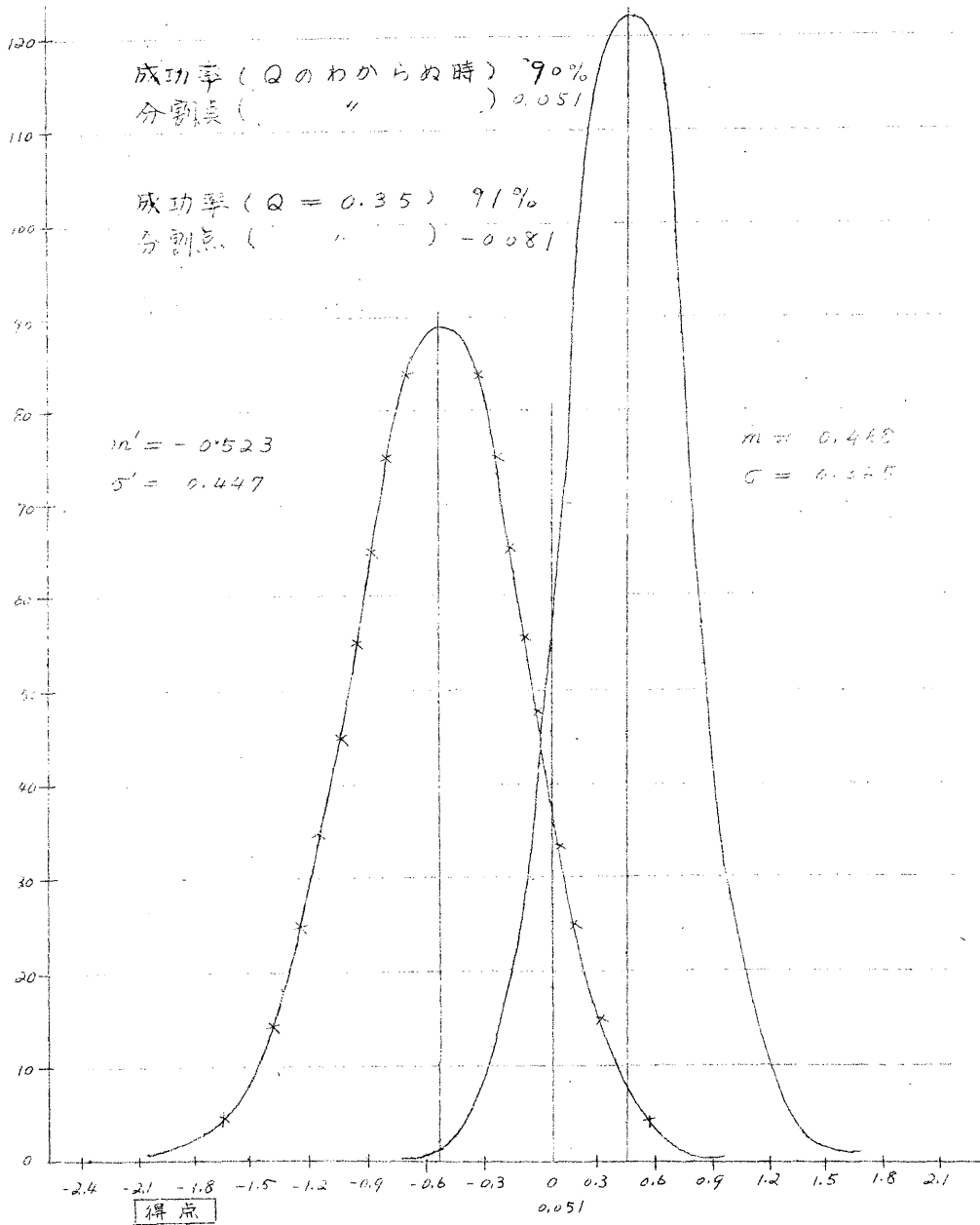
(I) 事前 ———— 成功
 —*— 失敗



(ii) 争前 + 争后

—— 成功

—x— 失敗



(ii) の場合の方がより分布がはなれてゐるのが了解せられよう。

さて、ここで (a) まづ假釋放の違反率が判明してゐないものとして判定点及び成功率を算出してみよう。この理論も前記論文参照。

判定点とは、今後釋放すべきか否かを定めるべき受刑者があらはれたときその総合得点を計算しこれがこの得点以上ならば成功（社会的予後よし）、以下ならば失敗する（予後わるし）と判断を下すべき点の事を言ふ。

成功率とは、成功するものを成功、失敗をするものを失敗と判断した率を云ふ。

この時、

	(i)	(ii)
判定分割点	-0.034	0.051
成功率	0.81	0.90

となる。

(ii) が (i) にくらべて甚だよく、事前ファクターだけでは物足りない事わかる。

次に (b) 違反者の率が判明してゐるものとしよう。

最初に示した様に、これは約 35% である。

これを用ひると理論式により

	(i)	(ii)
判定点	-0.16	-0.081
成功率	0.82	0.91

となり、(ii) の場合は 90 % をこえて、成功率がきわめて大
 となることわかる。

§ 4. 実 例

以上の理論を用いた例をあげておこう。

今一人の受刑者があらはれた。その時以下に示すやうな調査
 を示したとき、次の様な反応を示した。

この受刑者を假釋放すべきか否か、これを示してみよう。

調 査 の 反 応

カテゴリー	回 答	点 数	Weight
父母関係	実父母	1.168	0.047
配偶ありなし×年令	妻あり年令32	1.714	0.097
学 歴	高小卒	0.134	0.057
罪質 × 犯数	窃盗初犯	-0.072	0.110
動機 × 保護者の資産状況	資なし、生活苦	-1.398	0.117
逮捕せられた事に対して×裁判に対して	感いておない公平	-1.007	0.047
釋放後の保護者	妻	1.959	0.132
再犯素地 1~5	2	-0.727	0.125
復帰社会犯囚性 6~10	2	-0.406	0.080
" 16~20	1	-1.306	0.082
" 21~25	1	-0.325	0.105

そこで前に示した表をしらべ各反応カテゴリーに如何なる点を
 あたへるかをしらべる。これが上表に点数としてかかけられて
 ある。これと各項目に乗すべきウエイトをしらべる。これも
 上表にウエイトとしてかかけられてある。

ここで各点数とウエイトとを乗じ加へ合せて得ると、得点とし

て 0.0045 となる。成功、失敗をわけるときの分割点は -0.16 である。(これ以上ならば成功、以下ならば失敗とするのである)。

したがって、この受刑者は予後がよいものとして假釋放を許可するものとなる。この様な経路をたどるのである。

§ 5. 結 論

以上によつて、とりあげた要因(そのカテゴリー)、(第五別表)、それらにあてはるべき得点(くわしい比較表)、ウエイト(第五別表)、判定点、成功率を示した。

これで我々の理論を基礎としての *prediction Table* のモデル的作成を終つた。

これにより判定するとき、再犯率不明のときでも相当成功率が高い事が知られる。事前のファクターのみでもかなりである事は注目に値する。

なほ、前にしめしたくわしいものでわかるのであるが、假釋放審査票の結果はかくばしくないものがある様に思はれる。

個々のファクターでみると、よいものもあるが総合の得点(難点比率)としたとき、有意差のみとめられないのは注目にあてはまる。

以上によつて総合的な見解をのべておこう。

(i) この場合は失敗と成功の極端との比較であるから、二つの分布は相当きれいにわかれると思はれる。

しかし不明のものを混ぜたのでは結果があいまいとなるからこの立場をとつた。したがつてこれによる判定は一つの実験的なものでその意味で考へられねばならない。

(ii) 各ファクターは一つだけではたいした判別力はないが、総合されるとときに強力なものとなる。

したがつて一つ一つだけきり放しては論じられぬものであり、

綜合したものと考へねばならない。

一つ一つの要因の強力は数量化されたものの平均の差で與へられると考へてよい。

(jii) 事後のファクターを入れたものの利用方法は、釋放後の指導のためのものである。事後の状況がかうかうであれば「その時の成功；失敗は如何」と言ふ尙題に対する解答となつてゐる。

これを用ひて予測を行つたとき90%の成功率があるのはこれだけの要因、ファクターで犯罪者の豫後が予測の意味で相当程度正しく決定されると言ふ事を意味してゐるのである。

つまりこれこれのファクターをおさへて上手に指導し、これこれに依れば、犯罪者のアフター・ケアーが相当正しく行はれることがわかるのである。

成功さすファクターの目安をあてへるものとならう。

前からのべてゐる様に、ここで得られた結果は一刑務所、一時期のものであり、サンプルも一応両極端と考へられるものをつたのであるからこの点を十分承知して見ていたがきたい。

さて、いろいろの都合で両者の比較すべき要因も限られてゐたし、その資料も正確とは言ひ難いものもあつた。しかしこれをもとにしてもこの程度の結果は得られた。

今後は、サンプルをより合理的にさため、第二、第三、第四でのべた様に比較すべき資料を拡大し、それを正確に調査すること、あやまりなく要因のデータを集積することを行つてさらによい結果を出すべきものと考へる。

たとへば、受刑中の行動をしつかりと、妥当性、信頼性あるやうに調査すること力動的にみた心理的・性格的なファクターを *Projective* 法又は精神分析的方法により調査すること、両グループに対する社会的・文化的状況をよく調査すること等はまづ第一に行ふべき所であらう。

第六 附 録

ここでは、

第Ⅰに調査票と行刑表とにおける記入のちがひ、

第Ⅱに外国の例について再犯調査の基礎における理論を応用して成功率を算したものを、

をのべておく。

第一は、記入された事項の信頼性をみる上に、第二は新しい理論によつて判断の分割点、それによる成功率が科学的にされ、増してくることについての実例をあたへてみる点で意味があると考へられる。

Ⅰ. 記入のくひちがひについて

調査票においてと行刑表においてと同一項目について調査記入したものがある。これがどの程度一致してあるか、又くひちがひつてあるかをしらべたものである。いづれが正しいと言ふことは言ひ得ないがその度合をしらべてみることは結果の解釋上意味があると考へる。

内容のくひちがひをみてゆかう。

1. 年令について

調査票におけるものを行刑表の調査が行はれた時期にひきもかしてしらべてみた。

(調査票による年令 — 行刑表の年令) は下の通りである。

-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	計
1	0	9	94	11	4	1	120

での合致してあるものを示してある。

しかし、調査によつてはこれらの問ひに対して、無意識的に満年令、かへ年令のいづれかが誤られてこたへられてある場合もあることを考えるとこの程度のくちがひは止むを得ないものと考へられる。

2. 学歴について

合致してあるものは120中105で約90%である。

なほこの中、中退、卒業の別の異つてあるものが12あった。

註. 中退、卒業の別は集計には用いなかつた。

ことなれるものの15についてどう誤られておるかをみると

調行	小	高小	卒業	中学	計
小		4			4
高小	4		1	1	6
卒業	1	3			4
中学	1				1
計	6	7	1	1	15

である。

さう飛躍した誤りは少い様に思はれる。Marginal としてみるときは両者とも大差はないものと思はれる。

3. 犯罪関係

(1) 罪質

調行	窃	詐	贓	傷害	強盗	恐喝	横領	殺未	計
窃	90	1							91
詐	1	16							17
贓			3						3
傷害	1			1					2
強盗					1				1
恐喝	1					1			2
横領							3		3
殺未								1	1
計	93	17	3	1	1	1	3	1	120

これについては殆んど一致を示してある。

(四) 共犯関係

調行	なし	あり	計
なし	75	7	82
あり	5	33	38
計	80	40	120

一致してゐるもの108で約90%である。

この場合も marginal はよく一致してゐる。

(八) 動機

調行	生活苦	家庭不和	必要費	衝動	交不良	冤情	小遣錢	遊樂費	物欲	職業的	賭博	しつと	放浪中	なし	後替	計
利慾	20		1	2	5	5	1	15	22	2	3		3	1		80
懶惰	3					3		3	3		3		1			16
遊樂費	1							3			1		1			6
失職									1							1
賭博											1					1
浮浪								1					1			2
生病難	1															1
文誼									1							1
不明	1				1				3							5
怨恨												1			1	2
病氣	2															2
放縱						1			1							2
泥酔				1												1
計	28		1	3	6	9	1	22	31	2	8	1	6	1	1	120

自由回答の型式で書き出してゐるために二つの調査ではこの様な相当錯雑した状態が見出される。動機の種類方法が(動機としてのまとめ方)が場合により人によりことなり、又、被調査者のいろいろのべる回答の受取り方、重みが人によりかわつて記載されるためであらうし、又動機なるものの分類がきはめて関係系

く、あゝも言へ、こうも言へるものであり、微妙なものがあるからでもあらう。

今、粗く分類を按配して略同様と思はれるものとさうでないものとはわけてみると一致してゐると思はれるもの約70%となつた。

然しこのことから絶対的意味に於ては動機と言ふものの信憑性はうすいものと思はれる。

しかし調査票にかかれてゐるかぎりのものについての *Break Down* による分析はある程度の意義をもちうると考へられる。

動機をあらはしてゐる分類を *functional* な意味に用ふればよいからである。

註。たゞ、我々の場合の調査票の調査は訓練されてゐる唯二人によつて行はれた。したがつて上述のことはそれ自身ある程度のいみをもつものと考えられる。

以上のことは常にすべての自由回答法による調査の信憑性を測りとしてゐるのではない。 *free answer* で *after coding* したものは概調査者、調査者の主観は入りこまぬ(唯言つた通り生のまゝで昔く)から上述のようなゆがみは入りこまぬ(唯)し、又回答の分類が動機ほど錯雑して居ないものは絶対的な意味をも持ちうるものと考えられるからである。

動機に類するものとしては当時の生活環境と言ふようなものであらう。

(二) 最初の不良歴について、

行 調	なし	窃	恐喝	喧嘩	賭博	家出	窃疑	不明	拘留	サヤ	横領	経違反	計
なし	65	3		2	5	1			1	1	1		79
窃	8				1								9
思想	1												1
恐喝								1					1
喧嘩	7	2		2	1								12
賭博	1				5								6
不法持	2				1								3
家出	2												2
不良狩	2		1										3
経違反										1		1	2
窃疑							1						1
窃		1											1
計	88	6	1	4	13	1	1	1	1	2	1	1	120

Marginal はかなりよく一致してゐるがこまかい分類については相当ズレが見られる。これも調査内容の記憶等にもとづいてゐるためであらうし、又調査事項が微妙なためでもあらう。

これを、あり、なし、にまとめてみると、

調 行	なし	あり	
なし	65	14	79
あり	23	18	41
計	88	32	120

一致してゐるもの 83 で約 70% である。

4. 生育歴について

記述を読んでみて、一致してゐると思はれるもの、さうでないものをつとてみると、一致してゐるもの 101 で約 85 % であつた。

5. 結 語

以上まとめてみると、(a) 客観的な形で回答が得られるようなものについての一致度は相当高く信ずるに足るであらうと言ふこと、(b) *free answer* の時、その分類が錯雑してゐたり、或は又被調査者の生のまゝ発言でなく、それを調査者がある形にまとめ上げて定型的なものにするような調査項目は絶対的意味においては信頼性のうまいと言ふこと、このようなものはさらにある粗い分類に *after coding* の形でまとめあげないかぎり絶対的な意味をもち得ないと言ふこと、(但しある方法ではものにより、*functional* ないみはもちうる場合もある)

(c) *free answer* でも *after coding* のものは相当の一致度を示し、かなり信頼性があると思はれること、がいくつかの例で示された。

これは全的なものについて行はれたのではないから、一般的なものとしては何とも言へないが、回答の信頼性についての一つの目安をあてへるものとは考へられる。

なほ不一致は残念乍らいづれが正しいものであるかは判定できないのである。調査票の調査條件はわかつてゐるが、行刑表の調査條件が不明であり、比較するすべがないからである。

II. 外国の例について

これは、

The Efficiency of Prediction in Criminology,
L. E. Ohlin and O. D. Duncan (*The American
Journal of Sociology* 1949)

にみられる例である。

ここで成功者、失敗者、二群について調査が行はれてをり、各人についてのある調査得点があてへられてゐる。

この分布が、成功者、失敗者についてとられてゐる。

この資料は、

Stateville - Joliet Branch, イリノイ国立刑務所から
1925-1935年の間に假釋放された 5,624人に関するもの
のである。

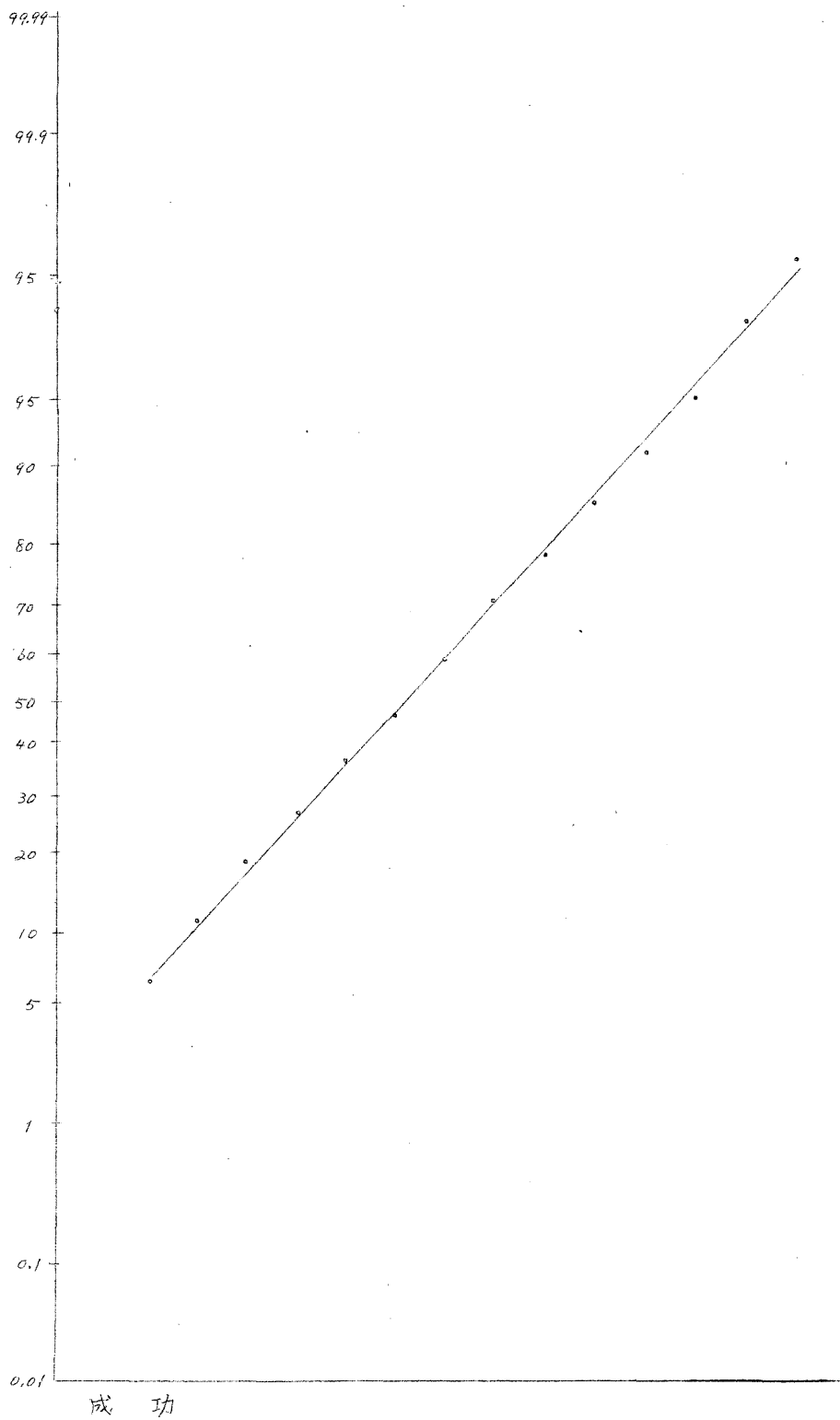
各人は、27の予測要因にもとづいて得点をあてへられてゐる。

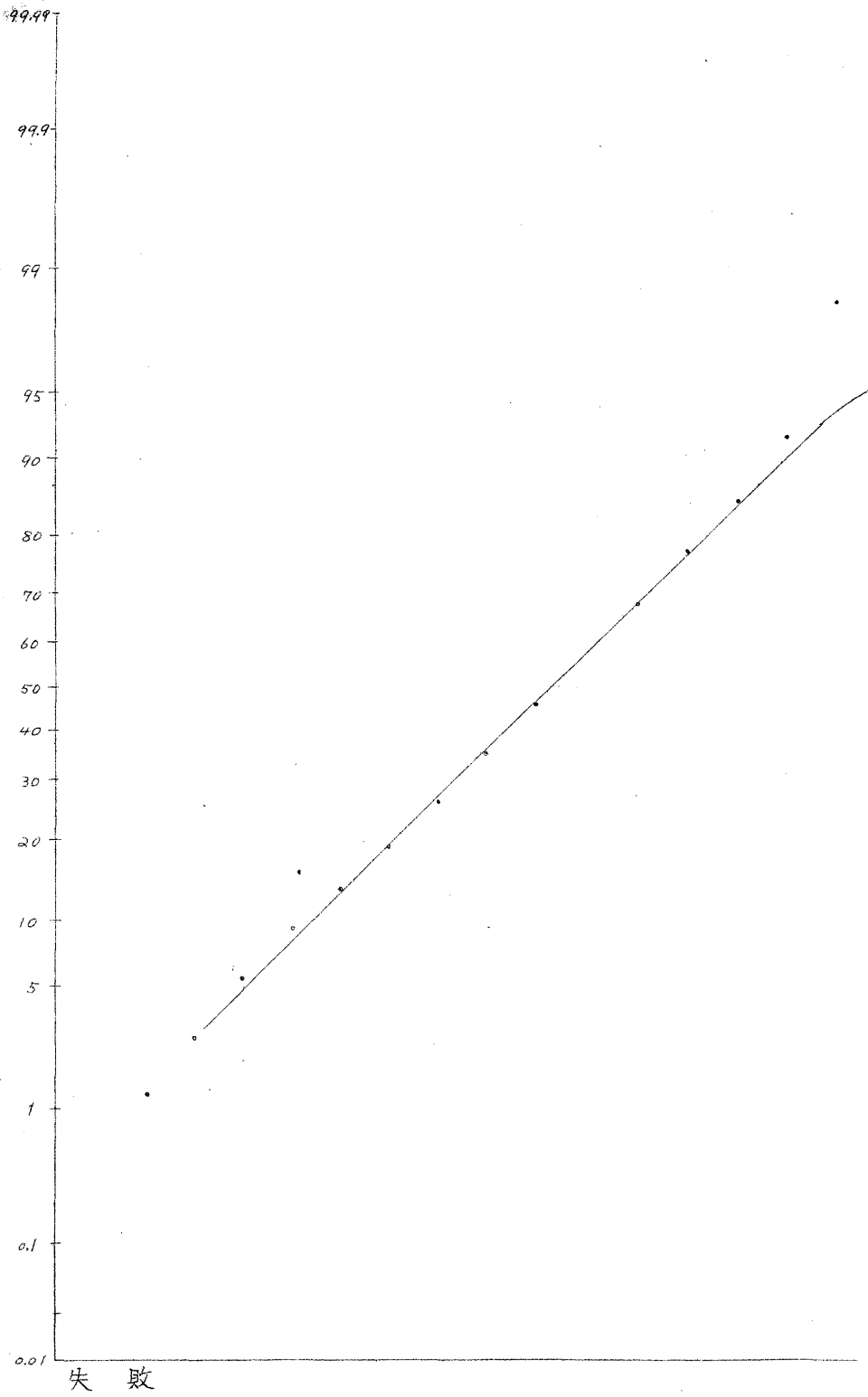
27の因子について調査し、ファクターにおいて各人は成功要
因をもつ、時に1、さうでないとき0と得点を與へられる。こ
れらの合計点によつて各人は數量化されてゐるのである。

この分布の平均、分散をみると、

	平均	標準偏差
成功者	17.31	3.49
失敗者	14.45	3.34
失敗者の率	0.401	

であつた。又、分布をみると、確率紙に目もるとき次の様にさ
う嚴密には正規と見做し難いか、簡單のため一応正規(さうむり
でもない)とみよして分割点と成功率を出してみよう。





なほこの論文に用ひられてゐる得点法は *equal weight* であつてこれ自体科学的な保証があるわけではないが、ここではそれは不問に附してこれを用ひての成功率（判断点）を求めてみようとするものである。

なほこの論文に用ひられてゐる成功率の考へ方は判断と言ふ立場になく、*static* なものであつて、ある数量をもつもの中の成功者はこの位と言ふ様な数字を各数量についてならゞ、假釋叙の判断の失敗の率をあげる事に終つてゐる。

これは單に批判と言ふだけではよいか、かうすればどの位成功するであらうか、このまゝでは精々の所この位であると言ふ次の行爲の指針をあたへる知識にはなつてゐない。この点不十分であると考へられる。

註. その他の点、*efficiency* を検討しようとする立場、豫測の誤差の型、等についての考へ方には面白い所がある。この種の論文では実証的で読みこたへがある。

さて我々の方法でゆくと、

$$Q (\text{失敗者率}) = 0.401$$

であるから、分割点を理論にしたがつて計算すると

$$x_0 = 14.22$$

となる。つまり 14 以上とるものを成功者、未満のものを失敗者とするのである。この時の正当判断率 P は

$$P = Q \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_{-\infty}^{\frac{x_0 - m'}{\sigma'}} e^{-\frac{t^2}{2}} dt + (1-Q) \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_{\frac{x_0 - m}{\sigma}}^{\infty} e^{-\frac{t^2}{2}} dt$$

であるから

$$\frac{x_0 - m'}{\sigma'} = \frac{14.22 - 14.45}{3.34} = -0.075$$

$$\frac{x_0 - m}{\sigma} = \frac{14.22 - 17.31}{3.49} = -0.885$$

$$D = 0.70$$

イリノイの場合の結果から出ることば、もし1923-1935年間と社会状況が同一と見做し得るならば、又犯罪者がその間からのランダムサンプルと考へられるならば得た得点を14以上をとるものを成功者とみなし、假釋放すれば正当判断率は70%であると言ふことである。

この点から豫測の *efficiency* が考へられねばならない。

339頁に續く 後 語

今後研究の問題とする所は

(1) 全国的サンプルをとること、調査の対象とする者の釋放期間を短かくし、社会條件をなるべく一定にすること。成功者、失敗者群からランダムサンプルをとり調査を行ふこと

(2) 以上の調査をつつて社会條件の変化による諸種のパターン(ファクターの影響の仕方)の変化をみること

(3) 数量化理論では、ファクター間の *interaction* を考慮に入れること、数量化によつて得られた成功率の信頼度を簡單な数式(複雑のまゝ書き下すことは容易である)によつて求めること(我々の用いたランダムサンプルの母体たる母集団における信頼度)、且つ成功率を最大にし、その信頼度を高かめる(一定信頼度の下における成功率の信頼度を小さくする)ためには如何なる数量化を行ふべきかを研究すること

(4) ファクターの選び方、調査し方をさらに研究すること

の四つの方法であらうと思はれる。

〔Ⅱ〕 本人の経歴

姓名												
称呼番号												
年代	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60
項目												
15 生活歴と、 環境												
16 不良 歴												
17 居住 歴												
18 職 歴												
備 考												

(記入法)

- 年代は12~17歳の如き場合には上欄の相当する所に年齢を記しその期間を明示すること。
- 15 生活歴記入例 父母亡、祖母の下に生活、きびしい教育を受く
- 16 不良歴 〃 取巻の友人に誘われ、賭場に入出、執行猶予等1回
- 17 居住歴 〃 下谷区黒門町10、商店街中位の雑貨商の2階に兄と同居
- 18 職業歴 〃 下谷内閣印刷局の凸版部職工
- 備考欄には 既往症、性病、習癖等 必要と思われる事項を記入する

〔Ⅲ〕 犯罪及び受刑について

姓名												
称呼番号												

A 最初の不良行為について

19	(i) 罪 質	
	(ii) 犯行の概要	
	(iii) 犯行地及びその場所の性格	
	(iv) 動 機	
	(v) 当時の生活環境	
	(vi) 犯行後の心理	

		B 前犯について	C 本犯について
20	罪名及犯行概要		
21	犯罪地とその性格		
22	動 機		
23	当時の生活環境		
24	共犯関係	(i) 有 無 (イ) 有 (ロ) 無	(i) 有 (ロ) 無
	(ii) 人数		
	(iii) 本人の占めた地位		
25	犯行から逮捕迄の経過		
26	情状酌量の有無	(イ) 有 (ロ) 無	(イ) 有 (ロ) 無
27	自首の有無	(イ) 有 (ロ) 無	(イ) 有 (ロ) 無
28	收容年月日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
29	釈放年月日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日

30	前犯と本犯との関係	(i) 被害関係で (イ) 関係あり (ロ) なし	あれば如何なる点で
	(ii) 共犯関係で (イ) 関係あり (ロ) なし	あれば如何なる点で	

D 前受刑中の体験

31	受刑中の 行 状	(i) (イ) 悪い (ロ) 良い (ハ) 何とも云えぬ (ニ) わからぬ
	(ii) その良い点・悪い点について	
32	受刑中習得した技術	
33	最も印象の強かった点	
34	釈放後どう生きようと思ったか	

E 監督関係 (警察、司法保護委員)

35	(i) 報告したか (イ) した (ロ) しない
	(ii) 監督の程度とこれに対する反応

第二表 その1 調査票 B型

姓名	年令	年	月	現住所
1	出所後今までに恥に就きましたか 1) (イ) ついた (ロ) どういうデツ"ルで 2) (イ) つかない (ロ) どうして			
2	出所後どのくらいだっってその恥に就きましたか 年 月 日			
3	ついた恥業の種類は			
4	その恥業は定まったものですか、それとも不定期のものですか (イ) 定期 (ロ) 不定期			
5	1) その仕事に満足していますか (イ) 満足している (ロ) 満足していない (ハ) 何とも言えぬ 2) それはどんな理由からですか			
6	1) 今の恥業は前の恥業と関係がありますか (イ) ある (ロ) ない 2) 関係があるとすればどんな点で 3) その収入はどのくらいですか (イ) 昭和23年度月平均 円位 (ロ) 昭和24年度月平均 円位 4) その収入はあなたの生活に充分ですか (イ) 充分 (ロ) 不充分 5) 不充分ならばその不足はどうして補っていますか			
7	入所中にどのような恥業を身につけましたか			
8	1) それで今、役立っていますか (イ) いる (ロ) いない 2) それはどんな点で			
	恥場の人達は、あなたの立場を理解してくれますか (イ) くれる (ロ) くれなし (ハ) 何とも言えぬ			
10	今の生活と入所前の生活をくらべてどうですか (イ) 今の方がずっとよい (ロ) 少しよい (ハ) 変わらない (ニ) 少しわるい (ホ) ずっとわるい			
11	今の生活のありさまと入所前の生活のありさまをくらべてどういう点で変わっていますか 1) 経済上の点では (金銭的には) 2) 個人的信用の点では 3) 家庭の点では 4) 交友の点では 5) 娯楽の点では			
12	1) あなたの生活の見込はどうですか (イ) よくなる (ロ) かわらない (ハ) わるくなる 2) どうしてそうなると思いますか			
13	あなたは今何が一番気にかかりますか			

14	住所と恥業のかわりがたを書いて下さい				
時期	年月日	住 所	住所のかわりの様子のましあし	恥 業	右に移された理由
入所時					
出所時					
それ以後					
今は					
15	1) 生活保護費とそれによる民生委員といふ人がいますか (イ) 知っている (ロ) 知らない 2) それの保護を受けたことがあれば書いて下さい (イ) 何時 (ロ) どの様な救助を受けましたか				
16	1) 保護委員又は警察の方から連絡がありましたか (イ) あった (ロ) なかった 2) 連絡があったとすればどの程度のものでしたか				
17	入所中、面会差入札などであなたに同感を示してくれた人				
18	出所後、両親、奥さん、子供さんは夫々以前と変わりましたか 1) 奥さんとの関係 2) 子供さんとの関係 3) 両親との関係 4) 其他の变化があれば書いて下さい				
19	親族及び近隣とのつきあいは、うまくいっていますか (イ) 非常によい (ロ) まあよい (ハ) まづい (ニ) 非常にまづい (ホ) わからずい				
20	1) 配給・選挙権・子供の教育等で、出所後前の方が困ったことがありますか (イ) ある (ロ) ない 2) それはどんな点で				
21	1) 今、あなたは不幸であると思いませんか、幸福があると思いませんか (イ) 非常に不幸 (ロ) まあ不幸 (ハ) 幸福と思う (ニ) 何とも言えない 2) それは何故ですか				
22	逮捕されたことに不満を感じていますか (イ) 強く感じている (ロ) 少し感じている (ハ) 感じていない (ニ) それは何故ですか				
23	取調のときに司法警察官に対して不愉快を感じましたか (イ) 強く感じた (ロ) 少し感じた (ハ) 感じなかった (ニ) それはどのような点でですか				
24	取調のときに検察官に対して不愉快を感じましたか (イ) 強く感じた (ロ) 少し感じた (ハ) 感じなかった (ニ) それはどのような点でですか				

5

第三表 行刑経過表



25	1) 裁判に対して如何に感じましたか (イ) 公平 (ロ) 不公平 (ハ) わからない 2) それは何故ですか
26	1) あなたに行刑が与えた影響をどう思いますか (イ) 非常によい (ロ) 少しよい (ハ) なにも影響がない (ニ) 少し悪い (ホ) 非常に悪い 2) それはどんな点で
27	どのような点を改めたいと思えますか(行刑に対して) (イ) 処遇に関して (ロ) 刑務官に関して (ハ) 其他の点で
28	1) 今 被害者に対して何か感じていますか (イ) 感じている (ロ) 感じていない 2) (イ) それをどんな感じですか (ロ) 入所中と気持が変りましたか
29	出所後は法律。犯罪。刑罰というものを何とも思わぬようになりませんでしたか
30	1) また罪を犯したいような気持にかられたことはありましたか (イ) ある (ロ) ない 2) それをどんな場合でしたか 3) その気持を抑えて罪を犯さないように仕向けたものは何でしたか
31	1) 生活の上で責任感もなくなり、自暴自棄になるようなことはありませんでしたか (イ) ある (ロ) ない 2) そんなどんな場合でしたか 3) その気持を抑えて罪を犯さないように仕向けたものは何でしたか
32	1) 将来どういう生活をしてみたいと思えますか 2) そのためあなたはどうしようと思えますか 3) 家族の方其他についてはどんな希望をお持ちですか (イ) 妻には (ロ) 両親には (ハ) 子供には (ニ) 親族には (ホ) 友人には
33	1) 参考までに最近の御感想をおきかせ下さい 2) 入所した人が再犯しないようにするにはどうしたらよいか、あなたの御経験からおきかせ下さい

第二表 その2 調査票の Instruction

新春と失によいよ御清察のことと存じます。さて突然ですが、当研究会（昭和23年9月発足）では、今後、社会問題研究の一つとしてどのような場合にすれば再犯を防止することができるかということとを題目として広く調査を実施することになりました。つきましては、皆様のように原華故で居られる人々の尊い御経験からこそ教えられる点が多いと存じますので、御多忙中御手数をかけて恐縮ですが、左記調査目的と御理解下されて御協力願えれば幸甚に存じます。

昭和 年 月 日

ケースワーク研究会

記

1. あなた以外の他の多くの人の再犯防止に役立つような対策をたてるための参考として調査をするので、官憲的な取締りの目的で行うものではありません。
2. 調査表からあなたへの不利になるような情報と利用したりするようない心配は絶対にはありません。即ち、多数の例から全体としての傾向を見出すために行うのですから、差がどうしたというような人の姓名や経歴等は一切表面に出しません。勿論、そのような事例と新聞や雑誌に出すようなことは致しません。
3. この研究会は、寧ろ、社会に役立つような調査研究を目的とし、政治的意図は持っておりません。
4. これに回答されるかどうかは、勿論、強制的なものではありませんが、あなたの任意ですが、もし御協力の御意志がありましたら、御自身で御記入の上、できるだけ早く（二月末日までに到着するよう）御回答をお願いします。御協力の御意志がなければ、此の調査票は御焼却下さい。

調査表の書き入れかた

- 1) 一問題についていろいろ回答のある中から、一番おて付まる処所に○印をつけて下さい。
こたえ
- 2) 敬告事項のないときは で清して下さい。
おてはまること
- 3) のところば、自由に書き入れて下さい。

例

(次の問題に対して、出所後結婚した人の場合)

- 1) あなたは結婚して居ますか
イ. 有る ロ. 有るや
- 2) 入所前からですか、出所後ですか
イ. 入所前 ロ. 出所後
- 3) 入所したことが結婚生活にどのような影響を及ぼしましたか
かえって愛情が増しました。

假 釋 放 審 査 票

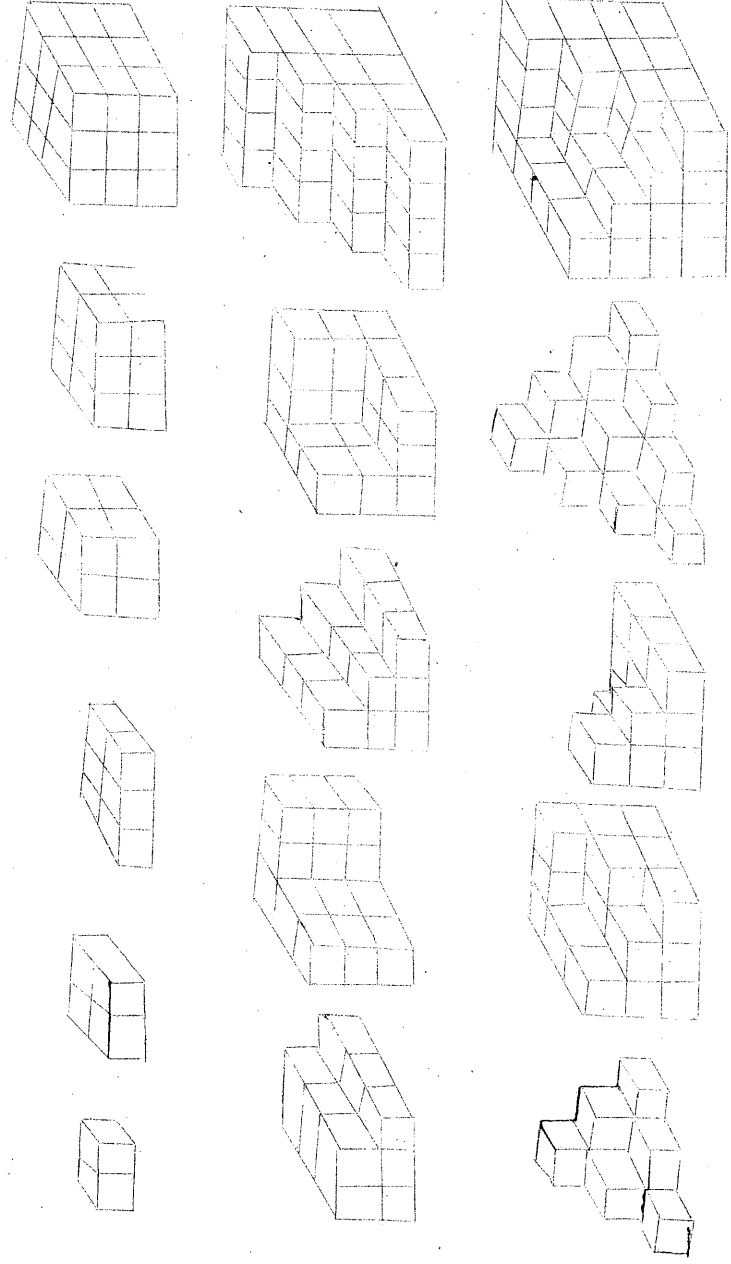
番

罪名 犯数	犯 入	刑名 刑期	懲役 重労働	年 月	刑の起算日 刑の終了日	昭和 西和	昭和 西和	限級状 応当日	昭和 西和		
									年	月	日
再犯素地	調査項目	呂等 得点	呂等 得点	時 3	然 2	不明 1	否 0	特 3	然 2	不明 1	否 0
浮浪者、取柄汚り歩き、不規則労働											
ヤクザ(テモヤマ、不良少年、飲客、ぐれんたいい)											
不良教育歴											
酒癖、女色、耽溺、浪費性、利慾											
犯罪の動機性、濃微性、巧妙性、餘罪隠蔽											
早期犯罪(12才頃より)											
非行の発展性											
教地方に跨る犯行											
三犯以上の犯数											
罪質の累犯性(殊に窃盗、強盗、持銃、恐喝、賭博)											
遺伝的負因あり											
発育不良等の他身体的欠陥											
慢性疾患											
知能得点(少年 C以下 青年 D以下)											
向性指数 160以上 60以下											
低格欲候	感情(壓迫動搖其他)照情性										
低格欲候	意志(不定懦弱其他)										
低格欲候	自現(柔軟頭示脆弱其他)										
職心、熱性欠病、其の他の疾病による性格異常の 変質性											
無技能者(自力生活能力乏しき者)未熟労働者											
学業及職業訓練	可以下										
自覚性	独立上 可以下										
克己心	責任感 可以下										
友誼	協同心 可以下										
敬虔なる態度及宗教心の欠如											
再犯素地合計	点	各得点計									
難点比率	甲条件	乙条件	丙条件	満期	再審査						
	復讐社会犯困性合計	点	各得点計								

特記事項 (備考、特に強調すべき點は別所には赤字を引くこと)

テスト 1

こよりぬかざらいで →



テスト 2

×	×	×	×	×	×
1	2	3	4	5	6

こよりぬかざらいで →



This is an issue of the projected series of reports entitled "The Research Report of the . S. M." "The Research Report of the . S. M." publishes the reports of researches done in the application of Statistical Mathematics such as initial preparations, study designs, practical procedures and handling of data.

The series aims to be beneficial not only for the theoretical workers, but for research workers who are engaged in the practical problems of surveying, analysis and so on.

Editor	Chikio Hayashi
Published by	The Institute of Statistical Mathematics 10, Sangenjaya-cho, Setagaya-ku, Tokyo
Printed by	Sobunsha Co. 13, Takata-toyokawa-cho, Bunkyo-ku, Tokyo

The Research Report of the I.S.M.

Number 7

Statistico-Mathematical Methods
in Parole Prediction
II

February 1952

The Institute of Statistical Mathematics
10, Sangenjaya-cho, Setagaya-ku, Tokyo